

平成 21 年度林野庁補助事業

合法性等の証明された木材の普及促進事業のうち  
合法性等の証明された木材・木材製品普及拡大事業

# 中国における合法性証明制度の実態調査 報告書

平成 22 年 3 月

特定非営利活動法人  
国際環境 NGO FoE Japan

## 目次

### はじめに

#### 第1部 中国の森林・林業・木材産業の現状

1.1	中国の森林資源と林業	1
1.1.1	第7次全国森林精査	1
1.1.2	中国林業の概況	3
1.1.3	中国の林業行政	4
1.2	2008年の中国林業産業の発展	5
1.2.1	2008年の中国林業産業の概況	6
1.2.2	2008年における区域ごとの林業の状況	9
1.3	中国の木材の需要と供給	13
1.3.1	中国の木材の需要と供給	13
1.3.2	木材の消費	15
1.3.3	木材品市場の需給の特徴	16
1.3.4	主要な林産品の価格	17
1.4	主要な林産品の輸出	18
1.4.1	基本的な情勢	18
1.4.2	木質林産品の輸出入	21
1.4.3	国際金融危機が中国の林産品輸出入に及ぼした影響及び対応	30
1.5	2009年上半期、中国の木材輸出入の状況	31
1.5.1	2009年上半期、林産品輸出入の形勢	31
1.5.2	2009年上半期、中国の木材市場の走勢の幾つかの特徴	31
1.6	日中木材・木製品貿易の現状	40
1.7	中国木材産業の分布	40
1.7.1	木質ボード産業の分布（主要な木質ボード産地）	40
1.7.2	家具産業の分布	43
1.8	木材産業の分布と木材流通	46
1.8.1	木材流通フロー	46
1.8.2	木材市場の機能	46
1.8.3	木材市場の分布	47
1.8.4	都市周辺の建材市場	54
1.9	木材流通、加工に関わる行政制度	55
1.9.1	概要	55
1.9.2	林木伐採許可証、木材運輸許可証、木材経営加工許可証の発行に関する制度	56
1.10	中国の違法伐採と関連貿易の取り締まりについての態度と取った関連施策	60
1.11	中国の国内における違法伐採の現状統計	63

#### 第2部 中国における合法性木材流通に対する対応

2.1	中国森林認証体系の構築	65
2.2	森林認証モデル事業の実施状況	67
2.3	中国におけるFSC、PFC、FIPC認証の展開	76
2.3.1	FSC認証の進展	75
2.3.2	PEFC認証の進展	81
2.3.3	FIPC認証の進展	83
2.4	中国におけるCoC認証取得企業の事例	85

### まとめ

## はじめに

本報告書は、平成 21 年度「合法性等の証明された木材の普及促進事業のうち合法性等の証明された木材・木材製品普及拡大事業」における「中国における合法性証明制度の実態調査報告書」である。

速い速度で経済成長を続ける中国の木材消費は、2008 年、およそ 3 億 7,132 万立方メートルに達し、サブプライムローンや世界金融危機の影響はあったけれども巨大な木材消費国であることは変わらない。2008 年度、中国の木材自給率は約 58.2%であり、不足する林産物需要に対しては輸入に依存しており、世界の木材資源の供給・流通構造に大きな影響を与えている。中国は木材製品の大輸出国であり、拡大する内需とともに木材需要の相当部分を構成している。

日本にとっては、中国は第 1 の木材製品貿易相手国であり、中国にとっても我国は第 2 の輸出相手国である。世界的に違法伐採材を排除し、合法的木材供給と持続可能な森林経営を推進する観点から、中国の森林・林業・木材産業の動向は常に関心を払っていく必要がある。本調査報告書は激動する中国の森林・林業・木材産業の動向を理解することを目的とし、主として森林認証、生産流通管理認証 CoC の観点から調査・考察を行ったものである。

本事業は、平成 19 年度～20 年度に林野庁受託事業として（社）全国木材組合連合会・木材利用推進中央協議会が 3 年間実施した先行事業をベースに、新たに FoE Japan が実施するものであり、先行する 3 年間の事業報告書を併わせて参照していただきたい。

調査は FoE Japan 客員研究員、林良興博士（中国林科院客員教授、森林総合研究所、全木連）が全体の企画・取りまとめと第 1 部の調査執筆、第 2 部の中国森林認証制度の構築等の項目を、中国林業科学研究院国際部長陸文明教授及び同林業科学情報研究所副所長王登挙博士が共同で調査取りまとめを行った。

調査にあたり、多くの現地企業、北京林業大学及び森林総合研究所、神奈川県環境センター等の方々にお世話いただいた。記して感謝申し上げます。

本報告書が日中木材貿易の理解と発展、我国の木材産業、林業・木材行政に役立つことを切望する。

平成 22 年 3 月

国際環境 NGO FoE Japan  
代表理事 ランダル・ヘルテン

# 第1部 中国の森林・林業・木材産業の現状

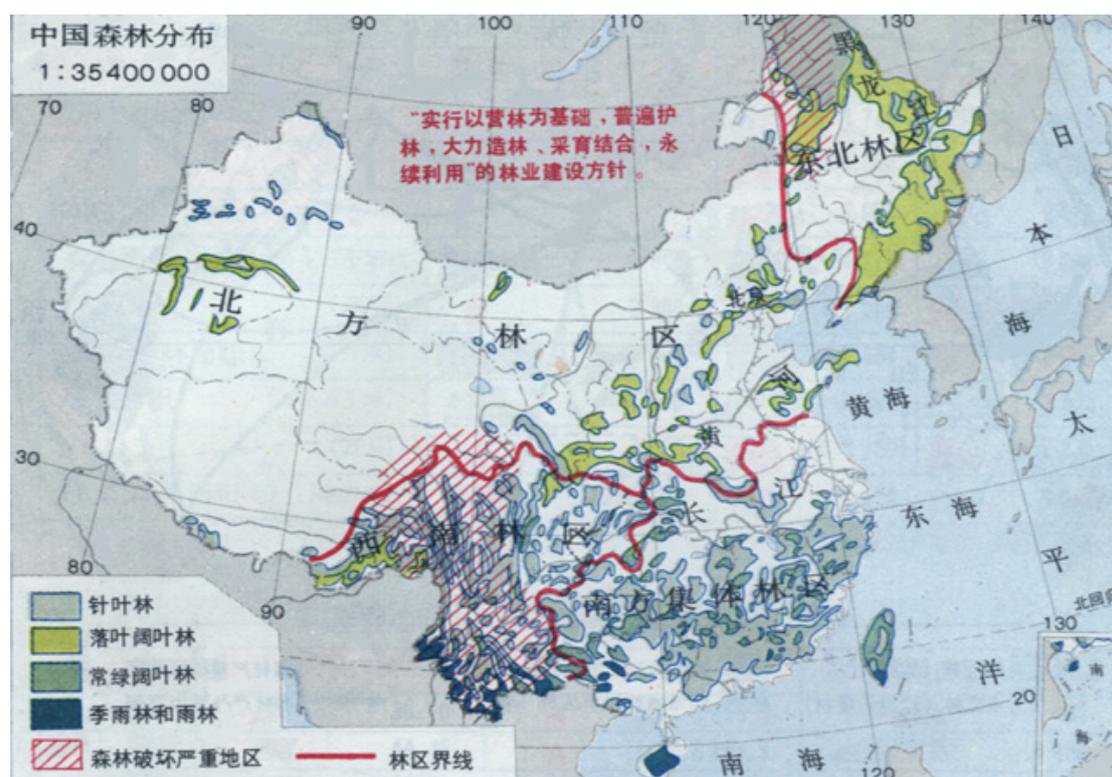
## 1.1 中国の森林資源と林業

### 1.1.1 第7次全国森林精査

中国の国土面積は9億6037万ha余り(960,371,600ha)(図-1)、この国土を覆う森林は1949年新中国建国時には8.6%であったが、2009年11月に発表された、第7次全国森林調査の結果では、森林被覆率は20.36%で、建国時より2.37倍まで広がった。

2003年国務院が決定した9号文献は、国家が林業の発展を加速させることを決定した重要文献である。これは、中国林業関係の専門家を総結集して成立した21世紀半ばまでの中国の林業発展戦略を示した報告である。(中国の持続可能な発展のための林業戦略研究)。この戦略では、全国の森林被覆率を2010年19%以上、2020年23%以上、2050年には26%以上を達成する目標が掲げられている。第7次調査の結果は、計画より早く目標を達成したと表明している。

図-1 中国の森林分布と林区



### 中国が発表した第7回森林資源調査の結果

2009年11月17日、国務院新聞弁公室はニュース発表会を開催、国家林業局長賈治邦が第7次(回)全国森林資源調査の結果を発表した。

第7次全国森林資源調査は2004年に開始し、5年間をかけて2008年に終了。今回の調査に係わった人員は2万余人、国際的に公認の“森林資源連続調査”法を採用し、数理統

計の抽出理論を用いて、省（区、市）を単位として調査を進めた。全国で固定調査値 41.5 万箇所を実測し、リモートセンシングで判読したプロット 284.44 万箇所、取得したデータセット 1.6 億セット、数値は森林資源量、質、構造、分布の現状と動態、更に、森林生態状況と森林の機能・公益等の多方面に涉っている。

今回発表されたのは調査結果の概要でのみであるが、その内容を以下の表-1 に示す。

表-1 2009 年 11 月発表の第 7 次全国森林調査結果

2009 年 11 月発表の第 7 次全国森林調査結果		
項目	数 値	第 6 次調査からの増加値
全国森林面積	1.95 億 ha、	2054.3 万 ha
森林カバー率	20.36%	2.15%
生立木総蓄積	149.13 億 m <sup>3</sup>	
森林蓄積	137.21 億 m <sup>3</sup>	11.23 億 m <sup>3</sup> ：年平均純増量 2.25m <sup>3</sup>
天然林面積	1.2 億 ha	393.05 万 m <sup>3</sup>
人工林保存面積	0.62 億 ha	6.76 億 m <sup>3</sup>
人工林蓄積	19.61 億 m <sup>3</sup>	4.47 億 m <sup>3</sup>
未成林造林面積 その内、高木林 樹種面積	1046.18 万 ha 637.01 万 ha、	30.17%。

第 7 次全国森林資源調査と第 6 次調査を比較すると、以下の結果になる：

森林面積は新たに 2054.3 万 ha 増加し、全国森林カバー率が 2.15%増加した。森林蓄積は 11.23 億 m<sup>3</sup> 純増し、年平均純増量：2.25m<sup>3</sup>/ha になった。天然林面積が新たに、393.05 万 m<sup>3</sup> 純増し、天然林の蓄積は 6.76 億 m<sup>3</sup> 増加した。人工林面積は 843.11 万 ha 増加し、人工林蓄積は 4.47 億 m<sup>3</sup> 純増した。未成林造林地面積は 1046.18 万 ha で、その内高木林樹種面積 637.01 万 ha、その増加率 30.17%である。

此の発表会で、賈治邦局長は以下のコメントを述べた；

第 7 次全国森林資源調査の結果は、中国の森林資源が速やかな発展期に進出し、党中央、國務院が確立した林業発展戦略を柱として採用した一連の重大施策措置は大きな成果と成功を収めた。“胡錦濤主席が提出した森林面積を 2005 年に比べ 2020 年までに 4000 万 ha 増やし、森林蓄積の 13 億 m<sup>3</sup> 増加を獲得するという“雄壯、壯大な目標の実現を確保するために、国家林業局はこれからも更に一步前進して科学的發展觀を確実に実現し、「興森富民」の宗旨を堅持し、生態文明の建設をめぐる堅固に造林緑化の隊伍の足並みをそろえ、全面的に森林經營を推進し、森林資源保護にいっそう力を注ぎ、森林総量の増加に力を注ぎ、森林の質を高め、森林機能を増強し、国家の生態安全を維持保護するため、グローバルな氣候変動に対応し、多大な貢獻を成し遂げる。(SINO-RCETFOR 時間：2009-11-23)

今回の森林調査結果について、中国国家林業局林産品貿易研究センターの研究者は、その特徴を以下のように指摘している。(研究報告：第七次清查反映出我国森林资源变化特征；SINO-RCETFOR、2009-11-23)

第7次森林精査の結果は中国における森林資源の変化の特徴を映し出している。①森林資源総量では林地面積、森林面積、及び森林蓄積の“3つの増加”を提示している。②集団所有林の経営主体は多元化し、個人経営造林は普遍化し、商品林経営の個人経営化の“3変化”を現している。③造林緑化では新たに成立した林地面積（量）が増加し、人工林の割合が増え、公益林造林の割合も増え“3つの向上”が提示された。④林木の伐採は、天然保護プロジェクト区から非天然保護プロジェクト区へ、国有林から集団林へ、天然林から人工林へと“3つの転換”が呈示された。⑤森林構造は林種構造、樹齡構造、樹種構造の“3つに改善”が明らかにされた。

中国の全国森林調査は、1973年から開始され、今回で第7回が終了した。第1回調査からの第7回までの中国の森林変遷を表-2に示す。

表-2 中国の全国森林調査の概況

調査時期	森林面積 (万 ha)	森林蓄積 (万 m <sup>3</sup> )	森林カバー率 (%)
第1次(1973~1976年)	12186.0	865579.0	12.70
第2次(1977~1981年)	11527.7	902795.3	12.00
第3次(1984~1988年)	12465.3	914107.6	12.98
第4次(1989~1993年)	13370.4	1013700.0	13.92
第5次(1994~1998年)	15894.1	1126659.1	16.55
第6次(1999~2003年)	17490.9	1245584.6	18.21
第7次(2004~2008年)	19500.0	1372100.0	20.36

・30年間に森林蓄積は85%増加；森林カバー率は8ポイント増加；森林面積は70%増加し、この中で人工林増加率は100%。（出典：歴年の中国林業統計年鑑、歴年の中国林業発展報告など）

### 1.1.2 中国林業の概況

・全国の森林面積は1.95億ha、森林カバー率は20.36%、森林蓄積137.21億m<sup>3</sup>。人工林面積は0.62億ha、人工林蓄積19.61億m<sup>3</sup>で、人工林面積は引き続き世界の首位を保持している。

第7次調査に見られる森林資源状況の特徴的变化

- 1) 森林面積、森林蓄積が引き続いて増加；森林面積の純増2054.30万ha、全国の森林カバー率は第6次調査18.21%から第7次調査20.36%で、2.15ポイント増加。森林蓄積は11.23億m<sup>3</sup>の純増で、年平均増加率は2.25億m<sup>3</sup>、成長量増加、消費量は抑制を継続。
- 2) 天然林面積、蓄積とも明らかに増加；天然林面積の純増393.05万m<sup>3</sup>、天然林蓄積の純増6.78億m<sup>3</sup>。天然林保護プロジェクト区域、天然林面積は第6次調査に比べ26.37%増え、天然林蓄積の純増量は第6次より2.23倍大きくなった。
- 3) 人工林資源は快速に増加；人工林面積は第6次より843.11万ha純増。人工林蓄積の増加量は4.47億m<sup>3</sup>、未成林造林面積は1046.18万haで、今後、森林資源が増加する趨勢を示している。
- 4) 森林の質が向上；高木林の単位面積当たりの蓄積量が1.15m<sup>3</sup>増加、haあたり年平均成長量は0.30m<sup>3</sup>増加し、ヘクタールあたりの立木本数は57本増加、混交林の割合が9.17ポイント増加し、有林地の中の公益林面積は52.41%拡大し、増加率は15.64ポイントに達し、森林の齡級組成、構造、樹種構成に良好な変化が生じている。

5) 森林伐採が、徐々に人工林に向かって転移している。：天然林伐採量が低下し、人工林伐採量が上昇している。人工林伐採量は全国の森林伐採量の 39.44%を占め、12.27 ポイント増加した。木材の伐採が天然林主体から人工林主体へと戦略的に転換していくことが徐々に推進されつつある。

6) 個体（個人、企業）が森林経営を行う面積の割合が明らかに上昇：集体林の権利制度改革が推進されるに従って、有林地の中の個体経営面積の割合が 11.39 ポイント上昇し、32.08%に達した。個体経営の人工林、未成林造林地の割合がそれぞれ 59.21%および 68.51%を占めた。既に、農家個体が経営の主体となって、中国の林業経営の骨格を形成する力量があることが示されている。

### 1.1.3 中国の林業行政

中国林業行政の概要を述べる。

此の項目に関しては、先行する本調査事業である、社団法人全国木材組合連合会：平成 19 年度「中国における合法性証明制度の実態調査報告書」に詳述しているので、参照されたい。(http://www.goho-wood.jp/kyougikai/pdf/h19report-2-1-4.pdf)

中国の国土は社会主義公有制で、全人民所有（国有）と労働大衆集団（集体）所有の 2 つの所有形式に分けられ、総ての森林用地も国有林と集団所有林（集体林）に属する。土地使用は国が編成した「土地利用の総合計画」に基づき区分され、森林用地もこの中で規定されている。国有地の管理経営権限は国務院が国を代表して行使し、具体的な行政は県以上の地方行政機関が実行している。国有地の使用は、機関、企業或いは個人に請け負わせることができるが、その請負者は法律により県以上の人民政府から「使用权」の獲得と「国有地使用权証明書」を得なければならない。農村集団（集体）所有の土地の場合は県以上の人民政府で登録し、「土地所有権の証明書」の発行、「使用权」の確認を行う。使用权は村、郷鎮の人民委員会が行使し、土地の経営を集団構成員に請け負わせることもできる。

森林は土地に依存する自然資源なので、その所有形式は国有林と集団（集体）林の 2 形式である。第 6 次全国森林調査では、国有林総面積は 7334.33 万 ha（全国森林面積に 41.9%）、集体林の面積は 9944.37 万 ha（同、56.8%）である。

中国全土の森林の管理、経営、林業産業は、「中華人民共和国森林法」（1998 年改定）、「森林法实施条例」、「森林伐採更新管理規定」などによって統治されている。森林行政主管部門は国務院で、国家林業局が直轄機関として全国の森林行政を主管している。各省（自治区、特別市）には林業庁（局）があり、県には林業局が設置されて、当該地域の林業行政を統括する。郷村人民政府には林業行政担当者が配置されている。

国家林業局は国の林業行政管理権限を行使する最高の林業主管部門であり、造林、森林管理、野生動植物管理等のそれぞれの行政分野を主管する 9 部門（司）と、国有林場、種苗管理、郷村林業管理、資金管理、木材産業管理、木材産業管理、重点プロジェクト管理など個別行政を統括する弁公室、管理ステーション、局、センターが設置されている。

森林は、森林法の規定で、集団や個人にその使用权を請負い形式で与えることができる。林地、草原、水面などの使用权は森林法、草原法、漁業法に従う。請負使用权の期限は、耕地 30 年、草地 30 から 50 年、林地は 30 年から 70 年であるが、延長および権利を家族により相続することも認められている。林業用地、森林、林木は法律に従って、所有形式により、それぞれ、各級の行政組織においてその使用权および所有権を登録し確認の上、証明書が交付されなければならない。

国有林は東北地方（黒竜江省、内モンゴ、吉林）、西南地方（雲南、四川）、と西北の一部

地方（陝西、山西、新疆など）に分布している。集体林は中国南部～南西部（福建、湖北、湖南、江西、広東、広西など）に多い。国有林は国土保全、生態系保全、木材生産など国の基本的な構造を担っている。その経営は、計画経済時代はすべて国営であったが、現在では、国有林改革の中で企業化されている。国有林経営は、国有森林工業・林業集団、国有林業局、国有林場などで経営管理されている。4大森林工業集団（大興安嶺林業集団公司、竜江森工業集団、内モンゴ森工集団、吉林森工集団）、135の国有森工業局、20の重点営林局、4466の国有林場がある。これらの組織体は、国家林業局直轄の大興安嶺林業集団公司、中央所属であるが管理は省が行う竜江森工業集団（黒竜江）、内モンゴ森工集団、吉林森工集団、および、省に所属する林業工業局、県に属する国有林場で構成されている。これらの集団、機関内部、林場は企業化により運営されている。

中国では、2008年の長江大洪水を経験して、1970年代から続いていた北方中国の緑の長城建設プロジェクトなどを再編成し、天然林保護プロジェクトなど6つの重大林業プロジェクトを開始した（実施期間2001～2010年）。(1)天然林保護プロジェクト（1998年から試行、2000年から本施行）、(2)「三北」および長江中下流域重点保護プロジェクト、(3)退耕還林還草プロジェクト、(4)北京・天津を取りまく地域の砂漠化防止プロジェクト、(5)野生動植物保護・自然保護区建設プロジェクト、(7)重点地区の早生造林樹豊作用材林基地建設プロジェクトである。最近ではさらに湿地保護プロジェクトも組み入れられた。

中国の森林は森林法で用途区分されている：①防護林（第6次調査：5474.63万ha）、②用材林（同：7862.58万ha）、③経済林（同：2139.00万ha）、④薪炭林（同：303.44万ha）、⑤特殊用途林（同：638.02万ha）である。中国は林業経営に分類経営を取り入れ、環境・生態保護に関わる上記の(1)～(5)、①、⑤には保護を優先し、公的資金により一定の補償を与え、用材生産等の経済的用途の森林経営は企業的経営を強化する政策をとっている。

また、近年、林業経営の2大改革が進められている。1つは国有林の管理体制改革である。2つは集体林権改革である。前者は、計画経済時代の国有林場が社会主義市場経済方式になり企業化をベースに変革されたにもかかわらず、旧時代の国有林経営を引きずったまま、企業集団である林工集団が、企業でありながら政府を代表して森林資源管理を主管しており、企業が地域行政と不分離で、地域社会インフラ、行政経費を負担して、企業としての経営が確立されていない。森林資源の所有権を整理し、企業経営と地域行政を分離し、参加企業のリストラ、労働契約関係の整理、国有資本の撤廃等、民営企業としての経営を確立することである。

集体林権利改革は、中国の歴史的な変遷を経て、錯綜した集団、個人の森林土地、林木の所有権を整理、調整し、2004年、憲法に新規に保障された個人財産権、市場経済体制における林業の企業化の促進、林業を活性化、農民の森林経営意欲の喚起などを意図したものである。山西省、福建省などで先進的に進められている。

## 1.2 2008年の中国林業産業の発展

2008年に中国の林業と林産業は雨雪凍害の災害、四川省汶川（wenchuan）の特大的震災、リーマンショックに端を発する国際金融危機の影響を受け、輸出のみでなく国内林産業は大きな打撃を受けた。また、木材加工業はこれらの影響と共に、ロシア材原木の関税率引き上げに大きな影響を受けた。これに関しては別項で述べる。大勢として、林業産業全体は順調な発展をしている。（主として2009中国林業発展報告、歴年中国林業発展報告による）

## 1.2.1 2008年の中国林業産業の概況

### 1) 林業産業の総生産額

歴年の中国林業の総生産額を表-3に示す。2008年、一年間の林業総生産額14,406億4100万元（原価計算）で、2007年比1,872.99億元、増加率14.94%（表-3）

表-3 歴年の中国林業生産額の推移

年 度	生産額（億元）	増加額（億元）	成長率%
2008	14406	1873	14.9
2007	12533	1981	18.6
2006	10652	2193	25.9
2005	8459	1567	22.7
2004	6892	1032	17.6
2003	5860	1226	20.9
2002	4634	544	13.3
2001	4090	1535	43.2
2000	3555	367	11.5
1999	3188		

産業構造別にみると、

第1次産業生産額6,358.82億元、林業産業生産総額の44.14%、前年比14.65%増加、  
第2次産業生産額6,838.25億元、産業中占有47.47%、前年比13.33%増加、  
第3次産業生産額1,209.32億元、産業中占有率8.39%、同8.39%増加

地域別にみると林業産業が発展した地域は、全体の経済レベルが発展した区域と整合し、東・中部地区の発展が比較的顕著な特徴がある。

1000億元を超える省：広東省、福建省、浙江省

500億元を超える省・自治区：江蘇省、山東省、四川省、江西省、湖南省、広西壮族自治区、河北省、遼寧省、吉林省、河南省

広東省、福建省、浙江省の3省の林業産業生産額は、いずれも1000億元以上を超えている。江蘇省、山東省、四川省、江西省、湖南省、広西壮族自治区、河北省、遼寧省、吉林省、河南省の10省（自治区）は500億元を超過した。以上の13省で全林業産業生産総額の3/4強を占める。

### 2) 林業の産業構造の概要

林業の第1、2、3次産業の産業構造による生産額の比率は、2007年が44.25：48.14：7.61の構造であったが、2008年は、44.14：47.47：8.39となった。第1、2次産業の比率がいくらか下降し、第3次産業部分がやや上昇した。（表-4）。林業林産総生産額の全体を見ると、林産業の生産額が主体で、94.93%を占め、非林産業はわずかに5.07%を占めるのみである。林業の1、2、3次産業の構造の中身を見ると（表-4）、1、2、3次産業のどの分野でも林産と非林産の割合は、95.58：4.42、97：51：2.49、76.84：23.16、林業第3次産業の非林産業の割合が高い。

表－４ 林業の産業構造野による生産額の比率

年次生産総額	第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業	林業：林産比率
2007 (14406 億元)	44. 25	48. 14	7. 61	
2008 (12533 億元)	44. 14	47. 47	8. 39	94. 93%：5. 07%

**(1) 経済林経営と採集業の生産額が林業 1 次産業生産額の半分以上占める：**

林業の 1、2、3 次産業の中で、林業全体に涉ってトップ産業の産業構造に与える影響がより強まっている。全国の総生産額の中で、乾果、鮮果、茶、中国薬材、及び森林食品等経済林の製品の種類・植物と採集林産物の生産額が 3,456.34 億元に達し、2007 年に比べ 12.62%増加し、林業 1 次産業生産額の 54.36%；次に林木の育成と種苗・種植業で産額は 1,064.09 億元、全体中の割合は 16.73%；木材・竹材伐採運業 814.36 億元、12.81%；花卉の種・植栽業 530.78 億元、8.35%；陸生野生動物繁殖と利用業 130.77 億元、2.06%、林業生産補助業務 81.64%、1.28%。

**(2) 木材加工及び木、竹製品製造業は林業第 2 次産業の主要部分：**

2008 年、木材加工及び木、竹製品製造業の生産額は[3,232.33 億元に到達、2007 年比、8.07%で、林業第 2 次産業の生産額に占める割合は 47.27%。その他の主要産業は、木竹葦による製紙産業生産額が 1,179.37 億元、17.25%；木質、竹藤家具製造業 1,058.06 億元、15.47%；非木質林産品加製造業 574.82 億元、8.41%。

**(3) 森林観光・レジャーが林業第 3 次産業の支柱：**

2008 年、森林観光・レジャー産業の生産額は 689.64 億元、2007 年比 23.28%増加；林業第 3 次産業のなかで、57.03%を占める。其の他の主要な産業は、比率毎にみると；交通運輸、卸売・小売及び住宿飲食業を含めた非林産業 280.08 億元 23.16%；林業公共サービス管理 106.41 億元、8.80%；林業生態服務 96.10 億元、7.95%；林業專業服務 37.12 億元、3.07%。

以上の 3 つのトップ産業の生産額は第 1 次、2 次、3 次の割合では、54.36%、47.27%、57.03%となり、林業生産額の中では突出して貢献している。

**(4) 経済林、竹、花卉産業**

2008 年、経済林（果樹、薬木、油料木、特用樹種など、用材以外の樹種による収益林）の新増加面積は、85.08 万 ha、前年比 77.83%増加。各種類の経済林生産量は 1.11 億トン。果実の生産量は 9,815 万トン、前年比 0.96%、このうち、リンゴ、カンキツ類及びナシは、それぞれ、2,801 万トン、2,060 万トン、及び 1,329 万トン。乾燥果物生産量 534 万トン、前年比 11.18%増加；林産飲料製品 133 万トン、前年比、24.35%増加；林産調味料 43 万トン、同 8.38%増加；林産工業原料 134 万トン、前年比▼17.64%減少；木本油料 105 万トン、その中で油茶種子が 94.34%を占める；乾燥タケノコ、食用菌類等の林産食品 282 万トン、木本薬材の生産量は 95 万トン。

2008 年、竹材の生産量は 12.62 億本、前年比▼9.69%減少；そのうちモウソウチク 8.60 億本（全体の 68.12%）さお竹 4.02 億本（同 31.88%）；村及び村以下の各級の組織と農民は竹材生産の主要な担い手で、全体の 80.42%、10.15 億本を生産。

改革開放 30 年を経て発展し、中国はすでに世界の花卉植栽面積が最大の国家で、花卉産業の地域配置は基本的に形成され、流通ネットは初歩的に形成され、品質の効益は急速に上昇している。栽培している品種は 90 以上が国家の新品種登録で保護している。2008

年末、まだ実用になっていない植栽面積は 53.64 万 ha；切り花切り枝 117 億本、盆栽 20 億鉢、観賞苗木 42 億株；芝生 1.98 億 m<sup>2</sup>、一定以上の規模の市場 3000 以上ある。花卉産業の企業 3 万以上。うち、大中花卉企業 6000 以上。花卉業従業員 370 万人。農家 108 万戸、恒温温室 2242 万 m<sup>2</sup>、及び太陽熱ハウス 10370 万 m<sup>2</sup>。

### (5) 木材生産及び林産工業

木材生産量の成長幅は比較的大きい。2008 年；全国の木材総生産量 8108.34 万 m<sup>3</sup>、200 年比年率で +16.22% 増加し、史上最高水準。増加した主な原因は 2 つの自然災害の影響があげられ、災害を受けた森林の整理と災害後の復興用資材のためで、木材生産量の増加した省・自治区は広西省、湖南省、四川省、江西省、浙江省、貴州省である。

木材生産品構成から見ると、原木生産量 7357.32 万 m<sup>3</sup>、前年比 +13.33% 増加、燃料材生産量 751.02 万 m<sup>3</sup>、前年比 +54.98% 増加。

木材生産組織から見ると(表-5)、林業系統内の木材生産、2863.78 万 m<sup>3</sup>、前年比 +5.98%、木材総生産量の 35.32%、その内で系統内国有林場の事業体が生産した木材は 1,435.43 万 m<sup>3</sup>；系統外企業、事業体が生産した自営林地の木材 255.17 万 m<sup>3</sup>、前年比減少、-7.63%、木材総生産量の 3.15%、郷鎮集体企業及び事業体の生産量 440.99 万 m<sup>3</sup>、前年比 +18.91% 増加、木材総生産量の 5.44%。村及び村以下の組織と農民個人の生産量は 4548.40 万 m<sup>3</sup>、前年比 +25.40% 増加、木材総生産量の 56.10%。

表-5 木材生産量と生産事業体の関係

生産事業体の種類	生産量 (万 m <sup>3</sup> )	総生産量に占める比率 (%)
林業系統内 (うち国有林場事業体)	2863.78 (1435.43)	35.32 (17.70)
林業系統以外の企業・事業体	255.17	3.15
郷鎮集体企業・事業体	440.99	5.44
村・村以下の組織・農民個人	4548.40	56.10
全国総生産量	8108.34	100.01

### (6) 製材品生産量の増加はゆるやか

2008 年、全国の製材品総生産量は 2840.95 万 m<sup>3</sup>、2007 年比 0.42% の増加率で、ほとんど前年と変わりなかった。その内、熱帯材の製材品生産量は 125.51 万 m<sup>3</sup>、全製材品生産量の 4.49% であった。

### (7) 木質ボード生産量の成長は緩やか。

2008 年、中国の全ての種類の木質ボード総生産量は 9409.95 万 m<sup>3</sup> に達した。2007 年比 +6.46%、増加速度は幾らか緩やかであった。その中で、熱帯木質ボード生産量は 89.00 万 m<sup>3</sup> で、全木質ボード産量の 0.95% のみであった。木質ボードの中で、合板 3540.86 万 m<sup>3</sup> (前年比、▼0.58%)、全木質ボード産量の 37.63%、繊維板 2906.56 万 m<sup>3</sup> (前年比、6.47%)、全木質ボード産量の 30.39%、この中で MDF 3740.52 万 m<sup>3</sup>、パーティクルボード (PB) 1142.23 万 m<sup>3</sup> (前年比、37.77%)、全木質ボード産量に占める割合は 12.14%、その他の木質ボード 1820.29 万 m<sup>3</sup> (ランバーコアが 71.67% を占める)、前年比 5.95% の増加で、全木質ボード産量の 19.34% になる。この他、木質ボード表面化粧板 2.27 億 m<sup>2</sup>、単板 2284 万

m<sup>2</sup> が生産された。(後出、1999-2008 年 (3 板) の生産割合の推移参照)。

**(8)木質ボード生産地区の分布**をみると、依然として東部地区の、江蘇省、山東省、河北省、広西自治区、福建省、安徽省、広東省、浙江省の 8 省・自治区に集中しており、いずれも生産量 500 万 m<sup>3</sup> を超過し、木質ボードの生産量は 6998.69 万 m<sup>3</sup> で、全国の生産量の 74.38%を占め、その中で、江蘇省と山東省の木質ボード生産が 1 位と 2 位で、1000 万 m<sup>3</sup> 以上である (後出、木質ボード産業の分布を参照)。

#### **(9)フローリング生産量は安定的に推移**

2008 年、全種のフローリング総生産量は 3.77 億 m<sup>2</sup> (前年比+9.74%)。木製フローリング生産量の中で、ムク材フローリング 1.23 億 m<sup>2</sup> (全木質フローリング産量の 32.69%) ; ムク材複合フローリング 7903 万 m<sup>2</sup> (同 20.97%) ; 竹木複合フローリング 1368 万 m<sup>2</sup> (同 3.63%)、木造フローリング生産の最大産地は浙江省で、生産量は 6639 万 m<sup>2</sup> に達する。

#### **(10)木製家具の生産量は増加**

2008 年、全国の木製家具総生産量は 1 億 8947 万件 (前年比、+8.47%)。

#### **(11)紙・パルプ生産量は引き続き増加**

2008 年、紙・板紙の総生産量は 7980 万トン (前年比、+8.57%) ; パルプ生産量 6415 万トン (8.09%) で、この内木材パルプ 672 万トン (前年比、+11.07%)。

#### **(12)林業化学製品 (成分利用型特用林産物) 生産量は明らかに減産**

年初の南方の雨氷雪災害の影響を受けて、幾つかの省・自治区は森林の保護と回復のため、収穫の禁止などの措置を行い、これに加えて、関係産業政策などの影響を受けて、林業化学製品 (成分利用型特用林産物) 生産量は明らかに減産となった。

2008 年、全国のマツヤニ生産量は 106.73 万トン (前年比、-9.82%) の減産。この中でロジン 94.56 万トン (前年比、▼10.93%減)、松香油 8.19 万トン (前年比、▼24.40%減)、タンニン 9.377 万トン (前年比、▼32.01%減)、シェラック 2891 トン (前年比、▼15.71%減)。

### **1.2.2 2008 年における区域ごとの林業の状況**

中国の林業行政区は、大きく 4 区に分けられる。1) 東部地区、2) 中部地区 3) 西部地区 4) 東北地区である (図-2)。2008 年における、4 地区の林業発展概要を表-3 に示し、以下に各地区ごとに説明する。(2009 年中国林業発展報告より要約)

#### **1) 東部地区** (北京、天津、河北、上海、江蘇、浙江、復権、山東、広東、海南) 10 省。

地区内の一人当たり平均 GDP3702 元 (前年 2007 年比、16.37%増加)、全国平均の 1.64 倍で、4 地区の首位。

1) 生態建設は緩やかに進捗し、造林は拡大、林業産業の建設の質は比較的高い。2008 年、区内の森林カバー率 32.44%、区内で完成した造林面積は全部で 71.70 万 ha、全国の造林完成総面積の 13.39%(前年比 30.88%増加重点)、重点プロジェクト造林面積 41.28 万 ha (前年比 59.69%増加) で、東部地区の造林総面積の 57.58%。区内の自然保護区は全部で 519 か所 (前年比 51 か所増加)、保護区の数は全国の 25.87%、面積では 396.95 万 ha

(前年比+3.43%)、全国の自然保護面積に占める割合は3.23%、国土面積の0.41%を占める。区内の林業系統の森林公園は959か所(前年比+47か所)、全国総数の42.12%；総面積267.69万ha(前年比+4.93%)、全国の森林公園面積の16.42%を占める、

表-6 各区域の林業の発展状況の要約

指標	全国	東部地区	中部地区	西部地区	東北地区
森林カバー率(%)	18.21	32.44	30.17	14.33	38.05
造林面積(ha/万人)	40.30	14.95	32.52	86.93	20.99
単位森林面積の産業生産額(元/ha)	8237	22916	9740	2981	5452
投資額(元/ha)	346	412	284	349	354
林業系統内従業員平均収入(元/年)	15701	24145	14766	16727	11514

・産業発展の地位は突出、供給能力増強、経済効果は顕著

区内の林業総生産額6811.98億元(前年比8.61%)全国の林業産業総生産額の47.28%、単位森林面積当たりの林業産業生産額は22916元/haで、全国の平均水準は8237元/haの2.80倍。木材生産量2031万m<sup>3</sup>を達成、全国の25.04%(前年比+16.24%)竹材生産量6.04億株(全国総生産量の47.89%)(前年比+7.28%)、製材生産量994.63万m<sup>3</sup>(全国製材総生産量の1/3、35.01%で2007年と基本的に同水準。木質ボード生産量5672.18万m<sup>3</sup>(全国の60.28%、2007年比0.59%増加)。

・投資は持続して上昇、地方投資の割合が大きい、労働者の収入のレベルは比較的高い。

2008年、区内の林業系統が実際に到達した位置は、各種類の建設資金総額263.16億元、全国の到達総額の26.14%、前年比15.98%の増加である。完成した林業固定資産投資額は161.75億元、前年比20.38%増加し、全国の固定資産投資総額の16.38%。林業用地面積の単位当たりの固定資産投資額は412元/ha、前年比20.42%増加した。区内の林業系統従業員数18.90万人で、全国の林業系統従業員総数の11.17%、前年比1642人減少(▼0.86%)、年平均賃金は24145元、これは全国の林業系統従業員の平均水準の1.54倍、前年にくらべ3289元増加、増加幅は15.77%。

2) 中部地区

2008年、中部地区(山西、河南、湖北、湖南、江西、安徽)6省の一人当たりのGDP生産額は17,817元、前年比21.24%増加。一人当たりのGDP生産額は全国平均より低く、全国平均の78.69%。中部地区は総体として経済の実力は東部において弱い。

・生態建設の強度は大きくなり造林は明らかに増え、投資効率は引き上げられた。

2008年、区内の森林カバー率は30.17%、年間に完成した造林総面積は115.35万haで、全国造林面積の21.55%(前年比21.55%)で、前年比65.21%増加した。区内の重点プロジェクトの造林総面積は53.29万haで、前年比25.87%増加した。重点プロジェクト造林は、中部地区の2008年の全造林面積の46.20%を占めた。

2008年までに区内の自然保護区は495か所になり、全国の保護区の数24.68%を占める。2007年より124か所増えた。面積は556.78万ha、前年比13.03%増加し、全国自然

保護区総面積の 4.53%、全国土面積の 0.58%になった。区内の林業系統の所有する森林公園は 485 か所あり、全国総数の 21.30%で、前年比 33 か所増加した。森林公園の総面積は 206,51 万 ha、全国の 12.67%を占め、前年比+3.50%になった。

・ **産業の発展ポテンシャルは顕在し、特徴は比較的顕著で、構造は引き続き改善。**

2008 年、区内の林業産業総生産額は 3019.76 億元、前年比 18.26%増加し、全国の林業総生産額の 20.96%を占めた。単位森林面積当たりの林業生産額は 9740 元/ha で、全国平均の 1.2 倍。林業ツーリズムとレジャーは 1.38 億人・回を受け入れたが、前年比 40.82%増加。ツーリズム収入は 221.17 億元、前年比 24.54%増加を達成。直接導出したその他の産業生産額は 544.97 億元、前年比▼0.42%)。

木材生産量 2,179 万 m<sup>3</sup>、前年比 13.49%増加、全国生産量の 26.87%。

竹材生産量 27,237 万株、前年比▼28.14%、全国竹材生産量の 21.58%を占める。

製材生産量 548.22 万 m<sup>3</sup>、前年比▼14.04%、全国製材生産量の 19.30%に相当した。

木質ボード生産量 1,917.43 万 m<sup>3</sup> で、前年比 25.88%増加。全国木質ボード生産量の 20.38%。

2008 年、区内の林業産業構造は、2007 年の一次産業 49.6%、二次産業 39.0%、三次産業 11.2%から、それぞれ、1 次 48.9% : 2 次 39.0%、3 次 12.1%に変化した。区内の林業産業値は、それぞれ全国の各産業値の 23.23%、17.20%、30.32%になる。

・ **投資は穏やかに上昇、単位当たりの投資水準は比較的低く、従業員の収入レベルは比較的低い。**

2008 年、区内の林業系統が達成した資金総額は 181.47 億元、前年比 51.47%、実際に実現した固定資産投資額は 128.85 億元 (前年比+33.49%)、全国総額の 13.05%。単位林業用地単位面積当たりの投資額は 284 元/ha (前年比+33.96%)。区内の林業系統産業従事者 21.81 万人、全国のその 16.30%で、2007 年に比べ、▼2,730 人 (▼1.24%) 減少した。林業系統の産業に従事する労働者の平均年収は 14,766 元/年、全国の同分野の平均の 94.04% (前年比、+2139 元、+16.94%) である。

### 3) 西部地区

2008 年、西部地区 (内モンゴ、広西、重慶、四川、貴州、雲南、チベット、陝西、甘肅、青海、寧夏、新疆) 12 省 (自治区、直轄市) の一人当たり平均 GDP 値は 15,951 元、前年比 22.00%増加、西部地区の一人当たりの生産総額は全国平均の僅かに 57.75%。西部地区の総体的経済実力は 4 地区の中で最も弱い。

・ **生態建設の任務は繁多で重大、造林規模は拡大、環境保護の力は増強された。**

2008 年、区内の森林カバー率は 14.33%になり、年内に完成した造林面積は 317.50 万 ha で、全国の造林総面積の 59.31%、2007 年比、34.46%増加した。重点プロジェクトの造林面積 218.37 万 ha で、前年比 28.03%増加した。重点プロジェクトによる造林は西部地区の全造林面積の約 68.78%になる。

2008 年までに区内の自然保護区は 786 か所、前年より 54 か所増加したが、これは全国の 39.18%を占める : 自然保護区の面積は 10,543.43 万 ha、前年比、0.28%増加したが、全国自然保護区の総面積の 85.86%を占め、国土面積の 10.98%になる。林業系統の所有する森林公園は全部で 616 か所あり、前年比 33 か所増え、全国総数の 27.05%になる。森林公園の総面積は 684.63 万 ha (前年比+1.62%)。

・産業の発展は持続的に加速し、生産額の増加は顕著で、産業の地位は重要である。

2008年、区内の林業総生産額は2,940.17億円で、前年比16.57%増加し、全国林業総生産額の20.41%を占める。単位面積当たりの林業産業生産額は2,981元/haで、全国平均の僅かに36.19%と少ない。

区内の林業ツーリズム及びレジャー産業は全部で1.98億人・回を受け入れ、前年比3.74%増加した。林業ツーリズムの収入は206.17億元（前年比+4.85%）。その他の直接導出した林業産業生産額は317.61億元。

木材生産量2,496万m<sup>3</sup>、前年比29.52%増加。全国総生産量の30.78%。

竹材生産量38,537万本、前年比▼15.30%減少、全国竹材総生産量の30.53%。

製材生産量849.14万m<sup>3</sup>、全国の製材総生産量の29.89%、前年比▼2.50%：

木質ボード生産量1,433.11万m<sup>3</sup>、前年比15.15%増加。

林業の産業構造は2007年、第1次産業59.2%、第2次28.2%、第3次12.0%だったのに比べ、2008年は、それぞれ58.6%、29.9%、11.5%に変化した。区内の第1次～第3次林業産業生産値は、それぞれ全国の各次産業値の27.11%、12.83%、27.99%になる。

・投資は大幅に増加し、単位面積当たりの投資幅も高まり、従業員の収入は穏やかに引き上げられた。

2008年に区内の林業系統が実行に移した資金総額は431.33億元（前年比、+26.52%）、全国のその42.85%。実際に完成した固定資産投資額は570.07億元（前年比、+80.28%）、単位林業用地あたりの固定資産投資は349元/ha（前年比、+80.83%）。

区内の林業系統産業従事者41.78万人、2007年に比べ、▼270,000人（▼6.07%）減少した。林業系統の産業に従事する労働者の平均年収は16,727元/年（前年比、+2336元、+16.23%）である。

#### 4) 東北地区

2008年、東北地区（遼寧、吉林、黒竜江）3省の一人当たりの平均GDP生産額は2,592元、前年比20.64%増加。全国平均レベルとほぼ同じ水準である。

・重点プロジェクト造林の比重が突出し、森林管理保護の成果・効果は顕著で、発展任務は並大抵ではない。

2008年、区内の森林カバー率は38.05%。完成した造林面積は22.83万ha。これは全国造林総面積の4.26%（前年比、+13.84%）。この中で、重点プロジェクトの造林面積は22.80万ha（前年比、+17.42%）で、重点プロジェクトの造林が地区の造林地のほとんどを占めた。2008年までに区内の自然保護区は206か所で、前年比11か所増加。全国自然保護区数の10.27%を占める。面積は783.35万ha、全国自然保護区総面積の6.38%に相当する。区内の林業系統は217か所の森林公園を有し、前年比13か所増加した。全国森林公園総数の9.53%で、森林公園の面積471.01万haで、全国の森林公園面積の28.90%（前年比、+0.40%）になった。

・産業の発展は総体的に平穩、区域の優勢は明らかで、重点的に品質を引き上げることに意を注ぐ。

2008年、区内林業産業総生産額は1,634.61億元、前年比37.86%増加し、全国林業産業総生産額の11.35%を占めた。単位森林面積当たりの林業産業生産額は5452元/haで、全

国平均の 66.19%の水準。

区内の林業ツーリズム・レジャー産業は、3,606.84 万人・回（前年比 44.27%増加）の旅行者を受け入れ、65.05 億元（前年比 94.28%増加）の収入を得た。

直接導出したその他の林業産業生産額は 25.87 億元で、前年比▼52.31%減少した。

木材生産量；1,403 万 m<sup>3</sup>、前年比 1.50%増加、全国の 17.30%。

製材生産量；448.95 万 m<sup>3</sup>、全国の製材総生産量の 15.80%で、前年比 36.97%増加。

木質ボード生産量：387.23 万 m<sup>3</sup>、全国人造板総生産量の 4.12%。前年比▼10.32%減少。

林業の産業構造は、2007 年が第 1 次産業 47.7%、第 2 次産業 42.0%、第 3 次産業 10.3%の構成から、2008 年は、それぞれ、43.7%、44.9%、11.4%に変化した。全国の産業構造に占める比率は、第 1 次、11.24%、第 2 次、10.74%、第 3 次、15.36%である。

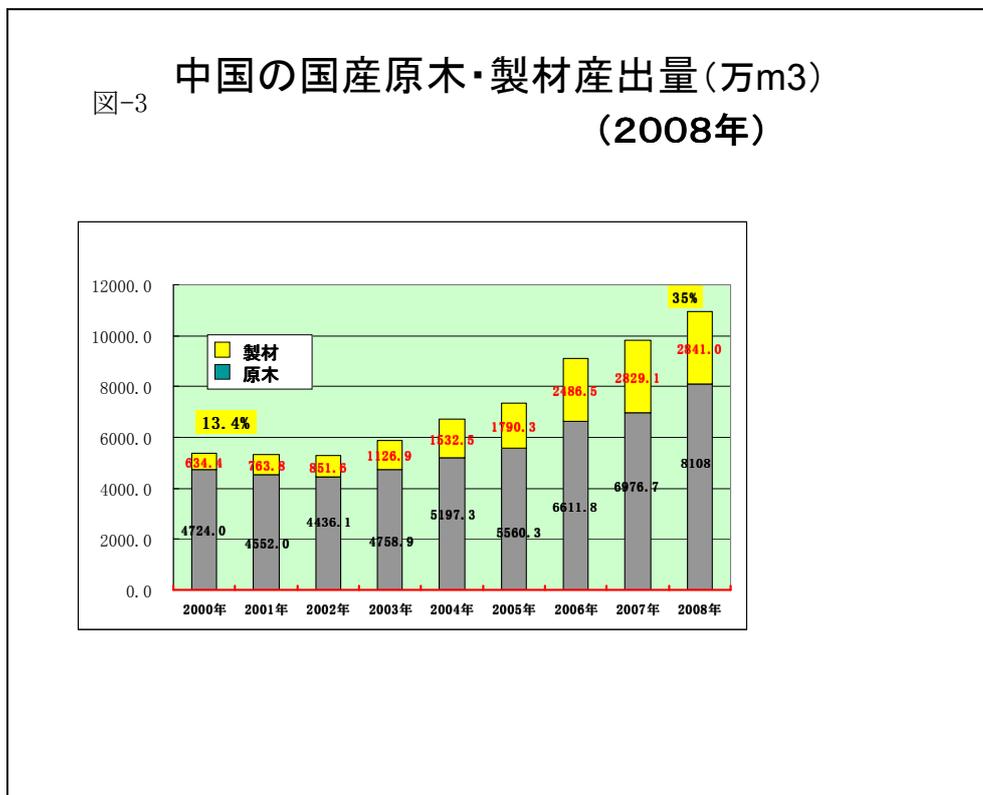
## 1.3 中国の木材の需要と供給

### 1.3.1 中国の木材の需要と供給

#### 1) 木材の供給

木材製品の市場への供給は、国内供給と輸入供給の 2 つから構成される。

・**国内による供給**は、商品材、農民自家用材・燃料材、木質繊維板及びパーティクルボードが包括される。2000 年以來、木材の国内供給量の推移を図-2 に示した。（第 1 部巻末に 1981~2008 年の中国木材及び木製品の生産量統計をしめした。出典：2009 年中国林業発展報告）

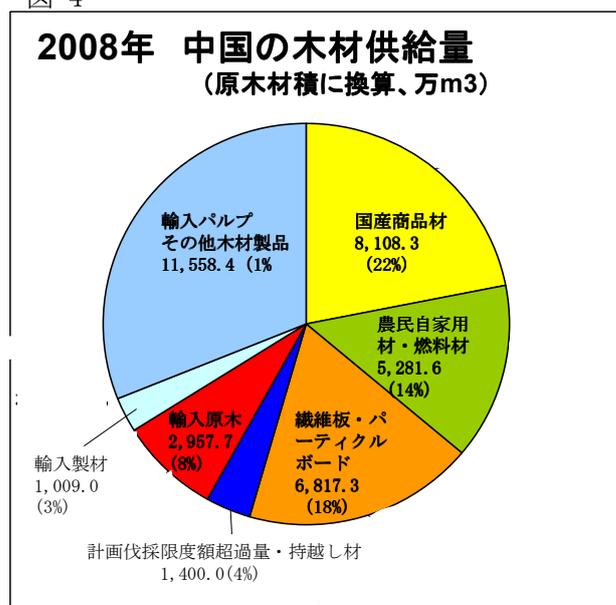


・**輸入による供給**は原木、製材品、単板、木質ボード類、家具、木質パルプ、古紙及び紙製品、古紙及び其の他の木製品が含まれる。

2008年の林産品市場への総供給量は3億7,131万5800m<sup>3</sup>（2007年比▼2.98%）である。

・商品材；2008年、全国の商品材総生産量は8,108万3400m<sup>3</sup>（前年比+16.22%）、このうち原木生産量7,357万3200m<sup>3</sup>（前年比+13.33%）、薪材（原木の国家基準に不適合の木材）751万200m<sup>3</sup>（+54.98%）。

図-4



・農民自家用材・燃料材（11次5カ年計画の伐採限度額から推算した数値）：農民自家用材及び燃料材を木材供給量に換算すると、5,281万6400m<sup>3</sup>で、その内、農民自家用材は1,789万9700m<sup>3</sup>、燃料材は3,491万6600m<sup>3</sup>。

・木質繊維板とパーティクルボード：2008年、木質繊維板の生産量は2,901万4500m<sup>3</sup>（前年比+7.22%）、パーティクルボード（普通PB及びOSB）1,138万2300m<sup>3</sup>（前年比+38.39%）で、両者を生産する原料木材の換算材積は6,929万9600m<sup>3</sup>で、薪材（規格害原木）生産量との重複部分を除くと木質繊維板とパーティクルボードの純増加は6,817万300m<sup>3</sup>となる。

・輸入材：2008年、中国の輸入木質林産品を素材に換算すると1億5,524万3000m<sup>3</sup>となる。このうち、原木は2,956万9600m<sup>3</sup>、原木を除いたその他の林産品の換算材積は1億2,524万3400m<sup>3</sup>である。

・その他：2008年、計画伐採限度額を超過した分及び前年度の持ち越し材などで発生した木材供給量が1,400万m<sup>3</sup>ある。

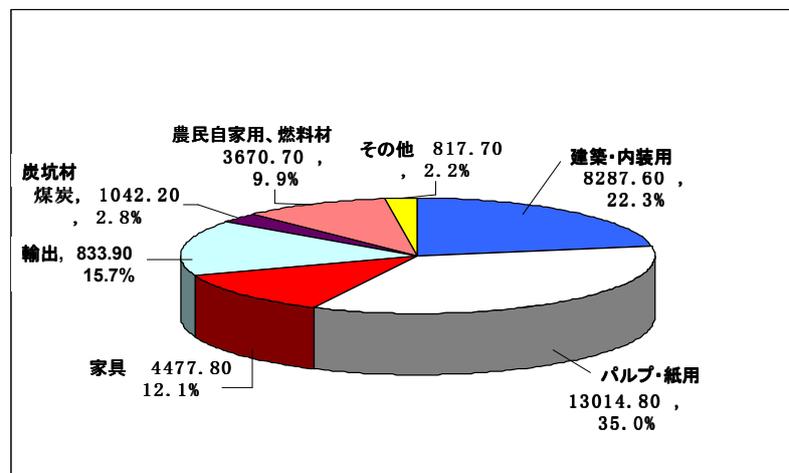
### 1.3.2 木材の消費

中国木材産品市場の消費は、国内消費と輸出消費の2成分で構成されている。

**国内消費**は、工業及び建築用材、農民自家用材と燃料材で構成される。

**輸出**は、輸出原木、製材品、単板、木質ボード類、家具、木炭、チップ、紙と紙製品、古紙及びその他の木質林産品を包含している。

図-5 **2008年 中国の木材消費量**  
(原木材積に換算、万m<sup>3</sup>)



2008年、木材産品の市場総消費量は3億7,144万4300m<sup>3</sup>(前年比▼2.89%の減少)である。

・ **工業・建築業用材**：国家統計局及び関連部門の統計に基づき、関係木材製品の消費係数を推算すると、2008年、中国の建築業・工業用材は、原木換算で2億7,640万1300m<sup>3</sup>。その中で、建築業用材(内装材、造作材を含む)8,287万6000m<sup>3</sup>(前年比▼11.76%減少)：

・ **家具用材**：(家具の国内消費部分を指し、輸出家具への消費は輸出家材の項目に入れる)4,477万7800m<sup>3</sup>(前年比▼9.66%減少)。

・ **製紙業用材**：1億3,014万7700m<sup>3</sup>(前年比+8.30%増加)。

・ **炭坑業用材**：1,042万1700m<sup>3</sup>(前年比+5.23%増加)。

・ **車輛製造・鉄道・化学繊維等その他の部門用材**：817万8100m<sup>3</sup>(前年比▼3.32%減少)

・ **農民自家用材・燃料材**：生産量の数値根拠は以下による。推計によれば、農民自家用材消費量は1,789万9700m<sup>3</sup>、農民燃料材消費は3,491万6600m<sup>3</sup>、農民自家用材中の大きな部分を占める農民の家屋建築はおよそ1,610万9800m<sup>3</sup>で、この重複部分を計算した後の農民自家用材・燃料材消費量は3,670万6600m<sup>3</sup>である。

・**輸出**: 中国の木質林産品輸出を木材換算すると、5,833万9400m<sup>3</sup>、その内、原木は2800m<sup>3</sup>、原木を除外したその他の木質林産品の木材換算量は5,833万6600m<sup>3</sup>である。

### 1.3.3 木材品市場の需給の特徴

2008年における中国木材市場の需給の主要な特徴は以下に掲げられる。供給の側面では、国内の実際の供給は減少し、総輸入量は基本的に同水準を保っている。原木の輸入が大幅に減少し、木材製品の供給の全体規模は縮小した。

需要の面では、国内需要が下降したが、地域差は顕著で、輸出幅は減少、木材製品の総需要は減少し、価格の面では、木材製品の価格は上昇の傾向にある。

#### ・国内の実際の需要と供給が減少し、需給の地域差が顕著になった。

国内供給から見ると、中国産商品材生産量が、2007年度に比して、大幅な増加があったとはいえ、もし、伐採額度額超過分や持ち越し材が無かったらと考えると、2008年の国内木材の実際の供給はかなり落ち込んだ。国内の木材製品の需給からみると、中国は、マクロ経済の成長が鈍化し、特に住宅産業の景気指数が落ち込み、国内の木材製品に対する需給の総量がある程度減少した。したがって、年内の変動と地域の差異が顕著であった。

北方地区の大径針葉樹材、特にシロマツ原木、大径ベニマツ、カラマツ原木の売れ行きは良かったが、ナラ、ヤチダモなどの広葉樹材、中小径材の売れ行きは停滞した。南方地区は金融危機の影響により、木材加工企業が続々と減産、生産停止し、木材市場は前期において隆盛、後期においては閑散とした局面であった。西部地区は震災後の再建により、東南沿海及び内陸地産業は西部へ向けて転移し、それに、西部住宅産業市場の価格の回復の牽引による住宅取引の回昇によって、西部木材市場は前期に低迷したが、後期は回復上昇を見せるという特徴があった。国内需給の不安定な変動はあったけれども、国内需給全体でみると、依然としてある程度の下降傾向である。

巨大な総量を有する市場の需給は、木材流通コストと価格の持続的上昇を促進した。一方では、木材輸出国が実施した厳格な管理措置が国際市場の原木供給の緊張をリードし、木材コストが絶えず上昇した。他方、木材輸出国は自国の利益を保護するため、関税引き上げを採用し、原木輸出を制限し、仕上げ材の再輸出等の措置をとった。例えば、ロシアは原木輸出関税を20%から25%に引き上げ、併せて2009年からは更に80%に引き上げる計画があったが延期した。第3に、石油価格等の中間コストが増加し、これもまた、木材価格の上昇を招いた。

#### ・木材製品の輸出が大幅に低下し、輸入は基本的に前年のレベルを維持、しかし原木輸入は減少した。

2008年、米国のサブプライムローンによる破たんが引き起こした金融危機の影響で、欧米市場は中国の木材製品に対して需要が減少し、ダイレクトに中国の木材製品の輸出低下を引き起こした。この他、人民元の価値の引き続き上昇は中国の木材製品輸出のコストを上昇させ、価格競争における優位性を削ぎ弱め、一定程度、中国産木材製品の輸出を抑制した。中国の経済成長が遅れ、国内需要はある程度減少したままであるが、国内の木材資源の供給矛盾は突出しており、市場の需要を満足させるためには、大量の輸入木材が必要である。同時に人民元の価値上昇は、また、ある程度、国内市場の輸入木材製品に対する需要を刺激している。原木輸入の減少の直接的原因は、とりもなおさず、ロシアが原木輸出を制限し、関税の税率を引き上げたことに原因がある。

・木材製品価格の水準は変動しながら上昇した。

2008年、木材製品の市場価格は変動する中で価格上昇の趨勢にあった。その主要な原因は、①輸入アフリカ材の集中的な荷揚げ、国際石油価格の大幅な価格変動（上下動）は輸入木材の海運費を大幅に上下させた。其れと共に、ロシアが原木輸出を制限した政策の影響が、国内市場の木材価格の変動を引き起こした。②国内の木材生産コストの上昇が木材製品の木材輸入コストの上昇を誘導し、それとともに、原木輸入量の減少は、木材市場全体の価格水準の上昇を導くことになった。

### 1.3.4 主要な林産品の価格

国家統計局の統計資料に明らかに示されている2008年の中国の木材製品価格指数は108.75%で、その内、第1四半期110.82%、第2四半期110.49%、第3四半期107.30%、第4四半期は106.38%である。林産品価格指数は109.02%、その内、第1四半期112.96%、第2四半期111.49%、第3四半期112.11%、第4四半期99.51%である。

・**原木**：国家統計局の月別価格調査によれば、2008年の各種原木の購入価格は基本的に安定した中で上昇した。ベニマツの原木の購入価格は、年初の1,086元/m<sup>3</sup>がずっと保持されていたが、緩やかに上昇の趨勢にあり、12月には1,206元/m<sup>3</sup>の水準に達した。カラマツ原木の価格は小幅に上昇し、年初価格は880元/m<sup>3</sup>が、年末には950元/m<sup>3</sup>になった。バビショウ原木価格は基本的に安定しており、630元/m<sup>3</sup>レベルを維持した。コウヨウザン原木価格は年初の749元/m<sup>3</sup>から小幅に変動し、12月には771元/m<sup>3</sup>。ウンナンマツ原木の価格変動は比較的大きく、1月850元、3～6月小幅に値上がり、7月の上期にあがり幅はやや大きく、その後は安定して1,180元/m<sup>3</sup>ぐらいで推移、11月は下落し1,070元/m<sup>3</sup>、12月にはまた反昇して1,299元/m<sup>3</sup>となった。

・**製材品**：2008年、普通製材の価格は総体として値上がりの趨勢が現れ、全年の平均購入価格は、2007年に比べ4.03%上昇した。その内、カラマツの価格は持続的に上昇し、年の中間に小幅の変動があり、1月の1,090元/m<sup>3</sup>から12月まで上昇し続けて12月には1,223元/m<sup>3</sup>になった。コウヨウザン製材価格の変動はやや大きく、年初1,176元/m<sup>3</sup>で始まり、5月になり最高価格1,380元/m<sup>3</sup>、その後、1,320元/m<sup>3</sup>に下がってやや落ち着きを維持し、12月には、また値上がりし1,417元/m<sup>3</sup>。バビショウは1月の価格が最高で1,062元/m<sup>3</sup>、この後、小幅に下がって、そのまま1,080元/m<sup>3</sup>レベルを維持し、12月には、更に1,038元/m<sup>3</sup>に値下がりした。

・**木質ボード類**：2008年、合板、繊維板、及びパーティクルボードの年間平均の工場出荷は、それぞれ、1,266.3元/m<sup>3</sup>、814.4元/m<sup>3</sup>、757.9元/m<sup>3</sup>である。合板の価格は小幅な変動で、価格水準は下落傾向にあり、年初の1,397.1元/m<sup>3</sup>から年末には1,227.9元/m<sup>3</sup>に下がり続けた。繊維板価格は、小幅ながら上昇し、年初の737.8元/m<sup>3</sup>が年末には818.4元/m<sup>3</sup>となった。パーティクルボードは緩やかに値上がりし、年初の728.5元/m<sup>3</sup>から年末には790.8元/m<sup>3</sup>となった。

・**パルプ**：2008年、碎木パルプの平均工場出荷価格は4,219.5元/トン、前年比▼2.70%下がった。化学パルプの平均工場出荷価格は4,412.5元/トン、前年比、+4.61%値上がりした。月ごとの工場出荷価格の傾向をみると、碎木パルプの価格は下落傾向で、化学パルプの価格は下げ幅が小さいけれども1～7月は、ほぼ4,600元/トンを維持したが、8

～9月は約4,500元/トン、12月には更に大きく3,651元/トンに値下がりした。砕木パルプの値下がり幅はやや大きく、年初3カ月はおよそ4,870元/トンが、4月には4,190元/トンに下がり、その後、小幅に変動して8月にはさらに値下がりをはじめ、12月までずっと下がって3,530元/トンになった。購入価格から見ると、砕木パルプと化学パルプの年平均購入価格は、それぞれ、4,935.0元/トン、5,191.1元である。化学パルプの価格は全体としてレベルが下降し、年初5,284元/トンから下降傾向を継続し、年末には4,543元/トンの水準になった。砕木パルプの価格変動は比較的大きく、前7カ月間は緩やかな上昇傾向にあり、年初の4,800元/トンから7月5,183元/トンに達し、その後月ごとに下降して、12月になると4,666元/トンになった。

## 1.4 主要な林産品の輸出

### 1.4.1 基本的な情勢

林産品の輸出入貿易は比較的速やかに増加した。しかし、増加速度は全面的に低下し、貿易の輸入超過は拡大、全国の商品輸出入貿易中、林産品の占める割合は下降し、輸入が占める割合がやや上昇した。

2008年、林産品の輸出入貿易総額は719.28億米ドル、前年比+4.88%増加した。増加速度は100分の11.44ポイント低下した。その中で、林産品輸出総額は334.88億米ドル、前年比+4.88%増加したが、増加幅は▼16.18ポイント低下し、全国の商品貿易輸出額増加率17.29%より低く、全商品輸出額の2.34%を占めた（前年比▼0.28ポイント減少）。

・**林産品の輸入額は**384.39億米ドル、前年比+18.79%で、増加幅は▼6.64ポイント落ち込み、全国商品輸入額の増加率18.08%とほぼ同じ成長率であった。全商品輸入額の3.39%を占め、前年比0.02ポイント増加した。2008年、林産品貿易の輸入超過額は49.51億米ドル、前年比45.22億元拡大した。

・**林産品輸出入貿易は木質林産品が主であるが、非木質林産品の輸出額は引き続き増加している。**

2008年、林産品の輸出入貿易総額の中で、木質林産品と非木質林産品の占める割合は66.33%対33.67%だった。2007年に比べると、非木質林産品の輸出額は3.15ポイント上昇した；林産品輸出額の中で、木質林産品は67.72%、前年比▼2.86ポイント低下；林産品輸入額の中で、木質林産品の割合は65.12%、前年比▼3.28ポイント下がった。

・**林産品の輸出入相手国は、依然として、米国、日本、ロシア、および、東南アジア市場で構成されているが**（図-6、7）、輸出市場の集中度は下降し、輸入市場の集中度はある程度上がった。2008年の、林産品輸出総額の中で、世界の各地域の割合は、アジア30.31%、北米30.31%、欧州25.01%、アフリカ3.29%、オセアニア2.98%、ラテンアメリカ（南米）2.08%である。前年比、アジアと北米地域の割合が、それぞれ、▼0.50、および、▼1.41ポイント減少した。欧州は0.74ポイント増加した。

林産品輸入総額の地域別割合は（図-6、7）、アジア45.69%、欧州21.99%、北米17.94%、ラテンアメリカ（南米）6.89%、オセアニア4.34%、アフリカ3.15%で、前年比、アジアと北米の割合が0.37ポイントおよび10.10ポイント増加し、欧州は▼1.25ポイント減少した。

図-6 2008年、中国の林産物貿易総額から計算した貿易相手国の上位5カ国

輸入相手国	中国の林産物輸入総額 に対する割合 (%)		中国	中国からの林産物輸出 総額に対する割合 (%)		輸出相手国
マレーシア	13.21	→		→	27.01	アメリカ合衆国
アメリカ合衆国	12.79	→		→	10.98	日本
インドネシア	11.48	→		→	4.78	英国
ロシア	10.08	→		→	4.15	香港
タイ	8.29	→		→	3.30	カナダ

図-7 林産品貿易全体

輸入相手・ 上位5カ国	中国の林産物輸入総額 に対する割合 (%)		中国	中国からの林産物輸出 総額に対する割合 (%)		輸出相手・ 上位5カ国
マレーシア	13.21	→		→	27.01	アメリカ合衆国
アメリカ合衆国	12.79	→		→	10.98	日本
インドネシア	11.48	→		→	4.78	英国
ロシア	10.08	→		→	4.15	香港
タイ	8.29	→		→	3.30	カナダ

図-8 合板； 輸入総額

輸入相手・ 上位5カ国	中国の合板輸入総額 に占める割合 (%)		中国	中国からの合板輸出総額 に占める割合 (%)		輸出相手・ 上位5カ国
インドネシア	44.72	→		→	22.78	アメリカ合衆国
マレーシア	31.84	→		→	7.05	日本
日本	6.10	→		→	6.16	アラブ首長国連合
ロシア	4.74	→		→	5.62	英国
フィンランド	3.21	→		→	34.02	ベルギー

図-9 繊維板； 輸入総額

輸入相手・ 上位5カ国	中国の繊維板輸入総額 に占める割合 (%)		中国	中国からの繊維板輸出総額 に占める割合 (%)		輸出相手・ 上位5カ国
タイ	18.89	→		→	19.78	アメリカ合衆国
オーストラリア	18.18	→		→	9.35	ロシア
ニュージーランド	15.59	→		→	7.82	カナダ
マレーシア	11.83	→		→	6.18	韓国
インドネシア	5.85	→		→	5.31	サウジアラビア

図-10 パーティクルボード；輸入総額

輸出総額：

輸入相手・ 上位5カ国	中国のPB輸入総額 に対する割合 (%)		中国からのPB輸出総額 に対する割合 (%)	輸出相手・ 上位5カ国
タイ	40.18	→	中国	ロシア
マレーシア	17.08	→		ウズベキスタン
オーストリア	11.31	→		アメリカ合衆国
ドイツ	7.23	→		日本
日本	5.65	→		南ア共和国

図-11 木製家具；輸入総額：3.12億米ドル

輸出総額：110.17億米ドル

輸入相手・ 上位5カ国	中国の木製家具輸入総額 占める割合 (%)		中国からの木製家具輸出 総額に占める割合 (%)	輸出相手・ 上位5カ国
イタリア	17.88	→	中国	アメリカ合衆国
ドイツ	17.00	→		英国
ポーランド	15.08	→		日本
ベトナム	9.84	→		オーストラリア
アメリカ合衆国	7.32	→		カナダ

図-12 原木；輸入総材積：2956.96万m<sup>3</sup>

輸出総材積：2,825m<sup>3</sup>

輸入相手・ 上位5カ国	中国の原木輸入総額に占 める割合 (%)		中国からの原木輸出総額に 占める割合 (%)	輸出相手・ 上位5カ国
ロシア	63.12	→	中国	少量に付き略
PNG	7.54	→		
ニュージーランド	6.45	→		
ソロモン諸島	3.92	→		
ガボン	3.64	→		

図-13 製材品；輸入総材積：718.18万m<sup>3</sup>

輸出総材積：71.75万m<sup>3</sup>

輸入相手・ 上位5カ国	中国の製材品輸入総額 に占める割合 (%)		中国からの製材品輸出総 額に占める割合 (%)	輸出相手・ 上位5カ国
ロシア	28.56	→	中国	日本
カナダ	15.85	→		韓国
アメリカ合衆国	14.51	→		アメリカ合衆国
タイ	11.01	→		台湾
マレーシア	3.52	→		ベトナム

主要な貿易輸出相手国から見ると（図-6～14）上位5カ国はアメリカ合衆国（USA）、日本、英国、香港、及びカナダである。上位5カ国で林産物輸出額の50.23%と集中しており、2007年に比べると▼4.97ポイント減少している。その中で、米国、日本、英国、香港の割合は、それぞれ、▼1.63、▼0.45、▼0.27および▼2.28ポイント減少した。

輸入相手国の上位5カ国は（図-6～14）、それぞれ、マレーシア、USA、インドネシア、ロシア、および、タイであるが、上位5カ国で55.81の林産物輸入市場を占めた。これは2007年比、0.61ポイント増加である。この中で、マレーシア、USA、インドネシア、タイは、それぞれ、0.33、0.40、1.41及び0.11増加したが、ロシア連邦は▼1.64ポイント減少した。

#### 1.4.2 木質林産品の輸出入

木質林産品の輸出は速やかに増加し、輸入は、やや増加が見られた。しかし増加速度は全面的に低下した。輸出額は輸入額より大きく、貿易差額は輸出超過となった。

2008年の林産品の輸出入貿易総額は477.10億米ドル、前年比6.81%増加。その中で、**輸出総額**は250.32億米ドル、前年比+13.09%、増加率は▼2.05ポイント低下した。

**輸入総額**は226.77億米ドル、前年比+0.63%、増加率は▼35.34ポイント低下した。木質林産品の貿易順差額は23.55億米ドルとなった。

貿易製品の構成から見ると、輸出木質林産品は、家具、木質ボード（単板を含む）、木製品、紙及びパルプが主である。

##### ・輸入木質林産品は、紙およびパルプ、原木、製材が主体である。

紙およびパルプが輸出入とも主要製品で、その額も上昇している。2007年と比べると、木質林産品輸出の中で、家具、紙・紙パルプは、それぞれ、1.18、1.20ポイント増加した。木質ボード（単板を含む）と木製品の輸出額は、それぞれ、▼0.63及び▼1.46ポイント減少した。木質林産品の輸入では、紙・紙パルプの占める額が3.76ポイント増加し、原木の額は▼3.49ポイント減少した。

・**市場の構造**から見ると、主要な輸出市場は、やはり、米国、日本、英国および香港（図-14）で、輸入市場は、米国、ロシア、カナダ、日本に集中しているが、輸出および輸入の市場の集中度は低下している。貿易額の順位で見ると、輸出相手上位5カ国は、米国31.56%、日本9.54%、英国6.16%、香港3.98%、カナダ3.75%で、2007年比、相手上位5カ国の輸出合計額は、▼4.17ポイント減少した。その内、米国、英国及び香港の市場額減少率は、それぞれ、▼1.99、▼0.15、及び、▼2.34ポイントである。輸入相手の上位5カ国は米国18.25%、ロシア15.42%、カナダ7.84%、日本6.33%、インドネシア5.08%。2007年比、米国の占める割合は+1.23ポイント上昇、ロシアは▼1.56ポイント減少した。

・**原木**：2008年、原木の輸出入量は大幅に減少、輸出入の平均価格は全面的に上昇し、原木輸出入に於ける広葉樹材の割合がいくらか減少した。

・**原木輸出量**：2008年、2,825m<sup>3</sup>、輸出金額は98万5300米ドル、前年比▼24.03%および▼18.58%減少。その内、針葉樹材の輸出は100m<sup>3</sup>、2万1100米ドル、広葉樹材の輸出量は2,725m<sup>3</sup>、96万4740m<sup>3</sup>。

・**原木輸入量**は2,956万9600m<sup>3</sup>、輸入金額は51億8300万米ドル、それぞれ、前年比で▼20.37%と▼3.23%減少である；この内、針葉樹材は1,857万m<sup>3</sup>、前年比▼20.17%、輸入

図-14 2008年、中国の林産品貿易相手国・地域

輸入相手国	中国の林産物輸入総額 中の割合（前年比増減）%		中国からの林産物輸出総額 中の割合（前年比増減）%	輸出相手国
USA	18.25（+1.23）	→	31.56（▼1.99）	USA
ロシア	15.42（▼1.56）	→	9.54	日本
カナダ	7.84	→	6.16（▼0.15）	英国
日本	6.33	→	3.98（▼2.32）	香港
インドネシア	5.08	→	3.75	カナダ

金額は 24 億 1400 万米ドル、前年比+0.38%増加した。原木輸入量のうち、針葉樹材は 62.82%を占め、前年比+0.15 ポイント増えた。広葉樹材の輸入量は 1,099 万 2600m<sup>3</sup>、金額は 27 億 6900 万米ドル、前年比、それぞれ▼20.70%、及び▼6.17%である。

・**木材の材価**でみると、原木の平均輸出価格は 348.97 ドル/m<sup>3</sup>（前年比+7.24%）、平均輸入価格は 175.29 米ドル/m<sup>3</sup>（前年比、+21.53%）いずれも、値上がりした。その中で針葉樹原木の平均輸出価格は 210.95 米ドル/m<sup>3</sup>、前年比▼16.20 値下がり、広葉樹原木の平均輸出価格は 354.03 米ドル/m<sup>3</sup>、前年比+8.35%値上がりした。針葉樹原木及び広葉樹原木の平均輸入価格は、129.96 米ドル/m<sup>3</sup>、及び 251.90 米ドル/m<sup>3</sup>、これは前年比+25.76%、及び+18.33%上昇した。この中でロシアから輸入された原木の平均輸入価格は、針葉樹原木 129.22 米ドル/m<sup>3</sup>（前年比+26.88%）、広葉樹原木 180.22 米ドル/m<sup>3</sup>（+39.22%）と大幅な値上がりとなった

・**2008年における原木輸入量の大幅な減少、品目構成の変化及び価格の全面的な上昇の主要な原因**：①住宅等固定資産投資の成長速度が緩やかで、住宅市場の景気指数が下降し、国内建築用材の需要の減少をもたらした。②国際金融危機の影響を受けて、国際市場が木材加工品に対する需要を委縮させ、中国の木材加工企業の輸出が落ち込み、輸入原木に対する需要を減少させた。③ロシアが大幅な木材輸出関税の引き上げを行い、ロシアからの輸入木材の数量の減少と輸入価格の上昇をもたらした。④上半期の石油価格が上昇し、木材の輸送価格が引き上げられ、輸入木材の陸揚げ価格を大幅に上昇させたことなどが指摘されている。

図-15 2008年、木質林産品の輸出品の構成割合

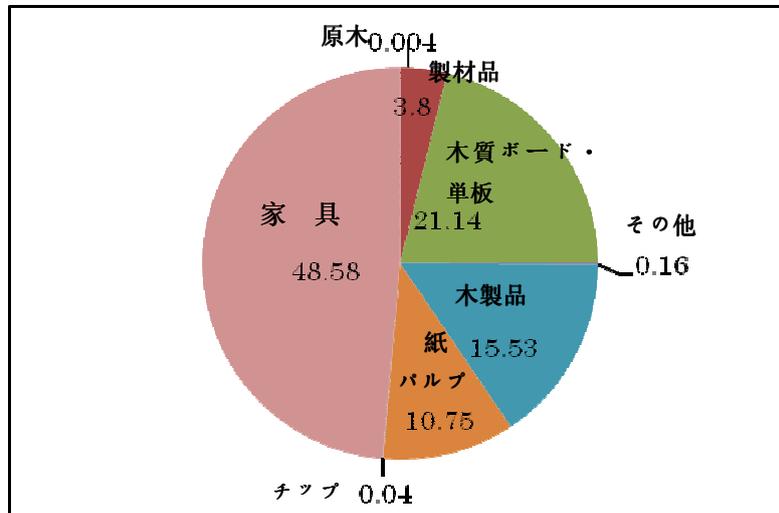
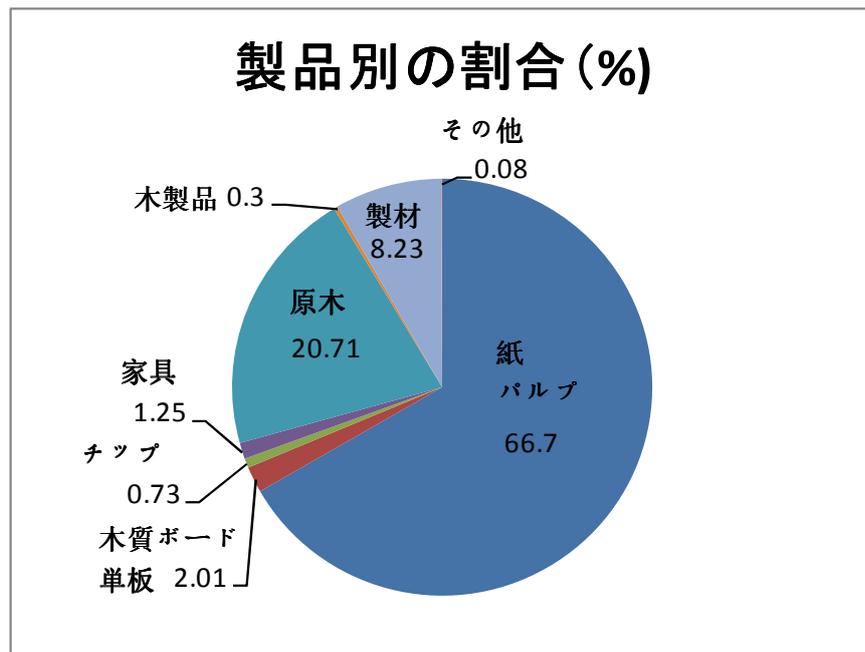


図-16 2008年、木質林産品の輸入品の構成割合



原木の輸入先の地域の状況は、2008年は基本的に安定していた。主要な変化はロシアからの輸入額が大幅に減少したこと、東南アジアからの輸入額が引き続き減少し、アフリカと大洋州からの輸入分が一步増加していることである。

・**木材輸入量**：輸入相手上位5カ国地域は以下の通りである。ロシア 63.12%、パプアニューギニア (PNG) 7.54%、ニュージーランド (NZ) 6.45%、ソロモン諸島 3.92%、ガボン 3.64%で、前年比、ロシアとマレーシアの輸入分は▼5.27ポイント、および、▼0.82ポイント減少した。ニュージーランド、ソロモン諸島、パプアニューギニアおよびガボンは、それぞれ、+3.03ポイント、+1.09ポイント、+1.24ポイント、および、0.54ポイント増加した。

・**針葉樹材の輸入量**：主要な貿易相手は以下の通り。ロシア 84.63%、ニュージーランド 10.24%、オーストラリア 2.09%、USA 1.17%、カナダ 1.10%で、ロシアの分は、前年比、▼5.91ポイント減少、ニュージーランドは+4.85ポイント増加した。

・**広葉樹材の輸入量**：上位5カ国は、ロシア 26.77%、パプアニューギニア 20.28%、ソロモン諸島 10.54%、ガボン 9.80%、マレーシア 7.39%で、前年比、ロシアとマレーシアからの分は▼4.44ポイント及び▼2.21ポイント減少、パプアニューギニア、ガボン及びソロモン諸島からの輸入分が、それぞれ、+3.39、+1.50、+2.97ポイント増加した。

・**製材品**：2008年、製材品の輸出材積は減り、輸出金額は増えたが、針葉樹製材品の輸出量は大幅に減少した。広葉樹製材品の輸出材積、金額とも増加した。製材品の輸入量は比較的快調に増加したが、そのうち、針葉樹製材品の輸入量は大幅に増加し、広葉樹製材品の輸入量は減少。輸入量のうち、針葉樹製材品の占める割合がさらに一步引き上げられ、広葉樹製材の割合を超過した。輸出入価格は全面的に値上がりした。

・**製材品（特別形状材を含まず）の輸出材積**は、7万1,750m<sup>3</sup>（前年比▼6.03%）、輸出金額は4億1,200万米ドル（前年比+4.90%）；**輸入材積**は718万1,800m<sup>3</sup>（前年比、+9.52%）、輸入金額は20億3,900万米ドル（+14.90%）である。

・**製材品の輸出入**：針葉樹材の輸出は2万4,850m<sup>3</sup>（▼16.78%）、広葉樹製材品の輸出は4万6,900m<sup>3</sup>（前年比、+0.86%）。針葉樹製材品の輸入は373万5,900m<sup>3</sup>（前年比、+30.67%）増加、広葉樹製材品の輸入は344万5,900m<sup>3</sup>（前年比、▼6.84%）減少。製品の構成から見ると、針葉樹製材品の輸入量は、全体の製材品輸入量の52.02%を占め、2007年より+8.42ポイント引き上げられた。

・**製品の価格**から見ると、針葉樹製材品の平均輸出価格574.61米ドル/m<sup>3</sup>（前年比、+11.73%）、平均輸入価格は283.97米ドル（前年比、+4.92%）と値上がりした。このうち、針葉樹製材品の平均輸出価格は、471.22米ドル/m<sup>3</sup>、広葉樹製材品は629.39米ドル/m<sup>3</sup>で、前年比、それぞれ、+5.40%、+12.91%値上がりした。製材品の平均輸入価格は、針葉樹197.37米ドル/m<sup>3</sup>（前年比、+8.04%）、広葉樹377.86米ドル/m<sup>3</sup>（+11.58%）と価格は上昇した。

・**製材品輸入量の大幅な増加、構成の変化、および、値上がりの主な原因**：

①ロシアの原木輸出関税の大幅引き上げ、および、ここ数年国内における原木市場価格の高騰は、木材の輸入において原木から製材品へと切り替えが進んだこと、②国内の住宅景気指数が下降し、また、木材加工製品の輸出が委縮したことが、国内の輸入広葉樹製材品に対する消費を減少させた、③石油価格の大幅な変動が木材の運輸経費全体レベルを押し上げ、輸入価格の上昇をもたらした。

**資材品の輸出相手国**：輸出数量から計算した製材品の輸出相手先の上位5カ国は、**日本がほぼ半分を占める**。日本46.86%（前年比▼7.08ポイント）、韓国11.60%（前年比、+0.22ポイント）、USA11.60%（前年比+3.07ポイント）、台湾+4.54%、+ヴェトナム4.23%である。

**輸入相手国**：上位5カ国は、ロシア28.56%（前年比、+3.79ポイント）、カナダ15.85%（前年比、+5.56ポイント）、USA14.51%（前年比、▼1.86ポイント）、タイ11.01%、マレーシア3.52%（前年比、▼1.21ポイント）である。

**針葉樹製材品輸入相手国**；上位4カ国に90%以上が集中した。ロシア50.45%、カナダ29.37%、ニュージーランド6.33%、チリー4.14%。

**広葉樹製材品輸入相手国**；上位5カ国に70%近くが集中：USA27.72%、タイ22.95%、マレーシア7.33%、インドネシア6.55%、フィリピン5.26%。

林産品の輸出入相手国は、依然として、**米国、日本、ロシア、および、東南アジア市場で構成**されている。が、輸出市場の集中度は下降し、輸入市場の集中度はある程度上がった。

・**特形材輸出量**：2008年は全面的に減少した。輸出量48万6,200トン（前年比、▼5.76%）、輸出金額7億7,800万米ドル（前年比、▼1.52%）。輸入量1万2,400トン（▼10.14%）、輸入金額0.2億米ドル（前年比、▼9.09%）、特形材輸出のうち、フローリング枠（竹フローリング枠を含む）46.42万トン（前年比、▼5.65%）、7.50億米ドル（前年比、▼1.57%）、輸入量0.85万トン（前年比、▼15.00%）、輸入金額0.15億トン（前年比、▼16.67%）。

輸出額からみた上位 5 カ国：USA35.58%（前年比、▼1.63 ポイント）、カナダ 13.48%、英国 10.93%（前年比、▼1.28 ポイント）、日本 8.89%、オーストラリア 2.82%。

・**単板**：2008 年、単板の輸出数量は減り、輸出金額は増加した。輸入量及び金額は速やかに下降した（表-7）。輸出価格は大幅に上昇し、輸入価格はある程度値上がりした。

単板輸出量は 14 万 6,300m<sup>3</sup>（前年比▼4.19%）、輸出金額 2.44 億米ドル（前年比、+22.00%）このうち、針葉樹単板の輸出は 14,200m<sup>3</sup>、広葉樹単板 1 万 3,210m<sup>3</sup>；単板の輸入量は 9 万 1,900m<sup>3</sup>（前年比、▼29.43%）、金額で 9900 万米ドル（前年比▼27.21%）；この内針葉樹単板輸入量は 4,100m<sup>3</sup>、広葉樹単板輸入は 8 万 7,800m<sup>3</sup>；単板の平均輸出価格は 1,667.48 米ドル/m<sup>3</sup>、輸入平均価格は 1071.93 米ドル/m<sup>3</sup> で、それぞれ、前年比+27.30% 及び+2.85%上昇した。

単板輸出先：貿易額による上位 5 カ国・地域は、韓国 16.77%、日本 12.18%、前年比、▼2.57 ポイント）、USA 9.70%（▼1.56 ポイント）、ロシア 5.17%（前年比、+1.12 ポイント）、メキシコ 4.84%（+2.92 ポイント）、マレーシアは▼1.01 ポイント減少した。

輸入先上位 5 カ国の市場占有金額は USA 23.61%（前年比、▼17.47 ポイント）、マレーシア 13.91%（前年比、+6.50 ポイント）、台湾 9.45%、ドイツ 8.95%、イタリア 7.38%（前年比、+4.67 ポイント）；ブラジルは▼1.65 ポイント減少した。

・**木質ボード類**：2008 年木質ボード類の輸出入は大幅な減少状況が現れた（図-7）。しかし、パーティクルボードの輸出は相変わらず快調に増加し、繊維板の輸出量は減り、金額は増えた。製品の構成から見ると、木質ボード輸出のなかで、合板が相変わらず絶対的に大きい割合を占めたけれども、金額ではやや減少した。輸入は合板と繊維板が主で、合板の輸入金額が増えた。価格から見ると、合板の平均輸入価格が微増したこと以外は、その他の木質ボードの平均単価は大幅に上昇した。しかし、輸出価格の上げ幅は全体的に輸入価格の上げ幅より大きい。

表-7 2008 年、木質ボード 3 品目の輸出入実態

製品	輸出量		輸出平均単価		輸入量		輸入平均単価	
	2008 年 万 m <sup>3</sup>	07 年比 増減 (%)	2008 年 US\$/m <sup>3</sup>	07 年比 増減 (%)	2008 年 万 m <sup>3</sup>	07 年比 増減 (%)	2008 年 US\$/m <sup>3</sup>	07 年比 増減 (%)
合板	718.51	▼17.56	473.28	+15.29	29.39	▼3.34	569.74	+1.69
繊維板	238.26	▼22.06	459.40	+29.33	50.45	▼28.19	278.32	+15.75
内、HB	38.85	▼18.55	676.90	+31.65	9.16	▼52.29	276.60	+19.73
MDF	197.59	▼21.26	417.20	+26.15	38.60	▼13.32	287.73	+9.60
絶縁板	1.82	▼74.18	397.78	+162.73	2.70	▼58.59	149.62	+27.44
PB	19.32	+7.44	237.47	+22.86	37.41	▼28.73	245.52	+21.18
内 OSB	1.78	+1.14	277.57	+23.45	7.40	▼23.47	344.05	35.28

注：HB：硬質繊維板、MDF：中質繊維板、PB：パーティクルボード、OSB：配向性ボード、▼：マイナス

（データ：2009 中国林業発展報告）

2008 年、木質ボード全体の輸出額は 45 億 4,900 万米ドル（前年比、▼3.33%）；輸入は 4 億 400 万米ドル（前年比、▼9.82%）；この内、合板 34 億 100 万米ドル（是 bb 比▼4.96%）、

繊維板とパーティクルボードの輸出額は、10億9,500万米ドル及び4,600万米ドルで、2007年比、+0.83及び+31.43%増加した。

合板、繊維板、パーティクルボードの輸入額は、それぞれ1億6,700万米ドル(前年比、▼1.76%)、1億4,000万米ドル(前年比▼17.61%)、9,200万米ドル(前年比▼13.21%)。

木質ボード3品目(3板)の輸出金額のそれぞれの割合は、合板74.89%、繊維板24.10%、パーティクルボード1.01%となっている。2007年と比べると、合板は▼1.26ポイント減少し、繊維板とパーティクルボードは、それぞれ、+0.99ポイント、および、+0.27ポイント増加した。“3板”輸入の中で、合板、繊維板、パーティクルボードのそれぞれの金額割合は41.89%、35.13%、22.98%である。2007年比、合板の分は+3.66ポイント増加し、繊維板とパーティクルボードの分は、それぞれ、▼2.78ポイント及び▼0.88ポイント減少した。

・ **木質ボード**：2008年の輸出入の総量と価格の変化の主要な原因：

①米国のサブプライムローンおよびそれによって引き起こされた国際金融危機は、欧米市場が木質ボードの需要を下降させ、直接的に中国の木質ボード輸出減少をもたらした。しかし、アラブ首長国連合等の中東諸国への合板輸出は増加し、木質ボードの輸出下降の幅を食い止める働きをした。②人民元の為替レートの上昇が、中国の木質ボード価格を引き上げ、国際市場における中国の木質ボードの価格競争力を削減した。中国の木質ボードの国際市場における分配額をインドネシア、ブラジル、ヴェトナム、インド等の国に対して振り向けさせたが、これによってある程度中国の木質ボード輸出を抑制した。③国内の住宅産業の需要が低下した影響を受けて、家具および内装材の消費が少なくなり、それに加えて、家具の輸出量が減り、木質ボード輸入量の低下を招いた。④ロシア市場の開発は、パーティクルボードの輸出が強気の形勢を維持した。しかし、中国のパーティクルボード産業の発展水準は依然として低く、これによって、パーティクルボードの輸出の成長が快調とはいっても、輸出規模は依然として小規模である。2008年、木質ボード類の輸出入の市場動態の変化はそれほど大きくないが、市場の集中度は依然として大きい。

・ **合板の輸出先**は、欧米市場を主としているが、中東市場の成長も比較的速く、市場は、相対的に分散しつつある。**合板の輸入先**は主として東南アジアである。

・ **繊維板の輸出**はロシア、北米および中東が主要な市場であり、**輸入市場**は主に、大洋州と東南アジア地区に集中している。

・ **パーティクルボードの輸出市場**は、主にロシアとウズベキスタンに集中しており、輸入の主要な来源は東南アジアと欧州市場である。

・ **合板輸出相手**上位5カ国の取引額は、2007年と比べると、▼1.23ポイント下降し、そのうちで、USAと韓国の分が、それぞれ、▼4.43および▼1.34ポイント減少した。アラブ首長国連合への輸出額が+2.59ポイント増加した。合板輸入相手国の上位5カ国は総額として昨年の水準を維持した。しかし、インドネシアとロシアの取引額は▼3.05ポイント、および、▼0.87ポイント、それぞれ、減少した。マレーシアの輸入分は+4.29ポイント増加した。繊維板輸出先の上位5カ国の輸出合計額は+4.40ポイント増加した。そのうちUSAとロシアは、+3.88ポイント、オーストラリア+2.69ポイント増加した。トルコは▼4.82ポイント、サウジアラビアは、▼1.69ポイント減少。

・**繊維板輸入先**上位 5 カ国の総額は▼3.54 ポイント減少したが、そのうち、タイ、インドネシアからの輸入額は、それぞれ、▼2.06、▼2.71、▼1.65 ポイント減少した。オーストラリアとニュージーランドは、+1.09 ポイント、および、+1.79 ポイント増加した。

・**パーティクルボード輸出先**の上位 5 カ国総輸出額は 7.23 ポイント増加したが、中では、ロシア（前年比、+5.19 ポイント）、**日本**（前年比、+1.07 ポイント）、南アフリカ（前年比、+1.86 ポイント）が輸出額の増加を果たした。台湾の分は前年比▼5.76 ポイント減少。パーティクルボードの輸入上位 5 カ国の輸入総額は前年比+0.46 ポイントとわずかに増加した。この中で、前年比、増加したのは、タイ（+4.05 ポイント）、オーストラリア（+2.13 ポイント）で、マレーシアは▼6.49 減少した。

・**木製家具**：2008 年、木製家具の輸出は数量が大幅に減少し、輸出金額は小幅に増加した。輸入量は速いスピードで増加したが、増加速度は転落した。輸出入価格は全面的に上昇し、輸出価格が輸入価格より高かった。貿易差額は輸出超過で、ある程度拡大。輸出市場はアジアから北米、欧米へと一歩転移した。

木製家具輸出量は 2 億 4,300 万件、前年比▼13.21%減少し、輸出額は 110 億米ドル、前年比+3.13%となった。輸入は 314 万 8000 件、3 億 1,200 万米ドルで、前年比、それぞれ、+27.53%、および、41.82%増加した。増加幅は減少し、▼63.84 および▼44.6 ポイント下がり、輸入貿易額は、輸出超過の 107 億 500 万米ドルで、2007 年に比べ+2.31%拡大した。

貿易品目の構成：輸出製品の構成は相対的に安定している。輸出製品のうち、厨房家具の金額が継続して伸び幅が縮小している。木製家具の総輸出金額の中で、各種の家具類の比率は以下のとおり。木製杵座具、38.06%、寝室用木製家具 19.81%、厨房用木製家具 5.65%、オフィス用木製家具 5.51%、その他の木製家具 30.97%。2007 年と比べると、木製杵座具は+0.23 ポイント、オフィス用木製家具は+0.78 ポイント増加した。厨房用木製家具は▼0.11 ポイント、その他の木製家具は▼0.86 ポイント減少した。

木製家具の総輸入金額の中で、製品の種目別構成は以下の通り。木製杵座具は 23.05%、寝室用木製家具 17.94%、厨房用木製家具 15.44%、オフィス用木製家具 2.98%、その他の木製家具 40.60%。2007 年と比べると、木製杵座具は+1.58 ポイント、その他の木製家具が+4.46 ポイントそれぞれ増加した。厨房用木製家具▼5.20 ポイント、寝室用木製家具▼0.47、及びオフィス用木製家具は▼0.37 ポイント減少した。価格でみると、輸出価格のレベルは輸入のそれより低い、輸出価格の上昇幅は、輸入価格の上昇幅より全体として大きい。家具の輸出品平均価格は 45.41 米ドル/件（前年比、+19.18%）、輸入平均価格は 99.10 米ドル/件（前年比+11.01%）と値上がりした；

家具の品目別の輸入価格はそれぞれ以下の通り。木製杵座具 55.39 米ドル/件（前年比、+26.89%）、オフィス用木製家具 37.52 米ドル/件（同、+10.16%）、厨房用木製家具 35.27 米ドル/件（同、+1.94%）、寝室用木製家具 72.61 米ドル/件（同、+17.95%）、その他の木製家具 33.11 米ドル/件（同、+17.54%）、何れも前年より値上がりした。

家具の品目別の輸出価格はそれぞれ以下の通り。木製杵座具 18.86 米ドル/件（前年比、+21.46%）、オフィス用木製家具 165.77 米ドル/件（同、+0.99%）、厨房用木製家具 193.10 米ドル/件（同、+31.04%）、寝室用木製家具 121.60 米ドル/件（同、+32.91%）、その他の木製家具 63.81 米ドル/件（同、+8.48%）、何れも前年より値上がりした。

市場の分布をみると、輸出市場は引き続きアジアと北米から欧州に向けて転移が起こっている。欧州市場の輸出額はアジアを抜いて第 2 位となった。しかし、輸入市場は更に 1 歩欧州に集中した。

**木製家具の輸出相手国**：2008年の輸出の市場分布は以下の通り：北米州 45.53%、欧州 [23.07%、アジア 22.66%、大洋州 5.10%、アフリカ 2.12%、ラテンアメリカ 1.53%；前年比、アジアおよび北米州は▼2.16 および 1.85 ポイント減少した。欧州市場の分は+2.35 ポイント上昇した。

**木製家具の輸入市場**の割合は以下の通り。欧州 70.37%、アジア 21.85%、北米州 7.59%。2007年比、アジア市場の分は▼1.72 ポイント減少、欧州市場分は+1.18 上昇した。

貿易額から見た主要な輸出相手先、上位 5 カ国は、USA 41.15%、英国 7.39%、日本 6.86%、オーストラリア 4.60%、カナダ 4.38%。前年比、USA と中国香港の分は▼2.30 ポイントおよび▼4.47 ポイント減少し、**日本**+0.61 ポイント、オーストラリア+0.85 ポイント、カナダ+0.45 ポイントは、それぞれ、増加した。

**主要な輸入相手先**上位 5 カ国：イタリア 17.88%（前年比、▼0.55 ポイント減少）、ポーランド 15.08%（前年比、+6.59 ポイント増加）、ヴェトナム 9.84%（前年比、▼0.84 ポイント減少）、USA 7.32%、ドイツは前年比、▼4.46 ポイント減少した。

#### ・2008年の木製家具の輸出入量と価格の変動原因

①米国のサブプライムローン及び引き続く世界金融危機の影響を受けて、欧米市場の家具需要が減少し、中国の家具輸出数量を直接減少させた。②2007年中国政府は家具輸出税の還付率を引き下げ、国産花梨材資源による紅木家具の輸出を禁止し、其れと共に、輸出家具の目録に有毒有害物質をリストアップし、家具の安全性能検査を強めるなどの政策を強化した。これが一定程度、家具輸出の増加を抑制した。③人民元の貨幣価値の上昇、および国内家具製造のコスト上昇を受けて、中国の輸出家具の価格が大幅に上昇し、さらに、国際市場が、中国家具の品質に注意を払って、中国家具の国際市場におけるシェアを下降させた。その他に、人民元の上昇は一定程度家具輸入を刺激し、増加させた。④2007年、欧州は正式に REACH 法（化学品の登録手続き、評価および許可法規等）を実施、国外の貿易障壁が、ある程度、中国家具の輸出成長を制約した。

・**木製品**：2008年、**木製品の輸出**は減少、輸入は増加したが、増加幅は転落。輸出市場の集中度は、一歩後退し、貿易輸出超過は減少した。木製品輸出額 35 億 2,200 万米ドル（前年比、▼8.02%）輸入は 7,500 万米ドル（前年比、▼8.30%縮小）。輸出額の中で、

**木製品の各品目の構成**は以下の通り。建築用木製品 26.69%、木工芸品 22.70%、飲食・厨房用木製品 10.09%、その他 40.51%、前年比、飲食・厨房用木製品の割合が+1.36 ポイント上がり、その他の品目はほぼ減少した。輸出額は、輸出先上位 5 カ国の市場に 59.76% が集中した；USA 26.81%、日本 18.29%、英国 5.65%、ドイツ 4.82%、香港 4.19%、前年比、上位 5 カ国市場への輸出額は▼3.46 ポイント減少したが、その中で、USA と香港の分が、それぞれ、▼2.78 ポイント、及び、▼1.31 ポイント減少した。

・**紙類**：2008年、紙類製品の輸出量は減り、輸出金額は増えた。輸入の伸びは快調であるが、伸び率は反落した。紙及び板紙の輸入量は大幅に下落、輸出入価格のレベルは全面的に値上がり、輸出価格の上げ幅は、輸入価格の上げ幅より大きい。貿易の輸入超過が拡大した。

**紙類製品の輸出**：2008年、24 億 3,700 万米ドル（前年比、+19.85%増加）増加したが、増加幅は▼12.54 ポイント反落した。輸入額は 166 億 9,700 万米ドル（前年比、+19.85%）増加したが、増加幅は▼2.30 ポイント反落した。貿易格差は 142 億 6,000 万米ドルの入超で、前年比、+21.05%拡大した。輸出紙製品の主要な品目は、紙・紙製品、印刷品で、

それぞれ輸出総額の 84.95%と 14.77%と輸出額の大部分を占めた。前年比、紙・紙製品の輸出額は▼0.76 ポイント減少し、印刷品の分は+1.75 ポイント増加した、

**紙類の輸入：**主要な品目及び輸入額に占める比率、前年比増減は以下の通りである。パルプ 39.89% (前年比、+0.42 ポイント増加)、古紙 33.28% (前年比、+4.27 ポイント増加)、紙・紙製品 26.13% (前年比、▼4.64 ポイント減少)。

**紙・紙製品の輸出：**パルプに換算して 135.65 万トン (前年比、▼6.92 ポイント減少)、輸出額は 20 億 7,100 万米ドル (前年比、+12.31%増加；輸入通量は、パルプ換算で 373.60 万トン、前年比▼11.23%下降した。輸入額は 43 億 6,300 万米ドル、前年比+1.77%増加。紙・紙製品の平均輸出価格は 1526.46 米ドル/トン、平均輸入価格は 1,167.90 米ドル/トンで、前年比、輸出品は+20.63%、輸入品は+14.65%値上がりしている。

**パルプの輸出** (回収古紙及び板紙から抽出した繊維は含まない)：輸出量は 1.06 万トン (前年比、▼79.13%)、輸出額は 700 万米ドル (前年比、▼74.07%)：

**パルプの輸入：**輸入量 946.03 万トン (前年比 12.84%)、輸入金額は 66 億 6,100 万米ドル (前年比、+21.13%)；パルプの平均輸出金額は 650.70 米ドル/トン (+20.21%)、平均輸入金額は 704.09 米ドル/トン (+7.35%) で、前年比、値上がりした。

**古紙の輸入：**2,420.58 万トン (図 36)、金額 55 億 5,700 万トン、前年比、それぞれ+7.29%及び+37.48%；輸入平均価格は 229.57 米ドル/トン (前年比+28.14%、値上がり)。市場の分布から見ると、相対の形勢は基本的に安定しているが、市場の集中度は低下している。貿易額で並べてみると、パルプの輸入相手上位 5 カ国に 75%が集中しており、カナダ 23.64%、ブラジル 13.38%、インドネシア 13.03%、チリー 12.42%、USA 12.25%。前年比、上位 5 カ国の占める分は▼2.68 ポイント低下した。カナダ (前年比、▼2.68 ポイント)、ロシア (前年比、▼0.70 ポイント)、USA (前年比、▼0.66 ポイント) は減少、ブラジルの分は、前年比、+3.89 ポイント増加した。

紙・紙製品の輸出相手上位 5 カ国：USA 18.95% (前年比、+0.70 ポイント増加)、香港 14.57% (前年比、▼1.22 ポイント)、日本 8.49%、オーストラリア 4.12%、韓国 3.51%；

紙・紙製品の輸入相手上位 5 カ国；日本 17.88%、USA 15.78% (前年比、+0.97 ポイント増加)、台湾 9.56% (前年比、▼1.62 ポイント減少)、韓国 9.34% (前年比、+0.62 ポイント増加)、スウェーデン 7.69%。

古紙輸入相手上位 5 カ国：5 カ国に 80%近くが集中。USA 44.21%、日本 12.32%、英国 10.96%、オランダ 7.02%、香港 3.91%。2007 年に比べ、上位 5 位の総輸入額に占める割合は▼1.83 ポイント下がり、その中で日本と英国の分が▼1.32 ポイント低下した。

### 1.4.3 《国際金融危機が中国の林産品輸出入に及ぼした影響及び対応》

(2009 年中国林業発展方報告コラムより)

**影響：**中国の林産品貿易は木質林産品を主とするため、輸出は主に欧米市場を中心とする特徴がある。米国においてサブプライムローンに端を発する国際金融危機で、中国の林産品輸出入に対する影響については、以下のいくつかの側面を表していることが明らかにされた。

①国際金融危機の爆発以前、米国のサブプライムローン危機は、既に、中国の林産品輸出入に重大な影響を与えていた。中国の林産品輸出は木質林産品を主とするところから、木質林産品の輸出の中でも、とくに、家具、木質ボードおよび木製品が中心で、米国は中国の第 1 の大林産品輸出相手国である。このために、サブプライムローンが引き起こした米国の住宅産業と消費の不景気は、直接的に中国の米国向け林産品輸出の減少をもたらし、それと共に、さらに、林産品輸出増加の成長幅を引き下げ、主要林産品の輸出数量の全面

的な減少を引き起こした。2007年と比較すると、2008年の林産品の輸出総額は+4.88%で、増加幅は▼16.18ポイント下がり、その中で、米国向けの輸出は33.27%減少。繊維板輸出総額は▼22.06%減少した。その中で、米国向けは+4.95%増加したが、増加幅は▼10.11ポイント減少した。木製家具の輸出量は▼13.21%減少し、その内で、米国向けは▼7.43%減った。木製品の輸出額は▼8.02%減少で、その内、米国向けが▼16.66%減少した。

②金融危機は、中国の林産品輸出の下降に対して、さらに1歩厳しさを加えた。2008年7月、世界金融危機の爆発以来、中国の林産品輸出数量の下げ幅は、さらに、1歩大きさを加えた。2008年第4四半期、主要林産品の輸出量は大幅に減少し、四半期の下げ幅は前年の下げ幅より大きく、その中で、木製家具の下落は▼16.04%、合板▼35.26%、繊維板▼31.33%、木製品▼18.13%、紙・板紙▼27.99%の減少で、それぞれ、前年の下げ幅2.58、17.69、9.27、10.12、21.07ポイントより大きい下げ幅になった。

③林産品の輸入は、輸出の下落と為替レート下落の2重の影響を受けた。一方では、中国の家具、木質ボード、および木製品等の輸出の大幅な減少、国内林産品の生産企業が輸入木材製品の需要の減少、別な一方では、金融危機がもたらした米ドルの大幅な価値下落、あるいは、依然として人民元の米ドルに対する値上がりの状況により、これが、ある程度、国内の輸入林産品需要を刺激した。国際金融危機とその他の要因の総合的影響は、2008年の林産品輸入額を2007年のそれより18.79%増加させたが、増加幅は▼6.64ポイント減少した。このなかで、家具の輸入数量は27.52%増加し、原木、合板、繊維板とパーティクルボードの輸入数量は、それぞれ、▼20.37%、▼3.34%、▼28.19%、および▼28.73%減少した。木材製品の輸入の減少は、金融危機の影響のほか、にあげられる重要な事象は、国内の住宅産業市場の不景気、ロシアの原木輸出関税政策も重要な原因である。

**政府の対応：**国際金融危機が、中国の林産品の輸出に及ぼす不利な影響に対して、国家林業局と関係機関は、生産者を扶助し、安定した輸出のための一連の政策、措置を制定、実施した。主なものは、①資金と税収によるサポート施策である。主に国が、ある分野の林産品に対し、増値税1億元を速やかに引き下げたこと。林業産業の発展に対し4.1億元の利子助成融資を行ったこと。輸入種苗等に対し、0.2億元の輸入増値を免税にしたこと。2008年8月～12月、3回に渉る輸出税の還付率を引き上げた。適用される林産品の範囲は、竹製品、木質ボード、紙製品等110品目、輸出税の還付率は9%～13%に引き上げられた。②貿易相手国との会談と交渉を通じて、中国への林産品貿易障壁を減らすこと、ロシアに向けて輸出関税率の引き上げについて税率緩和と時期を延期させたこと、中米戦略的経済対話、中欧首脳会談、中日ハイレベル経済フォーラム、中ロ林業協力等を通じて、積極的に企業が双方の市場を利用し、双方の資源を穏やかに利用できる環境を創り出した。③貿易コンサルティング・サービスを提供した。主として、輸出企業を集めて、消費国の市場、貿易政策、コンサルティングの集まりを開催、企業が国外の政策と関係法律、法規を理解できるように助勢した。

## 1.5 2009年上半期、中国の木材輸出入の状況

(文献：①秦月、木材総合利用情報、2009年、第8期、②朱光前：中国木材情報、2010.2)

### 1.5.1 2009年上半期、林産品輸出入の形勢

去年の米国に発生したグローバルな金融危機で、中国も相当の打撃をうけ、特に、外需の委縮、輸出の減少、輸外型生産企業は製品を残し、国民経済の発展に相当程度の困難をもたらした。中国政府はタイミングをはかって経済政策を調整し、有効な対応措置を取り、積極的な財政政策と適度な貨幣政策のリリースを行った。09年上半期の狭義の貨幣供給

量 (M1) を前年比、24.8%増やした。広義の貨幣供給量 (M2) は、前年比、28.5%増加させた。各項目の商品支払い金額の比率は、年初、7.37 兆元増加、前年比、4.92 兆元増加した。去年の年間通貨供給量の 150%増になった。6 月末の余剰額は 37.74 兆元に達し、市場の流動性は既に活気が満ち、活動が目覚ましい。国は 2008 年、商品品目の種類により、4 回の輸出商品還付税率の引き上げ調整を実施、2009 年は、また、再度輸出税還付税率の引き上げ調整を行い、輸出企業のコスト引き下げ調整を行った。国は 2010 年内に確実に 10 項目の措置を行い、投資総額 4 兆円でインフラを整備し、内需を拡大する“10 大産業振興計画”を引き起こす施策を実施。このような措置の力は空前のもので、その核心的目標は成長を促し、構造を調整し、民生を保護するものである。

今年上半年、とりわけ、第二 4 半期から、各項目の経済数値が示しているが、中国の経済は既に底を打ち、反転上昇している。中国は既に、世界経済の上で、金融危機の影響から率先して脱しつつある。2009 年 7 月までに製造業の PMI 指数は連続数カ月 50%より高くなっている。PMI 指数は、50%が掲載の拡大収縮の臨界点で、既に 53%の安定した水準にある。上半期中国の国内生産総額 GDP は 139,862 億元で、物価換算すると 7.1%の成長である。その中で、第 1 四半期は、前年比、6.1%成長、第 2 期は 7.9%成長で、これは、2007 年第 3 期以後、連続して 7 期下降し続けて以後、初めての反転成長である。上半年の全社会固定資産投資は、前年比、33.5%成長、前年比より 7.2 ポイント加速した。全社会小売消費総額は 15%増加、物価補正をすると、実際の成長率は 16.6%で、前年比、3.7 ポイント加速した。輸出入貿易総額は、前年比、▼23.5%減少し、その内、輸入額は▼25.4%減少、輸出額は▼21.8%減少である。これから見ると、インフラ整備と内需拡大は明らかで、輸出は、国際市場が、いまだ回復していない影響を受けて、引き続き下がりし、国民経済の発展の制限因子となっている。

### 1.5.2 2009 年上半年、中国の木材市場の走勢の幾つかの特徴

#### (1) 09 年上半年、中国の木材市場の形勢の基本的な位置

中国の木材市場は 98 年、国家が“天然林保護プロジェクト”を実施して以後、99 年木材輸入を奨励するため、ゼロ関税政策を実施、90 年代末、安い土地コストと労働力コスト、および環境障壁が低いことから、大量の外国資本が中国に流入し、木質ボード、ドア、木製家具などの木製品業界の迅速な立ち上げを推進した。以後、毎年 20%以上の成長率で、急速に発展し、輸入原料と輸出製品の 2 つの頭が外国に向かった産業構造になり、中国の業界を、国際木材産業チェーンの中の加工連環とした。さらに、全体の木材市場を“100 年上がり相場”の業況をもたらした。勿論、輸入木材量、また、輸出木製品量は、10 年来、年々増加したが、このような過度の対外依存型産業モデルは、国際金融危機の影響下で、外需市場が急速に委縮、輸出は攻撃の影響を受けたが、その他の業界とその影響の大きさを比べる必要がある。これらの要因から 2009 年上半年の木材市場全体の趨勢を見ると、GDP を牽引する 3 つの要因において、一定の差異が存在している。輸出は明らかにインフラ整備と内需拡大に落后するけれども、木材市場と輸出は一団塊の関連性が高度にあり、木材市場が全国経済において落后することはこれまた必然性がある。その中で、上半期の税関統計数値の中にある程度反映し、2009 年上半年我国の上半期の輸入木材原料は、前年同期比、▼12.72%下降し、輸入額は▼28.26%減少した (表-8)。

特に、木製品の輸出は、09 年上半年、合板の輸出が前年同期比▼36.4%減少、繊維板輸出は▼56.74%減少、パーティクルボード輸出は前年同期比▼49.07%減少、木製家具は前年同期比、▼9.28%減少 (表-9)。

僅かに、税関の数値による輸出数量を前年同期と比較すると、今年 2009 年、上半期、

木材市場の形勢は、いっこうに好くない。しかし、これは僅かにこの市場分析の一つの角度からであり、しかも、また、単純にひとつの角度からの分析で、相当大きなミスリードをする可能性がある。市場分析の中で、市場の背景の分析は相当重要で、去年の市場の動きから見ると、全体的に金融危機の影響を受けるけれども、但し、上半年と上半年のコントラストは非常に大きい。年内の趨勢は放物線の形で、金融危機の打撃が主に下半期に体现され、特に、第4四半期に現れる。

2008年上半期の市場はひたすら高い方向へ向かった。米ドルの絶え間ない下落、米ドルの指数は05年92点から下落し、去年上半年で70ポイントに下がり、国際市場の太宗が商品の資産価格をひたすら上に突きあげ、例えば、石油のように、2008年7月、かつて無い147米ドル/ガロンに達し、海運費は猛烈に高騰、ニュージーランドマツが中国へ到達するための運送費は80米ドル/m<sup>3</sup>、ラジアータマツの輸入価格は138米ドル/m<sup>3</sup>となった。しかし、去年の下半期より米ドルは、ひたすら反転上昇、2009年3月になって89.62ポイントの最高になり、国際市場の貿易は米ドルを基本通貨としているため、大部分の商品価格と為替レートのシステムの激しい動揺が起こった。昨年末、石油は30米ドル/ガロン下落、ニュージーランドから中国への輸送費は20米ドル/m<sup>3</sup>下落し、ニュージーランドと米ドルの換算レートは30%下がり、ラジアータマツの輸入価格は82米ドル/m<sup>3</sup>になった。但し、09年3月から米国は大量のドルを供給したので、米ドルの為替レートは引きつづき下落、既に連続下落して77ポイントになり、国際市場の石油価格は70米ドル/ガロンに値上がりし、ニュージーランド・ラジアータマツの輸入価格は100米ドル/m<sup>3</sup>を突破し、インフレーションの予期と米ドルの下落は、資産価格の引き続き上昇を引き起こした。これによって、今年上半期、木材市場の趨勢は、異なる角度から見て2重性を示している。すなわち、①2009年上半期は、2008年の同時期に比べ、明らかな下降を示す。一方、2008年末の時期に比べると、穏やかな回復傾向を示し、特に、今年の第2四半期は特に明らかである。税関の木材輸入数量値の比較から見ると、去年から今年第1四半期の数値は連続して下落した後、第2四半期の輸入終了の値は43.97%上昇した。(表-11)。合板の輸出数量値は49.96%上昇、第2四半期の繊維板輸出数量値48.25%上昇、木製家具同期15.82%上昇(表-13)。僅かに第2四半期の実績値から見て述べるものの、さらに其の状況が逆転するとは説明しがたく、とりわけ、第1四半期は旧正月休暇で閑散時期の要素が存在しており、取扱数値にある程度の不可能性があるが、相対的に見て、特に、下半期にさらに一步明朗化する趨勢が見られる。これは秦月氏の分析の観点から提供されたものであるけれども、2009年上半期の木材市場の位置は、底を打って反転上昇の機に応答する段階である。この事象と現在のマーケット設定状況は類似性を持っている。上海証券取引所平均株価指数3000余ポイントは6000ポイントに比べて反落、しかし、1600ポイントに比べ反昇した。

## (2) 09年中国の木材輸入総量は減少。但し、品種の差異は大きい。

09上半期、中国の木材原料(原木、製材品、薄板、合板、繊維板、パーティクルボード、枕木)の輸入量は1億7,683万m<sup>3</sup>、前年同期比、257.69万m<sup>3</sup>減少した。減少中は12.72%。但し、品種及び樹種をみるとその差異は相当大きい(表8、9)。

### ・09年上半期、輸入原木総量の下降原因は主として、広葉樹材輸入量の大幅減少による。

09年上半期、中国の輸入原木材積は1,329.45万m<sup>3</sup>、前年同期比▼306.34万m<sup>3</sup>、▼18.73%減少した。その内、針葉樹原木輸入量は972.25万m<sup>3</sup>、前年同期比、▼45.07%減少、広葉樹材輸入量は357.2万m<sup>3</sup>、前年同期比、▼45.07%減少した。その原因は大変簡単で、針葉樹原木は主として内需に使われ、広葉樹原木は輸出用木製品の製造に需要の比重が大き

く、外需が委縮し、輸出が阻害され、原料に対する需要が相応に減少した。2008年輸入広葉樹原木は、積重なる圧力が非常に大きく、価格は大幅に下落、甚だしいケースは真二つに切られ、経営者の損害は惨状にある。現在も、相当程度、在庫の消化過程にあり、輸入の大幅な減少は明快な事実である。しかし、広葉樹材は、また、一概に論ずることはできず、主要な内需はオクメのような樹種にあり、輸入量と市場販売は比較的好調だが、主要な用途は欧米輸出製品向けで、大きな影響を受けている。

・原木の輸入相手、品目に大きな変化が生じた。

09年上半期、輸入原木の総量から見ると、▼306万m<sup>3</sup>減少し、▼18.73%の減少幅である。しかし、国別および樹種別にみると、その変化は大きく、また、内需はマツ原木にあって、ロシア材の輸入量は大幅に減少した。2009年上半期、767.5万m<sup>3</sup>、前年同期比▼292.2万m<sup>3</sup>減少し、減少幅は▼25.57%。これは、去年の同期比の▼25%減少のベースの上に、再度、大幅な減少が加わった。ロシア材原木輸入は、去年の上半期では中国原木総輸入量の64.7%を占めていたが、▼57.73%の減少で、ニュージーランドからの輸入マツ材が今年上半期186.8万m<sup>3</sup>に達し、前年同期比増加材積113.86万m<sup>3</sup>、増加率156.02%になったのと著しいコントラストを示した。去年上半期の輸入量に於いて、ニュージーランド材は第3位だったが、今年は上昇して第2位になり、全原木輸入量のうちの4.46%を占め、増加幅は14.05%になった。もし、その他の国からの輸入ラジアータマツ原木も加算すれば、2009年上半期、中国のラジアータマツ輸入量は205.08万m<sup>3</sup>、前年同期比123万m<sup>3</sup>、149.95%の増加である(表11、12)。金融相場が下落して弱気になっている状態の中でダークホース状態を形成している。

・ニュージーランド針葉樹の輸入が大幅な上昇した主因は以下の通り。

①ニュージーランド・ダグラスファーの用途は主に内需に用いられ、マーケット需要がある。とりわけ、国家が基礎インフラの整備と内需拡大を推進し、需要量が引き上げられた。

ラジアータマツの主要な用途は合板生産の芯板に用いられるが、現在では、既にインフラ建設に発展し、包装等多種の用途がある。現在、国内では上海および周辺地区、漳州、山東が主要な輸入港湾であるが、上海が既に輸入総量の1/3を占め、かつまた、この港湾に卸した後、原木、製材品は四川省などの内陸地へ向けられるが、甚だしきに至っては北方へ向けて販売される。

②ニュージーランド・ラジアータマツの輸入量が猛烈に増加している。

大変重要な原因はロシアが高関税政策をとり、輸出税率が25%で、輸出価格を高くしているが、ラジアータマツのコストパフォーマンスは比較的優勢で、ロシア原木の高関税政策はロシア原木輸入量を大幅に減少させた。ラジアータマツ原木が一つの大きな市場分野を出現させ、ロシア材に取って代わった。

③昨年末、石油価格が暴落し、海運経費が大幅に下落し、これに加えてニュージーランドと米ドルの為替レートが30%下がり、輸入価格と市場の卸値は、大波が弾き飛ばされ、40%の下落を招き、低クラスのラジアータマツ原木とロシア原木を比較すると、コストパフォーマンスに差があり、大口の資金稼ぎの企業が介入し、元来の広葉樹経営商も含めて、甚だしいケースは、圏外の資金も介入して、今年上半期、とりわけ第2四半期のニュージーランド・ラジアータマツ輸入原木において、井戸が噴き出すような状況を引き起こした。

(b) 製材品の輸入が増加、主に針葉樹製材品の輸入が増加。

2009年上半期、木材の輸入総量は減少したが、製材品輸入量はこれに反して増加した。

輸入量 407.74 万 m<sup>3</sup>、前年同期比 21.3%増加 (表-8)、その中で主要なものは針葉樹製材品輸入の増加で、輸入量は 268.39 万 m<sup>3</sup>、前年同期比、29.73%増加した (表-8)。しかし、広葉樹製材品は 139.37 万 m<sup>3</sup>、前年同期比▼17.11%減少した。

針葉樹製材品のうち、ロシア材が依然として第 1 位を占め、144.81 万 m<sup>3</sup>、前年同期比 50.78%増加した。これは、ロシアが原木輸出を減らし、製材品輸出を増やして、製品の付加価値を高める国策の反映である。

カナダが製材品輸出量で大幅な上昇を出現させたことには関心を払う必要がある。2009 年上半年、90.99 万 m<sup>3</sup> を輸入したが、前年の同時期には 40.35%の上昇であったが、2009 年上半年は、2008 年の同期に比べ、大幅な 79.68%増加率であった。その原因は①内需が増加し、マツ材製材品の中で、カナダはコストパフォーマンスに於いて相当優勢である。特に、去年末、カナダと米ドルの為替レートが大幅に値下がりし、価格の下落を招き低級なつかみどり資金の勢いづいた介入を引きつけた。このような状況はラジアータマツのそれと同類である。

(c) **木材輸入価格**：税関資料から見ると、2009 年上半年の木材の輸入価格は、前年同期比、押し並べて大幅な反落で、原木価格が▼20.55%、製材品の平均価格は▼18.19%下落した (表-8)。しかしこれはただ一つの角度からの見方で、反映していることは、去年上半期の高い市場価格の状況と比較しているだけで、去年の年末と比較すると、これこそ、状況は完全に一様ではないことが分かる。勿論市場価格は売値ではなく、いずれも底を打って反昇した状況を表している。その原因は既に示されている。当然異なる品種は差異を表し、特に、広葉樹はそうであり、特徴は、値下がり幅が大きく、回復が遅く、更に重要なことは市場の需要不足である。しかし、針葉樹の価格はさらに変動の大きなスペースがあり、ニュージーランドのラジアータマツ原木のように、去年上半期のように、市場における輸入価格が 1 度 130 米ドル/m<sup>3</sup> を超過し、普通 A 級原木は 1060 元/m<sup>3</sup> ぐらいになり、去年の底値は 80 米ドル/m<sup>3</sup> になり、下落幅は 20 米ドル/m<sup>3</sup> になり、ニュージーランドと米ドルの為替レートが▼30%も下落し、このために、輸入価格は 82 米ドル/m<sup>3</sup> に下落し、市場価格は 680 元/m<sup>3</sup> に落ち込んだ。2009 年上半年、石油価格は 60 米ドル/ガロンに反昇、ニュージーランドと米ドルの為替レートも去年の 1:04 から 1:64 と 20%上昇し、このため、輸入価格は、既に、現在 120 米ドル/m<sup>3</sup> で、市場販売価格は 3 月になり 860 元/m<sup>3</sup> で、以後、貨物が増加し、740 元/m<sup>3</sup> に反落したし、現在また 800 元/m<sup>3</sup> ぐらいになっている。去年のピークと比べある程度反落しているが、去年の年末の底値に比べ、相当の跳ね上がりスペースを有する。

(d) **輸出入総量は、前年同期比下降したけれども、既に同時期より反転上昇の芽が出ている。**

2009 年上半年の輸出入総量は、前年同期比で減少しているとはいえ、第 2 四半期は反転上昇している (表-12、-14)。第 2 四半期と第 1 四半期を比べると、ある程度の局限性があるとはいえ、さらに趨勢が屈曲に転ずるという判断を導きだすことができないが、傾向を注目する必要がある。

(e) **木製品の輸出減少は「木材市場が復活するのに大きな制約となる大難題である。**

09 年上半年、木製品の輸出“三大ボード”(合板、繊維板、パーティクルボード)は、いずれも、大幅な低下をした。その中で、合板の輸出は▼36.46%減少、繊維板▼50.74%減少、パーティクルボード▼49.07%減少した。しかし、木製家具は比較的よくて、僅かに

▼9. 28%の減少であった。これらは、中国の国民経済における輸出統計数値の大幅な下降と一致している。第2四半期の輸出がある程度上昇したとはいえ（表-14）、まだ、趨勢が転変したとは言えない。外需市場の回復は容易に掌握できる範囲ではないと、現在の米国経済は既に底を打った形跡があるが、引き続いて、今後、V型、U型、或いはW型のどのような経済回復になるか未知数であり、しかも、これは中国の木材製品輸出の回復に直接影響するものである。中国の現在の木材市場産業チェーンの構造によれば、輸出が阻害されていることは木製品生産企業を制約するばかりでなく、木材原料輸入にも直接影響し、その影響は全木材産業に発展し、産業構造に於いて根本的なリフォームが行われ無のままに、木製品の輸出阻害は、中国の木材市場の回復と発展の隘路となっている。当然、構造調整、内需の発展は大きな方向であるが、簡単ではない。これは一つの重大な課題で、また、中国の木材産業界は、長期戦略的に配置の調整をするべき一大項目である。

**(2) 09年下半半、相当に関心を払うべきいくつかの側面。**

- ①国際国内マクロ経済の変化、外需市場の復活状況。
- ②石油への関心、注意、為替レートと市場は密接相関するファクターの変化。
- ③マツ材はロシアの政策の変化と密接に関係している。とりわけ、ロシアが高輸出関税80%に引き上げるか、年末になり時期が来ると、後続の変化はどうか、マツ材市場への影響は極めて重要である。
- ④取り巻く環境と比較し、中国の木材輸出状況の変化をトレースし、趨勢に十分関心を払う。）

表—8 2009年1-6月期、中国の全国木材輸入状況および2008年同期との比較表

品目	輸入数量 (万 m3)			輸入金額 (万米ドル)			輸入単価 (米ドル/m3)		
	09.1-6	08.1-6	09/08(%)	09.1-6	08.1-6	09/08(%)	09.1-6	08.1-6	09/08(%)
原木	1329.45	1635.79	▼18.73	180887	280135	▼35.43	136.06	171.25	▼20.55
内 針 葉 樹	972.25	985.50	▼1.34	103559	121680	▼14.89	106.51	123.47	▼13.73
内 広 葉 樹	357.20	650.29	▼45.07	77328	158455	▼51.20	216.48	243.67	▼11.16
製材*	407.74	336.15	21.30	938.35	945.59	▼0.77	230.13	281.30	▼18.19
内 針 葉 材	268.39	168.03	59.73	47365	32644	45.10	176.48	194.27	▼9.16
内 広 葉 材	139.35	168.12	▼17.11	46470	61915	▼24.94	333.48	368.28	▼9.45
薄板	2.06	3.94	▼47.72	2709	5237	▼48.27	1315.05	1329.19	▼1.06
合板	7.66	15.92	▼51.88	4059	9110	▼55.44	529.90	572.24	▼7.40
FB( 万 t)	4.92	17.37	▼71.68	2432	7753	▼68.63	494.31	446.34	10.75
PB( 万 t)	14.29	12.11	18.00	4293	4692	▼8.50	300.42	387.45	▼22.46
枕木	2.22	4.75	▼53.26	381	781	▼51.22	171.62	164.42	4.38
合計				288596	402267	▼28.26			

\*製材 6mm 厚上； FB (繊維板) 単位：万トン、PB (パーティクルボード) (位：万トン)

表-9 2009 年上半期、合板、繊維板、PB および木家具の輸出入状況および前年同期比較

品目	単位	数量			総額 (万米ドル)			単価 (万/米ドル)			
		09.1-6	08.1-6	年比(%)	09.1-6	08.1-6	年比(%)	09.1-6	08.1-6	年比(%)	
合板	輸入	万	7.66	15.92	▼51.88	4059	9110	55.44	529.90	572.24	▼7.40
	輸出	m3	239.86	377.50	▼36.46	109903	173195	▼36.54	458.20	458.79	▼0.13
	差		232.20	361.58		105844	164085		▼71.70	▼113.5	
FB	輸入	万	4.92	17.37	▼71.68	2432	7753	▼68.63	494.31	446.34	10.75
	輸出	t	65.91	133.79	▼50.74	42265	74900	▼43.57	641.25	559.83	14.54
	差		60.99	116.42		39833	67147		146.94	113.49	
PB	輸入	万	14.29	12.11	18.0	4293	4692	▼8.50	300.42	387.45	▼22.46
	輸出	t	3.29	6.46	▼49.7	1424	2195	▼35.13	432.83	339.78	27.38
	差		▼11.0	▼5.65		▼2869	-2497		132.41	▼47.7	
家具	輸入	万件	133.22	147.77	▼9.85	11▼851	11588	2.27	86.98	78.42	10.92
	輸出		7816.8	8616.6	▼9.28	315093	32508	▼3.11	40.31	39.85	1.15
	差		7683.6	8468.9		303242	313620		▼41.67	▼38.6	

表-10 2009 年 上半年、中国の原木輸入量、相手国上位 10 カ国および前年同期と比較

原木の輸入									
09 年 1-6 月期						08 年 1-6 月期			
順位	国名	輸入量 (万 m3)	対輸入 総量比 (%)	前年同 期差(万 m3)	前年同 期比(%)	順位	国名	輸入量 (万 m3)	対輸入総 量比 (%)
1	ロシア	767.50	57.73	▼292.2	▼27.57	1	ロシア	1059.7	64.78
2	NZ*	186.84	14.65	113.86	156.01	2	PNG	136.71	8.36
3	PNG*	74.78	5.62	▼61.93	▼45.30	3	NZ	72.98	4.46
4	ソロモン諸島	58.13	4.37	▼0.55	▼0.94	4	ソロモン諸島	58.68	3.59
5	ガボン	50.88	3.83	▼1.90	▼3.60	5	マレーシア	58.43	3.27
6	豪州*	28.92	2.18	6.19	27.23	6	ガボン	52.78	3.23
7	マレーシア	23.74	1.79	▼29.69	▼55.57	7	ミャンマー	30.96	1.89
8	USA	23.45	1.76	8.34	55.20	8	赤道ギニア	22.94	1.40
9	ミャンマー	19.36	1.46	11.60	▼37.47	9	豪州	22.73	1.39
10	コンゴ	15.74	1.18	4.04	33.89	10	ドイツ	19.88	1.22
計		1329.45		▼306.34				1635.79	

表-11 2009年 上半年、中国の製材輸入量、相手国上位10カ国および前年同期と比較

原木の輸入									
09年1-6月期						08年1-6月期			
順位	国名	輸入量 (万 m3)	対輸入 総量比 (%)	前年同 期差 (万 m3)	前年同 期比(%)	順位	国名	輸入量 (万 m3)	対輸入総 量比 (%)
1	ロシア	144.81	35.52	48.77	50.78	1	ロシア	96.04	28.57
2	カナダ	90.99	22.32	40.35	79.68	2	カナダ	50.64	15.07
3	タイ	38.18	9.36	▼0.75	▼1.93	3	USA	49.03	14.59
4	USA	34.99	8.58	▼14.04	28.64	4	タイ	38.93	11.58
5	NZ*	17.77	4.36	8.84	98.99	5	マレーシア	12.63	3.76
6	フィリピン	10.70	2.62	2.94	37.89	6	インドネシア	12.01	2.57
7	インドネシア	10.24	2.51	▼1.77	▼14.74	7	ブラジル	9.26	2.75
8	マレーシア	8.95	2.20	▼3.68	▼29.14	8	NZ	8.93	2.66
9	ミャンマー	6.98	1.71	1.87	36.59	9	チリー	7.87	2.34
10	チリー	6.42	1.53	▼1.45	▼18.57	10	フィリピン	7.76	2.31
計		407.73		71.63	21.30			336.15	

\*NZ: ニュージーランド、PNG: パプアニューギニア、豪州: オーストラリア

表-12 木材輸入量の4半期別比較表

品目	08年第1期	08年第2期	08年03期	08年第4期	09年第1期	09年第2期
原木(万 m3)	851.47	784.32	678.77	642.44	560.15	769.30
前期比(%)		▼7.89	▼13.46	▼5.35	▼12.81	37.34
製材(万 m3)	150.70	185.43	177.04	192.11	152.34	255.40
前期比(%)		23.06	-4.53	8.51	▼20.70	67.65
木材原料合計	1028.94	997.09	882.77	857.77	724.82	1043.52
前期比(%)		▼3.10	▼11.47	▼2.83	▼15.50	43.97

表-13 ロシアの原木とラジアータマツ原木の輸入量の4半期別比較表(単位: 万 m3)

品目	08年第1期	08年第2期	08年03期	08年第4期	09年第1期	09年第2期
ロシア材原木 (万 m3)	587.80	471.90	416.55	390.26	334.22	433.28
前期比(%)		▼19.72	▼11.73	▼6.31	▼14.36	29.64
ラジアータマ ツ原木(万 m3)	29.57	52.48	47.46	68.88	58.05	147.03
前期比(%)		77.48	9.49	19.87	▼15.72	153.28

表-14 木材製品の輸出量の4半期別比較表

品目	08年第1期	08年第2期	08年03期	08年第4期	09年第1期	09年第2期
合板(万m <sup>3</sup> )	162.03	215.47	209.35	131.57	95.96	143.90
前期比(%)		32.98	▼2.84	▼37.15	▼27.07	49.96
FB(万トン)	62.32	71.45	66.34	43.36	26.55	39.36
前期比(%)		14.68	▼7.18	▼34.64	▼61.23	48.25
PB(万トン)	2.97	3.49	3.32	2.77	1.73	1.56
前期比(%)		14.48	▼4.87	▼16.57	▼37.55	▼9.83
木製家具(万件)	3837.66	4323.96	4368.23	4234.35	3621.83	4194.93
前期比(%)		12.67	1.02	▼3.06	▼14.47	15.82

統計資料：中国の木材及び木製品の生産量の推移（1981～2008年）

年次	木材 (万 m <sup>3</sup> )	竹材 (万根)	製材品 (万 m <sup>3</sup> )	合計	木質ボード		
					そのうち		
					合板	繊維板	PB
1981	4942.31	8656	1301.06	99.61	35.11	56.83	
1982	5041.25	10183	1360.85	116.67	39.41	66.99	10.27
1983	5232.32	9601	1394.48	138.95	45.48	73.45	12.74
1984	6384.81	9117	1508.59	151.38	48.97	73.59	16.48
1985	6323.44	5641	1590.76	165.93	53.87	89.5	18.21
1986	6502.42	7716	1505.2	189.44	61.08	102.7	21.03
1987	6407.86	11855	1471.91	247.66	77.63	120.65	27.78
1988	6217.6	26211	1468.4	289.88	82.69	148.41	48.31
1989	5801.8	15238	1393.3	270.56	72.78	144.27	44.2
1990	5571	18714	1284.9	244.6	75.87	117.24	42.8
1991	5807.3	29173	1141.5	296.01	105.4	117.43	61.38
1992	6173.6	40430	1118.7	428.9	156.47	144.45	115.85
1993	6392.2	43356	1401.3	579.79	212.45	180.97	157.13
1994	6615.1	50430	1294.3	664.72	260.62	193.03	168.2
1995	6766.9	44792	4183.8	1684.6	759.26	216.4	435.1
1996	6710.27	42175	2442.4	1203.26	490.32	205.5	338.28
1997	6394.79	44921	2012.4	1648.48	758.45	275.92	360.44
1998	5966.2	69253	1787.6	1056.33	446.52	219.51	266.3
1999	5236.8	53921	1585.94	1503.05	727.64	390.59	240.96
2000	4723.97	56183	634.44	2001.66	992.54	514.43	286.77
2001	4552.03	58146	763.83	2111.27	904.51	570.11	344.53
2002	4436.07	66811	851.61	2930.18	1135.21	767.42	369.31
2003	4758.87	96867	1126.87	4553.36	2102.35	128.33	547.41
2004	5197.33	109846	1532.54	5446.49	2098.62	1560.46	642.92
2005	5560.31	115174	1790.29	6392.89	2514.97	2060.56	576.08
2006	6611.78	131176	2486.46	7428.56	2728.78	2466.6	843.26
2007	6976.65	139761	2829.1	8838.58	3561.56	2729.85	829.07
2008	8108.34	126220	2840.95	9409.95	3540.86	290.56	1142.23

(出展：暦年中国林業年間、中国林業発展報告)

## 1.6 日中木材・木製品貿易の現状

中国は世界最大の木製品輸出国の一つで、その日本向け輸出は以下の通りである。中国の製材品輸出の約半分は日本向けで、満州里、大連、連雲港、アモイが主要な輸出港である、

(2009年1月から10月まで) :

	日本向け輸出		対輸出数量比%
	数量 (万立米)	金額 (万\$)	
製材	25.23	16548	53.90%
その内:朝鮮ゴヨウ松、 欧州アカ松	9.16		
トウヒ類	1.5		
桐	6.6		
単板・ツキ板	0.71	1648.2	10.10%
パーティクルボード	0.17	211.4	2.60%
合板	32.72	12546.25	7.20%
建築用木製品	4.93	13129.87	15.00%
その内: ドア	2.8		13.40%
木製家具 (万件)	1581.8	45520.3	11.60%

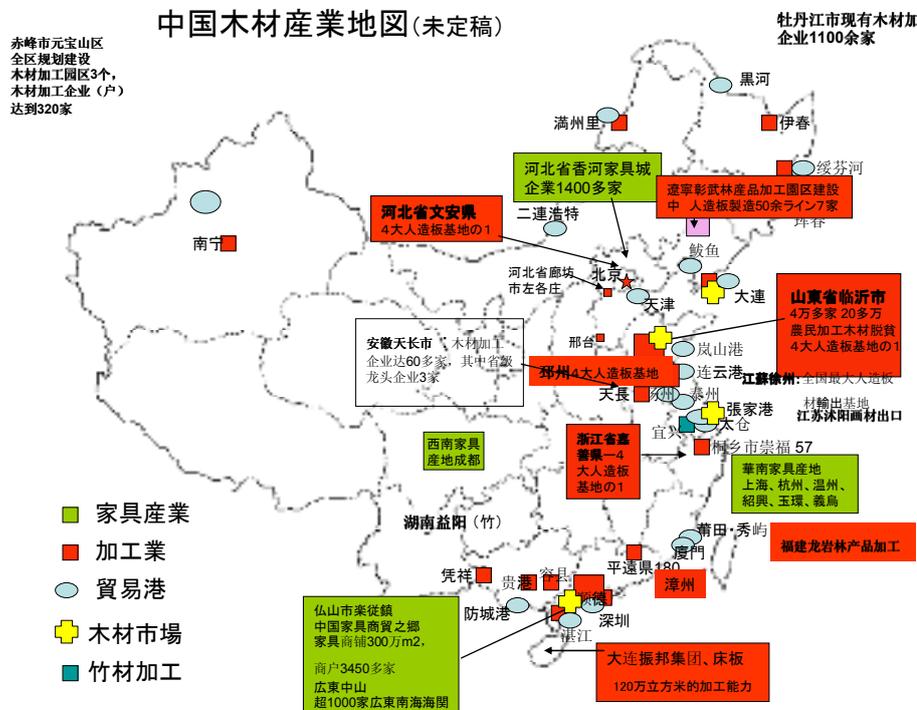
## 1.7 中国木材産業の分布

### 1.7.1 木質ボード産業の分布 (主要な木質ボード三業地図)

1) 江蘇省ピー州 (邳州) 人造板生産基地 : 江蘇省の北部と山東省の南部の交わる位置にあり、面積は2088km<sup>2</sup>、人口は158万人。産業区の位置的優勢は突出している。北は山東省臨沂 (リンギ, linyi) 産業区に90km、西は山東省荷澤 (カタク、荷澤 heze) 産業区まで160km、南は江蘇省宿遷 (シュクセン、宿迁 suqian)、沐陽 (モクヨウ、沐陽 muyang) 産業区に80km、東の連雲港 (lianyungang) まで100kmで海外へ向かい、鉄道龍海線 (リュウカイ、隴海 longhai) 3、3 霍連 (カクレン、霍連 huolian) 高速路、京杭大運河が東西に境界を貫通している。10年の努力を経過し中小企業を代表とする合板産業集群が形成され、生産企業は3000以上、合板の年生産量は600万以上、で、主要生産品は (内装用) プリント合板、難燃合板、耐水コンパネ、集装箱 (コンテナ) 底板、ムク材複合フローリングなど各種の異なる合板100あまりの品種。2004年の輸出量は150万m<sup>3</sup>以上で、全国の合板輸出量の40%ちかくを占める。主要な消費地は北米及び欧州等26の国・地域で、一躍、全国の合板生産・輸出の重要な生産基地となり、江蘇省北部及び山東省南部地区の合板産地のトップである。

2) 山東省臨沂人造板生産基地 : 生産企業は、主として、蘭山区 (ランザン、蘭山 lanshan) に集中している。当該地区の人造板企業は3年の整理統合を経て向上され、3600余りの人造板製造企業は産業構造の調整と新製品の研究開発を経過し、持続的発展の新段階を邁進している。

2002 年以前、この地域の各種人造板加工企業は 3600 あり、大多数のものは家内工業(家族作業) 式の企業で、主要な生産品は多層合板、3 層合板で、設備は立ち遅れ技術は簡単なおので、製品は低質、価格は低廉、単一であった。昔日の石綿屋根の粗末な小屋掛け、アンペラ小屋の工場は、現在は現代的な標準工場区へ変成され、一次成型型の粗末な加工、



(林 良興：未定稿 2008)

低品質、低価格の伝統製品は、新しく設置された 530 ラインの二次成形、3 次成型の高次加工生産ラインにとって代われ、かつては 10%に満たなかった高等級の板製品が全体の 80%を占有するようになった。現在、全区の合板工業は 1087 企業あり、もとの 3600 企業に比べ 73%減少し、企業数は少なくなったが、年生産量は返って増加し減少していない。2004 年末の生産量は 450 万 m<sup>3</sup> あり、2002 年末の 420 万 m<sup>3</sup> に比べると 10%増加している。無法に継続発展した 2000 以上の小規模合板工場は、1000 以上の企業は無汚染の輸入原木を旋削に転向し、1000 以上の生産ラインを保有して、年間の輸入原木の消費量は 200mannm<sup>3</sup> 以上、生産する単板は 180 万 m<sup>3</sup> で、全国への単板供給基地となっている。全区の年間生産額は億元を超過している。年生産量 10mann<sup>3</sup> 以上の緒方人造板加工企業は 10 以上ある。年産額は 3000 万元、年産量 1 万 m<sup>3</sup> 以上の中型人造板加工企業は 200 以上。上半期の木材業界の輸出は過去の記録を突破し、2006 年 1~6 月期、全国の木材業界板材企業は絶えず輸出型に拡大発展し、外国市場開拓に努力して、産業構造の調整を促進し、製品の利潤余地を開拓した。既に 45 企業は自らの自営輸入の権利を獲得しており、その中で輸出額 100 万米ドル以上の企業は 23 社ある。

**3) 江蘇省宿遷人造板生産基地：** 宿遷(宿迁 suqian)は全国で著名な“ポプラの郷”である。宿遷はアメリカ黒ポプラの南方型ポプラを中国で最も早く導入した土地の一つであり、ポプラを発展させてきた 30 年の歴史がある。全部で **6.8 万 ha** の造林を行い、植樹本数は 1.6 億株、全市の森林カバー率は 26.8%に到達。全市のポプラ林の分布域は 12.3

万 ha に広がって、生立木蓄積は 1000 万 m<sup>3</sup>、年間に伐採・利用可能な材積は 100 万 m<sup>3</sup> ぐらいになる。2002 年 国家林業局により「全国平原緑化先進地区（単位）」に選評された。全市で木材生産に従事する人数は約 18 万人、農民は毎年造林、営林、原木販売、木材加工等に従事し、ポプラ産業は約 15 億元の純収入を獲得している。木材工業は宿遷の農民の収入増加をリードする産業である。

ポプラを原料とする木材加工と利用の産業は 20 世紀の 80 年代末から猛烈な勢いで発展した。植樹造林の推進を大いに進めるとともに、宿遷は企業誘致と投資を呼び込むのに休みなく大いに力を注ぎ、木材工業を強力に発展させ、産業と技術の向上を推進した。人造板を重点とする木材工業を以て宿遷は産業の第一の支柱としてきた。全市の木材加工企業は 2100 以上の企業で、その内単板工場 1670 企業、ランバーコア工場 136 企業、多層板製造企業 181、MDF 製造企業 11（設計した生産能力 80 万 m<sup>3</sup>、生産能力は 60 万 m<sup>3</sup>）、パーティクルボード工場 59（生産能力は 10 万 m<sup>3</sup>）、木製品工場 29、年産板材 292.7 万 m<sup>3</sup>、消費する原木、327.77 万 m<sup>3</sup>、2004 年全市で生産額 80 億元を実現、工業増値額 22.3 億元。年間加工原木 450 万 m<sup>3</sup>。2004 年全市の木材加工企業の板材生産量は 400 万 m<sup>3</sup>、生産額 80 億元を実現、中・高密度繊維板の設計上の年間生産能力は 80 万 m<sup>3</sup> で、江蘇省の首位にある。

**4）河北文安人造板生産基地：**河北文安（wenan）は文安県左各庄鎮において、人造板生産企業が集中しているところである。当該の鎮は河北省文安県東北部、東の天津から隔たること 40km、西は北京まで鉄道で 15km、106 号国道で 16km、北は津保高速路に依る、環渤海経済圏に属し、交通は十分に便利、地理的位置は優越している。中国北方の最大の合板生産基地。全鎮で合板及び関連する企業 1226 を擁し、主要な製品は多層合板、パーティクルボード、ランバーコア、内装用ボード、建築用コンパネ、MDF、異型板、複合フローリング等 10 数の大きな類別の中で 100 の品種を生産している。製品の販売先は全国各地、輸出は韓国、日本、米国及び東南アジア格国。合板産業は既に全県の経済を支える産業で、左各庄鎮は既に廊坊（quofang）市の最も富裕な特色ある経済の重鎮である。

最近、中国 4 大木質ボード産地といわれる文安木質ボード産業は不振が続いており、原因を北京林業大学呉哲雄助教が調査、分析している。（呉鉄雄：北京林業大学経済管理学院 2010.3（北京）：中国河北省文安県における木材市場研究（中間報告）：

- ・原料問題：当地産材 8%東北材 68%、輸入材 11%、国内その他地区在 13%である。
- ・木材市場設立は、政府の主導で県外資本が利用して“左各庄国際人造板トレーディングセンター”を設立し、2005 年 4 月にオープン 総投資額 1.8 億元、エリア 18.7ha、延床面積 14.2 万 m<sup>2</sup>、HKCEC（中央ビル）、トレーディングセンター、展示館、情報公開センター、露店などを含む。中国左各庄国際人造板交易センターが設立された当時は、200 余りの会社が入ったが、設立後、2006 年 4 月に文安県に“左各庄国際人造板トレーディング会”を開催し、国内外の大勢会社が参加、近年河北省と文安県が所在の廊坊市も“国際見本市”を開催し、文安県における木材市場の発展を促進する背景だった。結果としては、今完全に機能せず、ビルそのものもホテルに転身している状態。失敗の原因として、原料調達には、市場に頼る必要はないこと。1986 年から始業、北京と天津にあった木材加工会社の廃棄物を利用して始まった。北京と天津の木材加工業の撤廃、また加工規模の拡大によって、原料調達の方法は会社の人脈によって作られたルートに依頼し、大分の会社が小規模なので、原料需給規模も小さい。製品の販売は当初、殆どの会社は北京、天津などで製品販売部門を設立した。製品は殆ど北京、天津、石家荘など周辺大都市に販売していたが、問屋の侵入によって、比較コスト優位性が喪失。文安県に製品販売市場が形成

されなかった。先基地、後市場”の発展モデルで、山東省にある木材加工業の周辺に木材流通市場が存在するパターンと明らかに違いがある。製品の販売は問屋に依頼するようになった。産業チェーンが未成熟で、生産基地としての基本インフラも十分整備されていないことなどがあげられる。

**5) 浙江省嘉善人造板生産基地：** 地区は江南水郷の浙江省嘉善 (jiashan)、改革開放以来、特に 20 世紀の 90 年代以来、木材産業が長足の発展を遂げることができた。全県の木材産業の企業は 300 余社、固定資産同学派 20 数億元、従業員 3.5 万人。木材製品は普通合板、内装プリント合板、ランバーコア、パーティクルボード、コンテナ用合板、建築用コンパネ、海洋作業に用いる合板、木製フローリング、ドア、家具等 10 業類 100 以上の品種。2005 年の合板生産量は 300 万 m<sup>3</sup> 弱、木製フローリング 500 万 m<sup>2</sup>、寝室家具、食堂家具系列は 600 万セット、木製ドア 100 万枚、新製品の販売先は全国各地をカバーし、遙か欧米、中東、東南アジア、インド、日本及び韓国へ売り出し、外国貿易額は 1.13 億米ドルで、三角洲地区の経済のホットスポット。参考資料；中国林業出版社：林業産業発展理論文庫；宋維明 等著“中国木材産業与貿易研究”2007 年 9 月出版、程宝棟；「浙江嘉善木材産業発展及啓示」p29～35、(2006 年 7 月浙江省嘉善の調査結果報告)：

**6) 山東省荷澤木材加工基地：** 荷澤 (菏泽 heze) は中国平原地区の最大の林産品生産、加工、輸出基地で、木材加工企業は全市各県区に普遍的に分布している。全市の林木カバー率は 28.6%、林地面積 26.67 万 ha、農田林網 72.13 万 ha、木材蓄積量 1600 万 m<sup>3</sup> で、ここは中国最大の早生造林ポプラ基地のひとつである。

荷澤人造板企業は曹 (cao) 県庄寨 (zhuangzahi)、郭城黄安 (guocheng huangan) 等の地区で、晨鳴 (chenming)、福大 (fuda)、森達 (senda) 等の 15 大トップ加工企業がある。全市での推計木材加工企業数は 3000 以上、合板生産ラインは 1000 以上、30000 以上の民営加工工場が連動して働いている。従事する人口は 60 万人、年産額 90 億元、で、既に荷澤市を主導する産業になっている。製品は多種多様で種類豊富、主なものは合板 (各種建築用コンパネ、家具板、多層複合フローリング、異型合板、樹脂含浸防腐板)、MDF、パーティクルボード、集成材、ランバーコア、桐幅はぎ板、エンジニアードウッド、家具、木製ドア、内装材料等。年間の加工木材は 600 万 m<sup>3</sup> 以上、その内合板に 300 万 m<sup>3</sup> 以上、桐幅はぎ板 20 数万 m<sup>3</sup>。製品の販売先は欧米、東南アジア、アフリカ等世界各地。

(中国林業科学研究院 于文吉、国家林業局経済発展研究中心 崔平))



広東省のランバーコア工場



芯板の補修作業



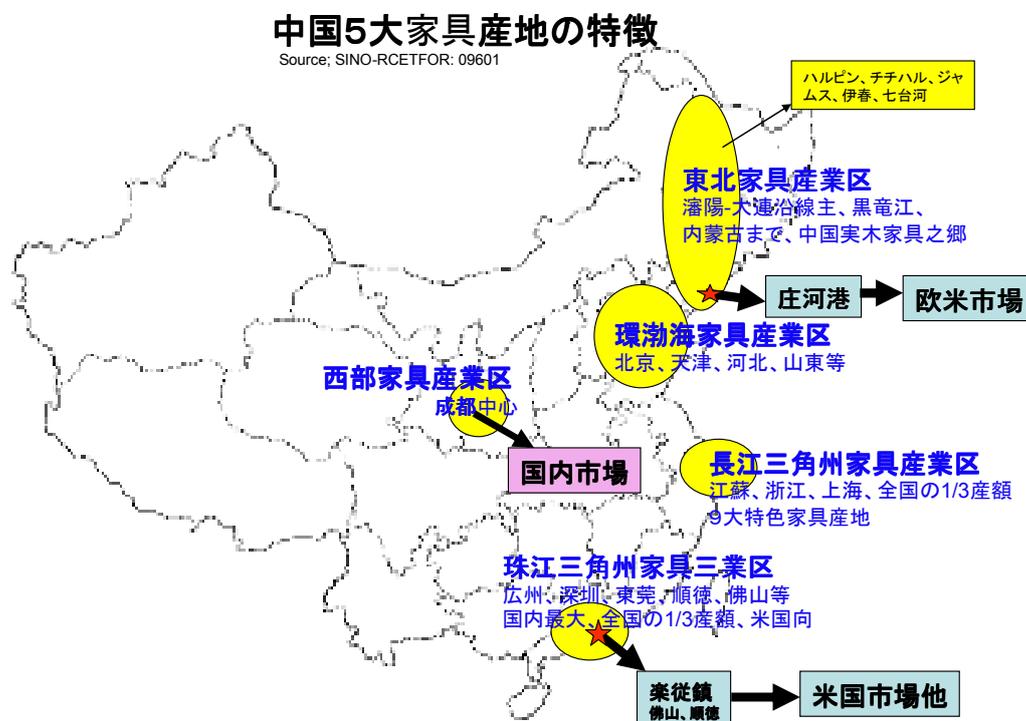
表面修飾単板の剥合わせ

## 1.7.2 家具産業の分布

(参考資料：国家林業局林産品経済貿易研究中心 SINO-RCETFOR Web. 2007.11.15、SINO-RCETFOR 2009.06.01)

中国の 5 大家具産業地区 長年の発展を経て家具業界は、逐次、1) 珠江三角朱、2)

長江三角州、3) 環渤海、4) 東北、5) 西部の5大家具産業区を形成してきたが、珠  
 (林 良興：原図 2009)



江三角州と長江三角州が生産量は最大、輸出額は最高の2大産業区であり、環渤海、東北産業区とともに我国東部沿海地区において南から北に向かった分布局面を形成し、4か所の産業区内に輸出（向け家具）生産企業と大型生産企業が集中し、我国の市場と家具輸出の主要な地区を提供しており、西部家具産業区は主に国内市場へ向けている。

1) 広州、深圳、東莞、順徳、佛山等の広東省の地区を中心にしており、国内最大の家具産業地区である。この一帯の地区は、香港、マカオと隣り合っており、労働力資源は豊富、家具製造業の起こりは比較的早く、各種産業群が集中し、全体の産業連携が完備しており、販売市場が発達しており、ブランドの優勢が顕著である。家具産業は全国の3分の1の産額を占めている。製品の多くは米国市場に輸出される。

広東は全国の先頭を行く家具生産販売の地区で、自己の優勢を十分利用し、現代の情報技術を運用し、絶えず家具産業の技術水準の改造とレベルアップを行い、産業の生産販売の優勢をキープし、まさに、佛山市順徳区が家具生産、販売、組立、卸売の一体化基地であり、樂従鎮は我国最大の家具集散地で、龍口鎮は家具生産と組立材料の家具生産の重鎮である。

## 2) 長江三角州家具産業区

江蘇、浙江、上海一帯を中心に、家具産業の発展が最も早い地区である。この地域は情報が発達し、交通は便利、地域の文化の蓄積は深厚で、製造業の産業的基礎は良く、人才は相対的に集中している。家具市場のキャパシティーは大きく、製品の品質、等級は高く、

企業の経営管理は良好。家具生産額はまた全国の三分の一を占め、輸出を主とし、欧米をその主要な輸出市場としている。

江蘇省を例としてあげると、近年、当該省の家具業界は規模拡大が迅速で、構造調整は突出し、団塊状構造が明確で、販売モデルは豊富、ブランド意識が増強するなど5大特徴がみられ、杭州のビジネス家具と蕭山(xiaoshan)の輸出アウトドア家具、温州(wenzhou)の現代板式家具(MDFを基板にした家具)、玉杯(yubei4,1)の欧州古典家具、安吉(anji1,1)の回転椅子、紹興(shaoxing4,1)の軟床墊(テン)(ベッド・マット)、議烏(yiwu1,1)と湖州(huzhou2,1)の紅木伝統家具、寧波(ningbo4,4)の厨房家具、海寧(haining3,4)の輸出用ソファ家具及び嘉善(jiashan1,4)の輸出用ムク材家具など9つの区域がそれぞれ特徴ある生産区を形成している。

### 3) 環渤海家具産地

北京を中心に、天津、河北、山東などの地域に広がって、環渤海経済圏の発展に依拠している。この地区の家具製造の歴史は大変古く、資源は豊富、地理的位置は優越している。家具企業の規模と家具の消費受容体は大きく、成熟した家具専門販売市場と家具販売を営業する企業が集中し、産業連関は日増しに大きき成熟しており、製品は主として国内市場に向けられている。

産業区の中で、河北省の香河(xianhe1,2)、勝芳(shengfang4,1)の2地区は既に特色ある家具基地の基礎を河北派家具(冀派 jipai4,4)の地位は全国的である。とりわけ、勝芳のガラス・スチール製家具は全国で評価され、東南アジアへ盛んに輸出される；北京の家具企業は当地の市場の需要を良く調査把握して、一定区域において優勢を占めており、選りすぐった家具販売チェーンを特徴として、ブランドの影響力を拡大している；山東省はまさに済南(jinan1,2)が、**軟体家具**(軟体家具：主として海綿、織物を朱田とした家具。例えばソファ、ベッドなどの家具)、ムク材家具、板式家具の重点発展区として計画して、産業集団の優勢を十分発揮し、全体の競争力のレベルを引き上げている。

### 4) 東北家具産業区

主に瀋大沿線(瀋陽と大連)を中心に、黒竜江などの東北の昔からの工業地帯を基地として、小公安麗地方の豊富な木材資源とロシアからの輸入木材に依存して、ムク材家具生産が発展して、ムク材家具企業の生産力は全国をリードする地位にあって、東北アジアと欧州を輸出市場とし、国内市場向けの販売額は比較的少ない。

瀋陽の家具市場は、遼寧省の家具集散地であるばかりでなく、全国、東北ないし内蒙古の集散地でもあり、“中国ムク材家具の郷”の戦略的構築を実施している；大連の庄河(zhuanghe1,2)は全国最大のムク材家具輸出生産基地を擁しており、一定程度集約化を達成し、企業グループ化を達成する業態にあり、製品の種類は非常に多く、セット化が完備している；黒竜江は既に基本的にハルピン、チチハル、ジャムス、伊春、七台河、牡丹江市及び周辺地区を家具製造工業群を主導にして、ムク材家具、板式家具を主とする多元的な品種構造を建設し上げている。

### 5) 西部家具産業区

四川省成都を重点発展区として家具製品を中西部の三級市場に向けて供給している。

地方政府は一連の家具工業を地方経済の支柱とする産業に形成しようと、特別に援助し、各項目の優遇政策のほか、家具産業の用地取得、資本貸与、用具・工具等多方面の問題解決を支援している。この産業区が成熟し、敏捷な物流基礎等について沿岸地域の企業か

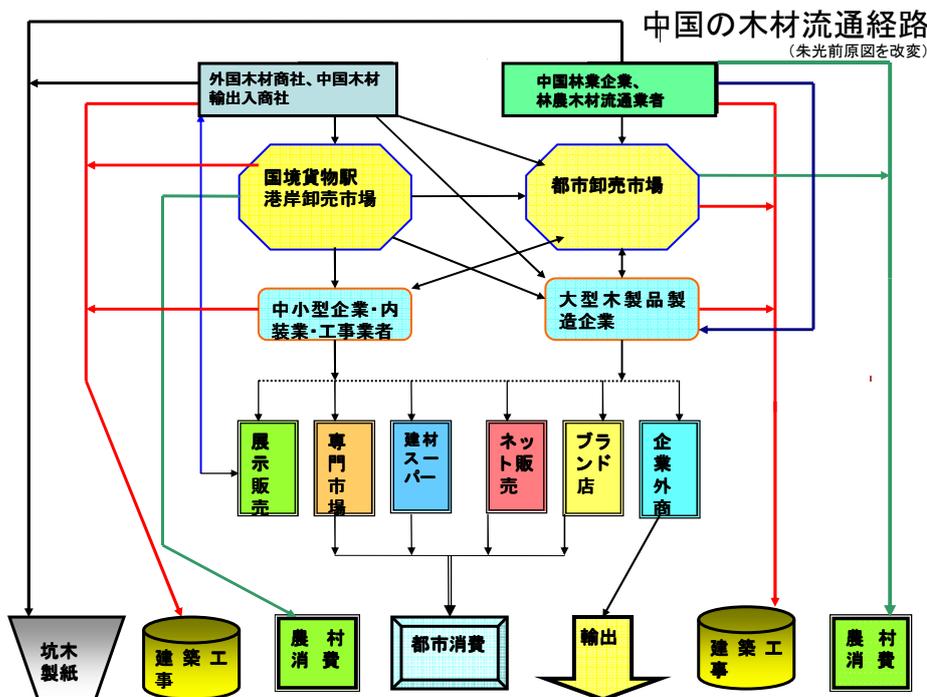
ら温かいままざしで受け入れられ、これに加えて内陸都市の発展に従って家具需要が絶えまなく拡大し、発展する中で、当地の家具業界を徐々に沿海地方の産業の傾斜度転移して、請け負うことができるようにさせ、企業は物流の優勢を以て市場のシェアを勝ち取り、併せて産業団地を強大な基礎にする産業発展計画である。

## 1.8 木材産業の分布と木材流通

### 1.8.1 木材流通フロー

中国の木材市場は、日本の市売り市場とは異なり、その設置された地域によって、機能が若干異なる。中国の木材流通と市場の機能を下記に要約する。

中国の市場は、市場経営企業が、巨大な木材センターの構内に多数の貸し店舗・ブースを備え、様々な木材製品を売買するテナント企業に貸出し営業する木材製品デパートあるいはセンターともいえる形態である。輸入港湾や大都市の1、2級卸売市場、と都市の中にある一般消費者、施工業者相手の3級都市の市場に分かれる。



### 1.8.2 木材市場の機能

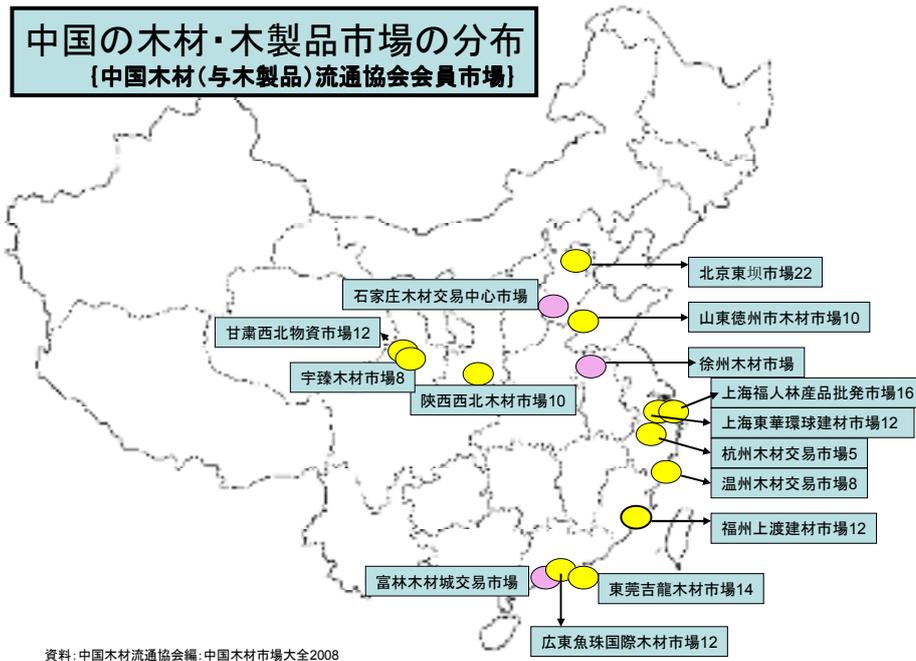
都市木材市場の機能は日本の卸売市場と異なり、以下に示す多様な機能を担っている。

- ・ 交易：木材、製品、加工資源の提供、品質保証、現金取引、購買安心。
- ・ 商務：文書処理・代理業務、手形・証券予約、法律諮問、会議など。
- ・ 展示：見本・サンプル展示、新作商品展示。
- ・ 保管：倉庫提供、フォークリフト、クレーン等の積み下し業務。
- ・ 運輸：各種運輸車両の提供、鉄道引込線。
- ・ 情報：電子スクリーンによる最新価格・業界情報の提供。

- ・通関・輸出入代理：税関との協力、木材専門の通関専門チーム。
- ・加工：原木の切断・製材、板材の乾燥。
- ・電子商務：インターネット取引。

### 1.8.3 木材市場の分布

主要木材集散地 (中国林業産業与林産業年鑑 2007) YCFI2007



#### 1) 上海福人林産品卸売市場（上海福人林産品批發市場）

中国（国際）家具、内装材、フローリング木材交易集散地。年間交易量 100 万 m<sup>3</sup>。テナント企業は約 300。フローリング、家具、内装、ドア、造作材（巾木、額縁、回り縁など）等（の原料を提供する分野で、すでに、沪太路（フータイルー）福人家具裝飾木材配送中心（名貴木材市場）及び蘊(yun)川路福人森林地板材料配送中心 2 つの大セクターを形成し、木材加工産業チェーンの重要な構成部分となっている。

①福人家具裝飾（内装）木材配送中心（名貴億材売場）：沪太路の非常に地の利よい場所で、12 万 m<sup>2</sup> の面積に、営業面積 7 万 m<sup>2</sup>、テナント企業 170 以上、輸入板材、裝飾用単板、銘木原木で著名。年間木材交易量 60 万 m<sup>3</sup>。珍貴原木区、輸入板材区、輸入裝飾用単板区、屋外用防腐材料区は持ってない。

②福人森林地板材料配送中心：上海宝山区蘊(yun)川路にあり、営業面積 7 万 m<sup>2</sup>、すでに国内外の 80 余の大型フローリング素材・半製品を提供する企業がテナントに入っている。世界の 100 以上の種類の珍貴フローリング材料、ムク材、ムク材複合、強化、竹フローリング材料を集め、なんでもある。毎月、フローリング素材・半製品の吞吐量は 5000m<sup>3</sup> 余（堆積）、上海港のフローリング素材取扱量の 1/3 強を占める。6000m<sup>2</sup> のビジネスビルは全国首位のいつまでも幕を下ろさないフローリング展示営業場。

③華東地区首家港口型木材深加工工業園区——太倉（タイサン）港福人林産品工業園区：

大倉港福人林産品工業園区は大倉港港口管理委員会、大倉福人林産品卸売市場大倉合江経貿有限公司により連合で運営されている。工業園区の第1期の計画では100haの用地を占める。主に木材の高度加工企業の招致・投資である。2008年半ばから従来のロシア材に加えて、カナダ製材、ニュージーランド原木が急増している。

張家港はアフリカ、大洋州、パプアニューギニアの広葉樹原木の中国第1の取扱港で年間およそ350万m<sup>3</sup>を荷降ろしする。

### 。張家港埠頭



張家港埠頭クレーン群



ソロモン諸島産輸入材



アフリカ材

**2) 上海東華環球木業建材交易城：**幾つかの国内外の有名企業が共同で投資、手を携えて創建した一流のガーデン式木材、木工機械、石材等の建築卸売の現代的交易マーケット。交易城の全体区画は19畝、総営業面積は26万m<sup>2</sup>、総投資額は2億人民元。交易城は、交易、展示、木材、木材加工機、石材高度加工、保管、運輸等の機能が一体となり、輸入・国産の銘木・貴重木、木材産業製品、建築コンパネ、板材、ツキ板、林業機械、輸入石材等の卸売をおこなっている。

**3) 広東魚珠国際億材市場：**広東州黄魚珠において、この地は全国的に名前が聞こえた木材の集散地で、この市場は広東省政府が重点的に援助し、育て上げた現代物流工業団地の一つ。市場は敷地面積60万m<sup>2</sup>、主要な幹道は40m、支道は20m。大型駐車場は無い。市場は貨物の乗り換え（積み替え）展示し即売、卸売、小売、運輸、積み下ろし、保管、搬送、加工及び放送、配送、情報処理、金融サービス機能を有機的に結合し立ち上げる。この市場はすでに6万m<sup>2</sup>の木材交易センター、原木積み下ろし埠頭、12万m<sup>2</sup>の原木堆積場、それぞれ木製品、家具、原木の3つの交易区、及び1か所の展示センターを建設のために投資し、200以上のテナント企業がこの市場で営業している。年間木材の取扱量は30万m<sup>3</sup>、木材製品の販売量は200万m<sup>3</sup>を超過し、取引額は200億人民元を超える。華南地区の機能は最高に完備しており、物流量は最大の木材市場である。



広州魚珠国際木材市場



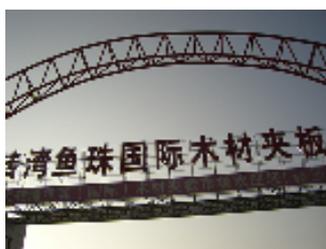
木材輸入埠頭業務



テナント営業所

**4) 九江魚珠国際夾板木材市場：**広東魚珠国際木材市場は、地価高騰による市場拡張が困難になり、楽従家具産地を控えた、珠江沿岸の、国道、高速道が交差する陸運、水運に

至便な、仏山市九江鎮に新たな先端産業基地建設をめざし、第2市場となる九江魚珠国際夾板木材市場を建設中である。計画敷地面積67haで、この内、1期工事47haが完成しており(2009.11現在)、既にテナント企業200社が営業している。第2期工事で残りの20haの開発がおこなわれる予定で、最終的には400企業が出展する予定である。この市場は仏山市一帯の家具工業生産地帯の生産業者へ原料供給を目指している。原木取引区、製材取引区、木質ボード・装飾材取引区、木工機械取引区、金融物流区が設置される。取り扱う木材は、南洋材、ロシア材、米材など、主に輸入材が扱われている。



広大な市場建設中



テナント貸店舗



既に入居、輸入カナダ製材

#### ・広東省仏山市順徳地区は世界一の家具市場



仏山市沿道6km 全て家具関連企業



樂從羅浮宮國際家具博覽中心

#### 5) 広東东莞興業夾板(jiaban)市場 :

(夾板(jiaban)中国語で合板、ベニア、梱包・包装用材の意)

东莞市興業木材裝飾市場有限公司が投資して建設したもの。市場は30万m<sup>2</sup>の敷地を有し、2300余のブースに店舗がある。300以上の企業が駐在し営業している。主に長い製材品、合板、ツキ板、MDF、パーティクルボード、内装用パネルを扱っている。

**6) 広東东莞市吉龍木材市場 :** 东莞市吉龍(集團)有限公司が8500余万人民币元を投じて開拓、創建した木材を主要に取り扱う専門市場。东莞市の中央部に位置し、広東港湾の経済通廊の要塞。107号国道と东莞—深圳高速路が貫通している。东莞と家具の一つの重要産地厚街及び东莞市区と隔たることわずか車で15分。东莞市は家具の年間輸出総量が中国の1/3強を占める巨大な山をなす鎮である。土地占有面積は16万m<sup>2</sup>。規格ではない店舗1200余ブース。経営面積9安m<sup>2</sup>、倉庫5万m<sup>2</sup>。華南地区のもっとも条件が具備された木材の専門交易市场。400以上の家具専門企業を擁し、その中で台湾資本を主とするもの300余企業。

**7) 河北正定恒山板材市場 :** 正定県市街の西107号国道沿い、南は石家庄市と10kmの距離にある。市場は1993年4月30日開業。土地面積は40ha、営業面積は30万m<sup>2</sup>。投資額2.3億人民币元。施設は業種ごとに11の専門区に分かれている。2000企業のテナントが、主に、国内外で生産された各品種のブランド、規格、材質の合板、内装版及びペイント、

塗料、接着剤、五金（金具）、家具部品、証明器具、造作材、竜骨、フローリング、ムク材窓ドア、石こう製品、防火厨房家具材料、アルミ・プラスチック板、半製品家具、木工機械、電動工具等を扱っている。二〇〇四年商業取引額は 25 億人民元、販売ネットは全国に広がっている。2002 年全省同業界は率先して ISO90001；2000 品質管理認証を取得。

### 8) 北京東坝（トンバー）名貴木材大売場：

北京市朝陽区東坝郷にあり、市場の主体は、実力が強大な東方盛澤集団に委託されており、四惠橋建材發展会社が 1.2 億元の資本を出資して力を注ぎ創設した。敷地面積 33 万 m<sup>2</sup>、国内外の 200 余の木材産業の知名度の高い企業を集め営業している。欧州、北米、アフリカ、東南アジア等の地区の 100 余種の原木と製材を取り扱う；国産木材区の経営面積は 3 万 m<sup>2</sup> で、主要な経営対象は、ヤチダモ、コウヨウザン、クスノキ、アズサ、ニレ、屋外用防腐木材、等各種の国産材；人造板大世界区；3 万 m<sup>2</sup>、既に 100 余のテナント企業が卸売業を営んでいる。もっぱら MDF、表面化粧版、ブロックボード、フリー板、積層板、集成材、竹木コンパネ等 6 大品目の 100 近くの有名ブランドを扱っている。ツキ板工場はスチール骨材で建設した全天候型採光の大建造物。国内外の中級、高級、各種規格のムク材ツキ板及び表面化粧用プリント紙類を営業している。紅木街は面積 1.5 万 m<sup>2</sup> で、主としてカリン、シタン、マホガニー、鶏翅、コクタン等の紅木紫檀類を取り扱っている。



ツキ板・家具用銘木



コウヨウザン集成板



コウヨウザン幅はぎ板



北京名貴木材大売場



内装材デザイン加工区

9) 福州上渡建材市場：当該市場は、元の福州林産品交易市場で、1997 年 8 月創立、1999 年 10 月正式に開業した。福州市倉山(cangshan)区上渡路にある。市場総面積は 33 畝、建築面積は 9 万 m<sup>2</sup>、営業している企業は 800 以上のブースに出店し、倉庫面積は 8 万 m<sup>2</sup>、オフィスと生活の総合建築面積 1 万 m<sup>2</sup>。

市場は福建省最大規模の原木、基材、木材製品、陶磁器、トイレ用品、ペイント、全体キッチン家具、五金（金属部品）、照明器具、総合的な製品を取り扱う総合性大型専門の建材市場。当該市場は既に国家林業局により国家級木材交易市場に組み入れられ、1999～2001 年、二年連続して「全国木材明星市場」の称号の榮譽をえた。

市場のテナント企業は 300 以上、交易品は 2000 種以上、省級を代行するブランドは既に 200 種以上、年間に全省の販売額は 10 億元を超える。

**10) 石家庄市木材中心交易市场：**河北省石家庄市政府重点サポートの河北地区最大の木材市場の一つ。既に原木を主として、製材品、建材、PVC 管材等を一体として集め、年々、機能を効率化し、成長を津兪毛手居る総合市場である。

**11) 中国科技木業城：**大型の現代的人造板専門市場で、江蘇省ビー州市にあり、敷地面積 53.33 畝、建築面積は 65 万 m<sup>2</sup>、総投資額 6.9 億元。この市場は各種の合板、パーティクルボード、繊維板、フローリング、ドア、造作材、人造板設備、機械化電化工業製品を広く扱い、国内及び国際貿易、現代的物流およびインターネット上での取引を行っている。

ビー州市は 3000 もの板材企業を擁し、年商額 120 億元。その周辺の臨沂 (linyí, 2, 2), 宿センは人造板企業が万戸を超えて繁集している。

中国科技木業場は、魯南、蘇北の 2 大産業集群の産業優位性、貨取源頭、全国への影響力、世界へ向かって押し出すことを委託したものである。資源都市場の機能を打ち立てた上、現代の商業貿易、物流の梃子の作用を十分發揮して、専門市場と産業群集とがお互いに接し合い、助け合ってウイン-ウインの関係を作り上げている。

**12) 浙江南潯建材市場：**もとより“江浙雄鎮”と称えられる浙江省湖州市南潯鎮の中に存在。北は太湖、運河と 318 号国道による。東は江蘇省に接し、上海、広州、蘇州はみな 100km 内外の位置にあり、長江三角州の中心地太湖南岸、差し迫った技術密集地帯で、水陸の交通は至極便利。浙江南潯建材市場は敷地面積 40 万 m<sup>2</sup> を突破し、営業用の部屋は 3000 余間、経営企業は 2000 余戸、従業員は 1 万人を超え、合板、フローリング、家具、五金、建築冬期、照明器具の 8 つの交易区を有し、経営企業と全国 1230 余の生産企業が長期に安定した取引関係を確立している。輸送は停滞なく、価格は低廉、ビジネスは周到で、全国最大の合板集散センターである。近年になって、市場の率先したリードの下に、フローリング産業が急速に發展し、合板産業と家具産業を引き継ぐ一産業地に發展している。この地域全区で全部でフローリング生産企業 300、フローリング生産ライン 350 条、フローリング生産量年間 3600 万 m<sup>2</sup>、年産額 40 数億人民元に到達し、全国最大の生産基地となっている。

**13) 杭州木材交易市场：**杭州市府の批准を経て、1999 年末建設開業した。主要な運営機関は杭州木材有限公司で、全国木材産業界では知名高い企業である。中国木材流通協会の副会長の機関であり、併せて 2005 年全国黙座業界優秀企業に評価されている。

市場は杭州市秋濤路 190 号杭州木材有限公司内にあり、市の南北幹線道路秋濤路に面し、背後は銭江路に依拠し、北は銭江新城に望み、南は銭江四橋に向かう、地理則を得た場所にある。

市場は敷地面積 8 万 m<sup>2</sup>、その内営業用の店舗面積は 4 万 m<sup>2</sup> で、板材区、名貴木区、五金建材区、原木区、建築用コンパネ区に分かれており、主として、木枋材料 (dangliang) 原木、内装造作材、フローリング、建築コンパネ、及びセット五金建材を取り扱っている。市場は全部で 250 余の商店が共有しているが、その内、38 企業は一定以上の規模を持った有限公司で、各種の木材及び木製品、物資の輸入元、保管卸しを経営し、業務は省内あまねく及び、華東地区に広がっている。市場が開業以来、従業員約 2000 人を受け入れた。2004 年 12 月尾交易量は 35 万 m<sup>3</sup>、成約額は 15 億元で、市場のテナント入居率は 99.9% である。

**14) 四川大西稻見建材城：** 鉄道線路が集中し、貨物の到達、派出、保管、交易、物流配

送及びその他のサービスのセットが一体的に行われる全国（規模）の大型建材市場。

当該市場は 25.3 畝の敷地を占め、成都市金牛区洞子口郷政府の対岸にあり、3 号館上路の成彭立体交差橋、蓉北商貿大道、九里堤北路、金府路に間近く、全国の鉄道路線と相互に通じる専用線 4.37km があり、市場内において 5 支線に分かれて公共鉄道線とつながって大変便利で、港口における輸送の便利さは突出している。執務用建物、倉庫棟は 5 万 m<sup>2</sup>、野外の堆積場は 5 万 m<sup>2</sup>、ここで経営する商戸は 400 社以上。

**15) 西北物資市場（含木材、鋼材）：**甘肅省木材総会社が主に運営する全省最大の総合性生産資料市場で、数年来、既に西北地区の重要な現代物流センターとして発展してきた。市場の占有地面積は 15 万 m<sup>2</sup>、倉庫タナ面積は 12000m<sup>2</sup>、倉庫区域内には鉄道専用線が 1 本、鉄道部門と連結経営を行って、同時に 30 車輛分の貨物の積み下ろしができる；門型クレーン 15 基、可吊積載重量 510 トン以上の貨物の積み下ろしネットワーク；機械 20 輛、電子秤台、配送用トラック 30 余輛；年間出入量 200 万トン。市場は更に、専用活用できる年間生産能力 6 万 m<sup>3</sup> の自動製材ラインを保有している。既にこの市場には進駐している工場やテナント 600 余業者があり、市場の交易量は 120 万トン、交易額は 60 数億元。2002～2004 年 3 月の年間全投資額は 2000 万元以上。

**16) 陝西宇臻（longxiyuzhen）物流配送有限責任公司：**陝西県（ロウセイケン）文峰鎮にあって、西北中国最大の薬材市場と甘肅省最大の木材市場である、甘肅省中東部の重要な物資州産センター。敷地 27ha を占め、屋外の貨物置き場 86000m<sup>2</sup>、総合ビジネスビル 9600m<sup>2</sup>、温度管理された倉庫 7600m<sup>2</sup>、アーチ型倉庫 4000m<sup>2</sup>、取り囲んだ天蓋型のひさし 6000m<sup>2</sup>、車両修理センター 2600m<sup>2</sup>、50 トン、100 トンの台秤 2 台、50 トンの門型クレーン 4 台、停車場 25000m<sup>2</sup>；鉄道専用線 1 本、場内に設けた両股道、貨物卸用プラットホーム 400m、20 車輛の積み下ろしが同時にでき、配置されたトラックは 30 台、年間貨物取扱量 120 万トン。注材営業企業は 400 余業者、年間取引量は 80 万トン、木材交易量 30 万 m<sup>3</sup>、社会公益 2900 万元を実現。

**17) 德州山東木材交易市場：**中国木材流通協会会員として、2002 年、2003 年 2 年連続して中国木材流通協会はこの市場を「全国木材スター市場」と評価した。1994 年山東省体制改革委員会の批准によってこの市場は成立後、山東省に足場を置いて全国の省級木材交易市場に向かい合って営業している。市場は大変地利のよい位置にあり、市場は、京滬（jinghu）と石徳の鉄道が交差し、集まるところにあり、横方向に河北省と山東省をまたいで交差するところにある。德州駅は中国東北地方の木材が南下して必然的に經由する地点である。独特の区的位置は德州をして山東、河北、河南、江蘇等の省の億材集散地。交易市場は 21.3 万 ha、現代化されたクレーン装置、全部の作業は器械化されて操業、1417m の専用ひきこみ鉄道、年間貨物の出納量は 100 万トン以上に達する。近年になり、一連の企業誘致・投資優遇政策を施行してきた。例えば、企業のテナントビルの建築拡大への投資、暖房の無料化、冷房設備及びサービス、車両の流入が多い顧客には費用の減免措置を實行；テナント入居者の業務と営業のため関係する各種の証明書類と鉄道貨物輸送票に関する業務のサービス；2 回の貨物積み替え積み下ろしの顧客のため、車両運搬の計画の調査報告、積み下ろし業務、保管、輸送業務の代行等のサービスを行う。

**18) 黒竜江賓西中俄木材加工批發大市場：**ハルピン市の賓西経済開発区にあって、黒竜江賓西国際貿易加工有限公司が 4 億人民元を投資して創建した全国最大の総合的木材加

工市場。市場は、ロシア輸入木材の精密高度加工、研究開発のトップを構築し、展示、面談の足場とし、高級輸出家具の生産と交易基地のために、生産加工の基礎とし、発展させるためにこの場所におかれた。市場の総面積は 60 万 m<sup>2</sup>、収納する生産企業は 300 企業、営業商家の総数は 2500 業者。営業額は 24 億人民元に達し、その中で加工企業は生産額 15 億人民元を実現、商業企業は取引額が 9 億元を実現した。経営項目は木質家具及び家具の部品、修理部品・付属品、木製窓・ドア、原木、合板、薄板、内装プリント紙、各種板類、造作材、フローリング、木製工芸品、卸売と小売。同時に、また、油脂塗料、五金電気器具、陶磁器製品、鋼材と石材等の各種建築内装材の生産と販売。



国境のロシア材鉄道輸送



満州里税関区ヤード



満州里輸入資源加工団地 56 社入居



巨大な乾燥設備



フリー板表面補修作業



日本向け赤松集成材製品

**19) 陝西木材交易市场：**陝西省木材総会社が市場の場所、設備条件、及び長年従事した木材経営の知名度を利用することにより、この当地にあつて、政府が一定の優遇政策を与え、発展し、形成された。市場は 1999 年正式に看板を掲げ成立し、併せて営業、幾年かの育成と建設を経て、現在は既に中国西北地区規模最大の木材卸売市場に発展し、中国木材流通協会の理事を務める組織である。

当該市場は西安の東近郊十里鋪に所在。華東へ通ずる各地の沢山の高速道路の起点。市場総面積は 20 万 m<sup>2</sup>、中に鉄道専用路線 1.2km、門型クレーン、固定クレーン、油圧クレーンが 30 余台設置され、運輸車両は 60 余輛、専門の積み下ろしチームがあり、一連の優れたサービス体系を所有している。集材テナントは 120 以上の業者、年間木材の出納量は 60 万 m<sup>3</sup>、鋼材 30 万トン、木製品、建築用今般ね等経営品目と数量は絶えず増加しており、既に多種多様な品目、規格の商品が何でも取り揃えられた大型交易市场となっている。顧客に対し積み下ろし、運輸、保管、木材乾燥、検尺サービスを提供し、工商、税務等の業務を代行する。

**20) 江蘇豊県木業商城：**徐州市豊県木業は長年の発展を経て、既に全县の経済的主導産業の一つとなっており、従業する人員は 15 万人に達する。内装用造作材、ポプラ単板、工芸額縁の生産品の加工・組立を主要な製品とし、国内の重要な木材加工生産基地となっている。徳に内装造作材の加工及び販売は、終始、国内市場の第 1 位を占めている。当該市場は 2000 年創建され、市場の機能の規則制度が整備されるのに従って、組織を統一し市

場を建設、管理、サービス及び企業誘致、投資事業を行い、市場開発の“五通一平”条件を実現し、初歩的に区域性的の木業総合市場の枠組みを形成した。当該商城の原木交易市場は14.7ha、2002年以前はヨーロッパブナを販売して、一度全国最大の輸入ブナ材交易市場であった。2003年以後は、造作材加工用の構造に変化し、アフリカ、大洋州等の地区から輸入する高級・中級木材樹種に変化し、市場占有率は日増しに増加し、全国で比較的大型の輸入木材集散地となった。2006年輸入木材約25万m<sup>3</sup>を交易し、交易額は6.5億人民元。板材を代表とするエンジニアードウッドを新しい販売品のホットスポットとし、営業面積は1万m<sup>2</sup>のエンジニアードウッド板材専門の市場を建設した後国内の重要なエンジニアードウッドのしじょうになり、年間取り扱い高15万m<sup>3</sup>、交易額6億元。当該商城の工業園区はここ数年の拡大発展を経て、80余haの規模に発展し、110余の木材加工企業を誘致し、加工製品は全国各地へ販売され、部分的には輸出されて、年間の生産額は約4億元。

2003年、豊県木業商城を基礎として、また、江蘇風鳴木業集団が、登録資本3015万元で創設され、集団の主要な経営範囲はとりもなおさず木業商城の建設、管理及びサービス業務である。

**21) 大連木材市場：**東北遼東半島の南端に位置し、中国北方最大の不凍港でもある。この鉄道は綏芬河と満州里国境に直接つながっている。水陸輸送で木材を直接に華東、華南などの経済発達地域まで販売することが可能である。以前の計画経済時代でも、大連は東北地方における木材の集散地であったが、当時は取り扱う木材はほとんど国産材であった。ここ数年来、東北産木材の伐採量が絶えず減らされる一方で、次第にロシア産木材の取扱を主とするように移り変わってきた。現在はロシア産材が80%を占める。この市場は1995年に本格的に設立され、当時の一つの市場から、現在の三つの市場に拡大された。市場にはもともとは9通の専用鉄道レールが敷設されていたが、現在は7通の専用レールに整備され、約400企業の木業業者がここで木材取引を行っている。現地関係者によれば、2000年までに同市場では、年間2.5満了の木材が到達するけれども、これは(部分製材も含め)約150万~170万m<sup>3</sup>の木材に相当する。近年になって、他の二級市場や幾つかの大企業も、直接、綏芬河と満州里で木材を購入する量が、年々、増加しつつあるので、大連市場への木材到達量が減少する局面になっている。地元の業界内の関係者は、現在、年間の木材到達量は100万m<sup>3</sup>前後であり、約1/3が減少したと推断している。大連へのロシア産木材は鉄道やトラック輸送以外に、少量の水運もある。即ち、ロシア極東港で木材を船積みして直接大連へ運ぶ。しかし多量にはならない。年間、僅か10数万m<sup>3</sup>前後しか輸送されない。

大連市場が德州木材市場と異なるのは、加工業が進んでいて、到達した木材の相当部分をここで加工し、その製品(家具、フローリング、回り縁等の際区材)と未加工品(製材、集成材、オーバーレイ単板など)は水路を通じて華東、華南などの地域へ販売され、相当量のものが海外へ輸出される。不完全な統計によれば、2004年に大連から輸出された各種サイズの製材は、それぞれ、上海へ40万m<sup>3</sup>、山東へ約20万m<sup>3</sup>、寧波へ約15万m<sup>3</sup>輸送された。また、大連に到着したロシア材原木が、量は少ないものの、地元では加工しないままに、直接船積みして、華東、華南などの港湾都市へ販売される。

#### 1.8.4 都市周辺の建材市場

よく知られているように、中国の都市における住宅は、一般に高層集合住宅である。消費者が住宅を購入するには、多くの場合、建設計画が発表され、開発区の建設モデル展示

場を訪問して、住宅企業に説明を聞き、契約する。ビル躯体が完成し、実際に自分の住宅として引き渡されるのは、まだ内装の行われていないコンクリートの躯体区画で、その後、購入者は、内装業者に発注したり、建材市場に赴き、材料を購入して内装を行う。この住宅販売はスケルトン販売といわれる。住宅改修も同様である。この消費者の需要に応えるあらゆる住宅建築資材を小売りする建材市場が年には多く存在する。この建材市場には内装業者やデザイナーも事業所を開設して、消費者の需要に対応している。スケルトン売りは、集合建物の中で各自の区画を内装工事するため、長期にわたり、騒音、環境汚染、治安の不安などが継続するので、行政施策として、これまでも完成住宅（インフィル）販売を奨励されてきた。最近では、2008年9月に政府は大都市におけるスケルトン売りを制限する施策を発表している。中国社会が急速に近代化し、完成住宅販売も進行しているが、依然として、従来の方が一般で、都市の建材市場は盛業を保っている。

以下に、北京市北郊の八達嶺高速道路沿いにある回龍觀建材商城を例示する。

#### ・北京回龍觀建材商城

北京市京昌に1999年8月24日成立した建材市場。面積は8.7ha、全部で22棟、建築総面積3万m<sup>2</sup>、この内展ブースの建築面積2.2万m<sup>2</sup>。建材市場はテナント式の間貸し店舗が多数入居しており、鋼板、フローリング、ペイント、ガラス、陶磁器、石材、板材、五金、照明器具、厨房具、家具などが効率的に展示され、現在、300以上の商店が営業。

厨房、浴室、トイレ水回り設備、布工芸品、木製精品・床材館、陶磁区、化工区、5金区、塩ビ製品区、石こう板区、合板区、内装デザイン区、家具展示販売館、ガラス区、照明器具区に分かれている。スケルトン販売された住宅の内外装の材料、デザイン、施工の専門店があり、消費者の用に応えている。



京昌高速路回龍觀小区西側 北京市昌平区回龍觀鎮政府北側 200m

写真 <http://www.dianping.com/shop/2528578/photos>

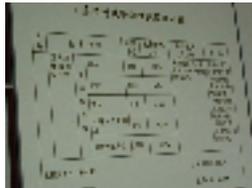
## 1.9 木材流通、加工に関わる行政制度

### 1.9.1 概要

中国は厳しい森林伐採管理制度が実施され、伐採更新管理制度、森林伐採限度額管理、年度木材生産計画管理が行われている。年間の伐採量は国家經濟發展5カ年計画の中から、地区の伐採量が申請、調査、査定が行われ、当該林業主管部門で割り当てられる。限度額を超過する伐採は認められず、違反した場合は処罰される。森林、林木を伐採するためには、森林の使用権、林木の所有権の証書の提出、伐採された木材の移動には木材運輸管

理制度、木材業の営業および加工には木材経営加工管理制度が適用される。その他、貴重動植物の保護規定、検疫、木材の検尺検査が毎木で行われる。伐採許可証、木材運輸許可証は木材の生産・加工・流通の全コースで確認される。輸入材の場合は、上記書類の外、木材原産地証明、輸出・輸入許可証、ワシントン条約関係証明、検疫証書、インボイスが必要である。

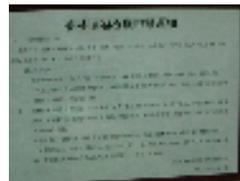
ここでは、伐採許可証、木材運輸許可証、木材経営加工許可証の事例を写真で掲載し、手続きについて記述する。



木材交易事務代行



植物検疫実務



木材運輸事務



左：検疫検査証 右：木材運輸証



満州里税関区毎木検尺



満州里税関保税ヤード

## 1.9.2 林木伐採許可証、木材運輸許可証、木材経営加工許可証の発行に関する制度

### 1) 林木伐採許可証許可審理制度

#### 林木伐採許可証許可審理制度

黒竜江省林業庁発布：2010年5月14日

#### 1. 責任機関及び責任者：

- (1) 黒竜江省林業庁森林資源管理处
- (2) 責任者：事務処理者 A、事務処理者 B

#### 2. 権力行使根拠：

《中華人民共和国森林法实施条例》第32条第2項：“省、自治省、直轄市及び区を設置した市、自治州に所属する国有林業企業事業組織、その他の国有企業始業組織、所在地における省、自治区、直轄市人民政府林業主管部門の木材伐採許可証審理発行”

#### 3. 許可条件と規格

- 1) 許可条件：
  - (1) 国家重点防護林及び特殊用途林の伐採；
  - (2) 天然、人工林母樹及び種子園林の伐採；

- (3) 国家 2 級以上の保護樹種の伐採；
- (4) 低産林改造のための伐採；
- (5) 省直属組織林木の伐採

2) 許可規格

**4. 許可するために附合しなければならない条件：**

- (1) 伐採する木材量が年森林伐採限度額と年度木材生産計画の範囲であり、国家の関係伐採限度額と木材生産計画の規定に符合していること
- (2) 合法の林木所有権証或いは使用権証を有すること
- (3) 各級の管理機構は関係要求に従い、申請欄の調査設計内容を調査し、許可審査の意見を述べ署名。許可審理の意見は現地の実際と符合しているか明らかにすること
- (4) 申請された調査設計が関連伐採更新技術規定に符合すること
- (5) 前年度に重大な乱伐案件、森林火災或いは大面積の重大な森林病虫害があったといえども、予防と改善措置が取られたか
- (6) 前年度の伐採検収に合格していること

**5. 必要な書類**

申請する組織は以下の書類を提出すること：

- (1) 伐採する林木の所有権証書或いは使用権証書
- (2) 国有林業企業の事業組織は伐採区の調査設計文書と前年度の伐採更新検収証明；
- (3) その他の組織は林木を伐採する目的、地点、林種、林況、面積、陸関両、伐採方式及び更新措置等の内容を包括した文書。
- (4) 発出する林木伐採許可証が必要とする電子数値資料

**6. 受理**

事務処理者 A は申請書類について形式が適切か審査。資料が揃っており、法定の形式に符合している場合は、その場で受理するか或いは 2 業務日以内に受理しなければならない；申請書類が不完全な場合或いは法定の形式にあっていない場合は、2 業務日を超えない間に申請者が全部の書類を正しい内容に補正することを第 1 回通告し、期限は告知しないで、申請者は申請書類を取り下げ、再度申請した日に受理する；受理条件に附合しないものは、その場で或いは 2 業務日を超えない範囲で《行政許可の受理不許可通知書》を発出し、受理できない理由を明らかにする。

**7. 審査と決定**

事務処理者 A は受理の日から提出書類を審査し、許可審理条件に符合するか審査表に審査結果を書き込み、事務処理者 B は具体的な許可証認可の事務を行う。

**2) 木材運輸許可証の制度、発行手続き**

雲南省貴港市林業局の例

項目の名称	木材運輸許可証
依拠する法律	《中華人民共和国森林法》《中華人民共和国森林法实施条例》 《广西壮族自治区木材運輸管理条例》
	木材運輸資質のある企業と法人 1. 本政府林業主管部門が正式に発効する木材運輸証の範囲に属するもの。 2. 証書申請に必要な証書及び運送貨物受領証の完備したもの。 3. 申告者が申請した願書に偽造、改変、失効省書類、受領書が見られな

<p><b>申告条件</b></p>	<p>いもの或いは申請書の証書及び受領書の内容の正しいもの。</p> <p>4. 当地の木材市場における材価により見積もられた育林基金の納付証明。</p> <p>5. 荷受機関と荷送機関の間の樹種、材種、品名、規格附合の一致。広西が執行する証明書の運輸木材の種類原木、原枝条、製材、芯板、単板、包装箱板、門扉・窓枠、木炭、商品竹材、樹木・根株が木材の発送元と一致すること。</p> <p>6. 購買木材機関の明確なこと、木材運輸先機関の最終所在地の明確なこと。</p> <p>7. 国家と自治区が行う木材の運輸に関係する政策、規定を順守すること。</p>	
<p><b>必要な書類</b></p>	<p>1. 当該木材の伐採後、第1次運輸の際交付された木材伐採許可証、育林基金納付受領書。</p> <p>2. 当該木材の、第2次、第3次以上の運輸の際に、当該運輸の先回に交付された木材の運輸許可証。</p> <p>3. 当該木材が行政機関或いは司法機関によりせり売りされたものならば、行政処罰決定書或いは司法機関の裁定文書及びせり売りの受領証。</p> <p>4. 建築解体材ならば、郷鎮林業工作ステーションが発出した証明書と関係書類。</p> <p>5. 外国からの輸入材ならば、税関の輸入受領証。</p> <p>6. 農民の屋敷回りの個人所有の少量の木材を運輸販売する場合は、村民委員会、郷鎮林郷工作ステーションの証明した書類。</p> <p>7. 運輸する樹株・樹木が野外で採掘したものならば、県級以上の林業主管部門が審査して発行した採掘許可証或いは林木伐採許可証。廟歩で育てたものならば、郷鎮林業ステーションあるいは国圃、国有林場の証明書類。場再跡地の更新採掘の樹株ならば、郷鎮林業ステーションあるいは国有林場による証明書類。</p> <p>8. 運輸を申請する木材或いは樹木。樹株は必ず森林植物検疫証と木材検尺証明書を添付する。</p>	
<p><b>申請手続き</b></p>	<p>木材の販売者あるいは木材の販売者から書面で依託された購入者により、木区材所在地の県級以上の林業主管部門に対して申請し、審査・判定を経て、木材運輸許可証が発出される。</p>	
<p><b>事務処理の期限</b></p>	<p>2日、批准により5日延長可能。</p>	
<p><b>必要経費の徴収</b></p>		
<td data-bbox="536 1532 799 1576"> <p>諮問係電話</p> </td> <td data-bbox="799 1532 1369 1576"> <p>4221606、 <a href="mailto:gglz4221606@163.com">gglz4221606@163.com</a></p> </td>	<p>諮問係電話</p>	<p>4221606、 <a href="mailto:gglz4221606@163.com">gglz4221606@163.com</a></p>
<td data-bbox="536 1576 799 1632"> <p>クレーム・監督係電話</p> </td> <td data-bbox="799 1576 1369 1632"> <p>4223369、 <a href="mailto:gglyj@163.com">gglyj@163.com</a></p> </td>	<p>クレーム・監督係電話</p>	<p>4223369、 <a href="mailto:gglyj@163.com">gglyj@163.com</a></p>
<p><b>よくある質問への回答</b></p>	<p>暫時無記載</p>	
<p><b>事務処理機構</b></p>	<p>貴港市林業局林政科</p>	
<p><b>所在地</b></p>	<p>中山路中段 167号</p>	

### 3) 木材経営加工許可証の審査発行手続き

記の例の外、広州仏山市順徳のように、木材検尺検査員の採用や、年間の加工能力 3 万 m<sup>3</sup> 以上の加工場或いはパルプ工場は、詳細な原料の調達手当ての計画書の提出、或いは、他地区の例では加工場の生産量に応じてその半分の原材料は独自の森林整備計画を要求している場合もある。

<b>木材経営加工許可証</b>	
木材経営加工許可証手続き黒竜江省ハルビン市林業局の例	
<b>審査許可事項</b>	《木材経営加工許可証》
<b>審査許可主体</b>	ハルビン市林業局
<b>審査許可の法的根拠</b>	<p>1. 《中華人民共和国森林法实施条例》（2000 年 1 月 29 日）第 34 条による：林区で木材を経営（加工を含む）するものは、県級以上の人民政府主管部門の批准が必要。</p> <p>2. 《黒竜江省森林管理条例》17 条：林区内で木材経営および加工拠点を開業するには、所在地の林業主管機関の同意を得なければならない。県級以上の林業行政主管部門と林業局以上の森林工業管理部門に対して、《木材経営加工許可証》を申請、受領後、工商行政主管部門は木材経営拠点の営業許可証を発行する。</p>
<b>申請に必要な具体的条件</b>	1. 固定した経営加工場所、2. 合法的木材の供給源を有すること、3. 従事する木材加工が国家規格の加工設備に符合していること、4. 法律、法規が規定するその他の条件
<b>申請時に提出する資料</b>	1. 申請処理する木材経営加工許可証の組織・個人の書面による申請書、2. 区（県）林業主管部門が発出した現場の実地検証報告書、3. 《木材経営加工許可証審査許可表》一式 4 部、および郷鎮林業ステーション（林場）および県、林区林業主管部門が申請許可表に記載した審査許可審理の内容および所管署の意見および公印の捺印
<b>審査許可の手順</b>	木材経営加工許可証の処理（更新）は、申請した組織（個人）が申請書を提出し、県に受理されることにより、区林業主管部門はこれに関する必要な事務処理を行う→県により、区林業部門は現場検証と報告書に基づいて→申請組織（個人）は県、区林業部門が提供する木材経営加工許可申請表の必要部分を記載（一式 4 部）し、郷鎮林業ステーション（林場）および県、区林業主管部門は許可申請表の内容を審査し、併せて管轄署の意見を勘案して許可表を発行、公印押印→申請組織（個人）は県、区林業主管部門の現場検証報告、木材経営加工審理許可表（一式 4 部）を持参し、市の行政事務センターの林業窓口に木材経営加工許可証の公布申請手続きをする→市行政事務サービスセンター林業窓口は必要な審理を行い、木材経営加工許可証の交付を行う。
<b>事務処理期限</b>	20 作業日
<b>必要経費徴収</b>	労資コスト 50 元。
<b>費用徴収根拠</b>	黒竜江財字[1997]58 号。
<b>処理場所</b>	行政サービスセンター
<b>連絡電話</b>	8311 8312

## 1.10 中国の違法伐採と関連貿易の取り締まりについての態度と 取った関連施策 (中国木材・木材製品流通協会長 朱光前：2009年12月講演部分)

### ・中国木材製品の輸出企業が直面する情勢と挑戦

他の産業と比べ資源制約を受けて、欧米向けの輸出を主とする木材製品輸出業が当面する情勢と圧力を以下のように幾つかに要約する。

1) 金融危機の衝撃の中に、中国の木材製品輸出企業の市場競争力が低いことが明らかになった。

去年始まった金融危機が我が国の木材製品輸出企業に大きい衝撃を与えた。多くの輸出向けの生産企業が操業停止・半停止状態になった。木材卸売市場も不景気で、港で輸入された木材を寝かせて、流通企業も大きな圧力を受けていた。2009年1月から10月期には、木材製品輸出の状況が良くなり、前期比で増加しているが、直面する問題を検討する必要がある。

中国は木材製品生産と輸出の大国だと言ってもよいが、強国ではないと考えられる。この国際金融危機の衝撃の中で顕在化した主要な問題は、第一に、企業規模が小さく、管理のレベルが低い。第二に、製品の品種が単一で、付加価値が低く、科学技術的要素が少なく、競争力が低く、アップグレードが必要となっている。第三に、企業には、自分なりのブランドがないため、国際市場での企業独自のマーケティングルートとネットワークが形成されていなくて、他外依存度が高すぎる。このような問題を解決しないと、中国製品の国際競争力を高めることは考えられない。

2) 輸出企業が国際市場に進出する際に、ますます厳しい環境保護の制約を受けている。現在、違法伐採が関連する貿易の取り締まりと持続可能な森林生態システムの設立が、国際社会に最も関心がある領域の一つとなった。欧米は一連の基準や法律を公表して、木材製品市場に進出の基準を高めている。

①2008年米国では、「レイシー法案」(The Lacey Act)が訂正され、木材製品の米国市場への進出の難しさとリスクが高くなった。

レイシー法案によって、米国或いは他の国の植物保護の法律を違反したことと、国内か国際かと関係なく、違法伐採を通じて入手した木材と木材製品にかかわる運輸、販売、受け取り、買い上げなどの活動はおしなべて違法行為だとしている。

レイシー法案は、2009年4月1日から、初級製品から高級製品まで、段階的に実施する予定だったが、後、延ばすこととなった。しかし、この法案について、積極的に応対すべきである。

②EUと日本は主要な林産物の輸入地域で、グリーン購入政策を実施し、違法伐採の木材製品の市場進出を制限している。まず、第1にEUが森林法執行・ガバナンス・貿易に関する行動計画(FLEGT)を実施してきて、違法伐採と関連貿易を取り締まっている。第2に、2008年にはEUが、木材違法伐採に関して法律を制定することを宣言した。第3に、英国、フランス、ドイツ、オランダ、日本などでは、政府調達の際に、FSC、PEFSなどの森林認証で認証されたことは基本的な条件となっている。第4に、イギリス木材貿易連合、フランス木材産業協会などのEU国家の業界協会は、原料が合法的ルートから購入されることを確保するため、メンバーに行動規則を制定した。百安居、翠豊集団、宜家(イケア)などの企業が相次いで責任を明確にする購入制度を制定し、合法性、持続可能性のある森林から林産物を購入すること確保している。

このような法律や業界内の企業が自主的に作った貿易施策が、今後、中国木材製品が国

際市場に進出するために、グリーン許可書を入手しなければならないレベルを引き上げている。

・各国が天然林木材の輸出に対して制限を厳しくする。

国際社会が違法伐採に対して厳しく対応していく中に、アフリカの生産国ばかりでなく、針葉樹材を輸出するロシアにおいても天然林木材の輸出に対して、制限が厳しくなって、数量も減少の傾向にあり、中国の木材輸入量の減少を引き起こし、輸入木材に依存する企業が原料の面で、制約されることとなる。

さらに、中国の木材製品生産企業は、すでに、速やかに自らの競争力を高めて発展しなければならないという問題に直面しているが、さらに、相次ぐ欧米の新法律、新政策の中に、いかにリスクを回避して、国際市場に進出できるグリーン許可書を得るかということも無視できないこととなる。

・グローバルな気候変動からの挑戦のもとで、中国木材製品輸出企業がいかにチャンスをとらえて発展するかということ。

気候変動が人類の生存と発展に深刻な影響を与えているなかで、気候変動に対応することは、全地球への挑戦であるばかりでなく、林産工業の発展のチャンスにもなる。林産業は、第一、第二、第三産業を包括し、幅広い範囲の内容を含めて、産業の連環が長い。中国において、林産業が節約、環境保護、持続可能な発展を目指す産業の連環の中の重要な一環となる。資源節約型と環境配慮型の社会を創設する過程及びグローバルな気候変動に挑戦へ対応する中で、林産業が重要な役割を發揮する。それゆえ、林産業の発展を考えるときには、環境の持続可能な発展と一緒に考えなくてはならない。

先日、胡錦濤主席が国連気候変動サミットで、グローバルな気候変動に対して、次のように四つのポイントを指摘した。第一に、各自の責任を履行すること；第二に、互いに有利になることを目標とする；第三に、共同发展を促進することを基礎とすること；第四に、資金と技術を確保することがキーポイントであること。具体的な施策も提出した。これは、中国政府の立場と考え方を表明したばかりでなく、我が国の木材産業の発展と違法伐採と関連貿易の取り締まりに対しても、方向性を明確した。

我が国の木材業界の現状及び国際社会の気候変動に対しての施策によって、企業が次のような二つの切り口に入るべきだと考える。

①企業が社会責任意識を打ち立て、責任を速やかに明確する購入制度を早めに制定し、輸出向けの製品の国際市場に進出できる資格を獲得する。

まず、企業が社会に、「認定ができる限りにおいて、違法な木材と木材製品を輸入しない、使わない、販売しない」ことを約束すべきである。

次に、企業が自分自身の条件によって、いろいろなルートを通じて、製品の原料のソースを証明する。できれば、FSC、PEFC、或いは、中国森林認証を選んで、製品に対して、COC認証を行う。ここまで達していない企業も、企業内部の木材合法ソースの追跡制度、或いは、購入制度を早めに設立すべきである。木材輸入商社は、これから、契約の中に、木材合法性関連の内容を増加すべきだ。第1には、供給側に対し提供された木材が現地の法律・規定に符合することを承諾することを要求すべきである。第2には、製品の輸出申告のため、契約の中に、輸入木材の樹種名称（英文名とラテン学名ともに）、総額、数量、生産地などがきちんと記入されることが必要である。輸出企業のリスク回避、資格取得に便宜を図ることである。

②再編装飾材（染色単板デザイン装飾材）\*、エンジニアードウッド、竹積層材製品などの科学技術的要素の高い、環境保護向けの製品を重点とし、産業構造を調整し、中国木

材製品の国際競争力を高める。(注\*：人工林ポプラ材などの染色単板をデザインして積層した材をツキ板にして、それにより表面化粧した合板、MDFなどの化粧材をいう)

気候変動に対して、制限する政策的措置をとるのみではなく、新しい環境保護製品を開発し、経済発展と生活向上のニーズを満足することも重要である。「塞ぐこと」だけではなく、「通すこと」も重要である。第一に、再編装飾材を発展し、広葉樹材と貴重樹種材の代替材とする。第二に、構造用集成材は建築領域での応用を広めて、一部の高エネルギー消費の鉄鋼、セメントの代替品として、建築に使用させ、エネルギーを節約して、汚染を減少する。第三に、竹積層材製品を発展させ、木材の代替品として使う。

この方針には、次のような意義がある。

第一に、林産業の製品の構造調整を促進すること。再編装飾材、エンジニアードウッド、竹積層材製品などは、加工度と付加価値が高く、科学技術的要素が多く、応用範囲が広い。これらを発展させれば、木材製品生産企業のグレードアップができる。そして、企業の小規模、低科学技術的要素・低付加価値、品種単一性、ブランド品の欠如、低競争力などの問題を解決できる。

第二に、市場ニーズを満足し、貿易リスクを減少することができる。上述した製品は全部早生人工林材及びサイズの小さい木材を原料とする。木材利用の面でも、節約できるし、経済的利益も得られる。早生人工林材だから、貿易のリスクも減少し、広葉樹材と貴重樹種材を使わなくても、ニーズを満足することができる。

第三に、建築領域では、エネルギー消費を節約できる。セメント構造と鉄鋼構造のエネルギー消費は、それぞれ、木材構造の2.2倍と1.5倍になる。木材生産にエネルギー消費が1とすれば、セメントが5、鋼が191である。だから、木材には比べられないメリットがある。構造集成材がセメント、鉄鋼、レンガを代替して、建築材料の生産と建築過程のエネルギー消費を減少し、CO<sub>2</sub>の排出量減少もつながる。

第四に、農民の植林の積極性を引き出し、林業の持続可能な生産を促進する。現在、中国は世界一の人工林面積の国家になった。再編装飾材、エンジニアードウッド、竹積層材製品の発展は、人工林の利用に新しい利用領域を開発し、有効的に農民の積極性を引き出し、農業・農民に対しても、収入増になって、早生人工林の発展と生態環境改善をも促進することになる。

それで、合理的な木材利用、強力に再編装飾材、竹積層材製品などの環境にやさしい製品の発展、木造建築の広がり、再生可能な資源の利用などには、我が国の未来の戦略の一つとして考えるべきである。

### ・中国木材・木材製品流通協会が木材違法伐採と関連貿易の取り締まりに対する態度と施策

近年、中国政府は木材違法伐採と関連貿易の取り締まりについての態度はきっぱりとしている。中国木材・木材製品流通協会は、この面で、態度が積極的、施策が实际的である。

本協会は主に次のような事業を行っている。

- 1) 協会誌とネットを通じて、積極的に林業持続可能な発展と合法国際木材貿易の重要性を宣伝し、企業に環境保護責任意識を樹立させる。
- 2) 業界内の自律を強める。メンバー企業に、「認定ができるうる限りで、違法な木材と木材製品を輸入しない、使わない、販売しない」を呼びかけている。同時に、企業の信用等級評価制度を実施する時に、企業がCoC認証を行うかどうか、責任明確な購入制度を制定するかどうか、及び、環境保護公益事業に対する貢献の内容を評価指標にいれている。
- 3) 年に一度の大会に、メンバー企業が植林と中国緑化基金に寄付活動を行ってもらう。

- 4) 国際環境保護組織及び協会との協力を強める。共同シンポジウム、養成訓練、コンサルティングなどを通じて、国際で使われる認証システムを企業に紹介し、CoC 認証事業も推進している。改定レイシー法が成立した後、米国司法省庁官僚及び関連協会と関心のあ  
る問題に関しての情報交換会等を開催している。
- 5) 中国政府が違法伐採及び関連貿易の取り締まりに関する政策を制定する際に、積極的に提案を提出し、企業の声も伝達する。
- 6) 米国、マレーシア、日本、ITTO などの組織と情報交換と協力を行っている。2009 年 10 月に、森林協会 (TFT) と協力合意書を署名し、協力の関係を作り、目標一致の領域内に交流と経験共有を促進している。
- 7) 再編装飾材、エンジニアードウッド、竹積層材製品の利用を広め、広葉樹材と貴重樹種材木の代替を進める。
- 8) 木材検査の専門トレーニングを推進し、企業と港での木材検査機構に人材を養成する。

## 1.11 中国の国内における違法伐採の現状統計

2008 年改定、(2008 年中国林業年鑑、関係部分のみ)

### 1) 部門規章頒布と審査：

- ① 《林業行政許可听证弁法》2008 年 8 月 1 日林業局令台 25 号公布、2008 年 10 月 1 日から施行。
- ② 《木材運輸検査弁法》、《交易林管理弁法》、《野生動植物進出口管理弁法》、《義務植樹条例》、《公益林管理弁法》について検討し、修正案を提出、審査され、今後の思考の道筋が明確にされた。

### 2) 林業執法と執法管理：

2008 年発生した林業行政案件は 35.38 万件、その内；

- ① 林木の盗伐 2.51 万件 (全体の 7.09%)
- ② 林木の乱伐 3.90 万件 (同 11.04%)
- ③ 林木、苗木の毀損 0.78 万件 (2.22%)
- ④ 林業用地の違法占用 1.38 万件 (3.90%)
- ⑤ 木材の違法運輸 20.35 万件 (57.51%)：木材の違法運輸件数は 2007 年に比べ 1.33 万件、▼6.15%減少したが、この案件が全体の 57.51%を占めた。
- ⑥ 違法な木材の買い付け、経営、加工 2.89 万件 (8.16%)
- ⑦ その他の案件 3.57 万件 (10.08%)

以上は 2007 年より下降趨勢にあり、2.30 万件 (▼6.10%) 減少。

違法伐採、乱伐、林木苗木毀損、違法占用、違法買付け、経営加工の案件は、2007 年同期より緩やかに減少している傾向。減少数と減少率は、それぞれ、0.23 万件 8.39、0.30 万件 7.14、0.16 万件 17.02、0.02 万件 1.44、0.33 万件 10.30。

### 3) 重大な林政の案件について受理し、調査、処理を督励した案件：

国家林業局本部レベルで下級機関より報告を池、受理、回答・転達した案件 75 件；群衆署名の上申 28 件、匿名上申 20 件、メディア報道 21 件、国家林業局指導者が書面指示した件 23 件。2008 年末までに調査処理した案件 67 件。受理した案件の中で、林木の違法伐採 47 件、林業用地の違法占用 9 件、林地の林権の紛糾 10 件、林業部門に存在する違法問題案件 9 件、樹木の損壊 4 件、国有林の違法転用 1 件、木材運輸証の違法販売 1 件。

黒竜江省嫩江県科洛林場森林破壊開墾案件、貴州省福海公司の林地違法占用案検討は社会的影響が大きく、群衆が強烈な反映をしている案件は、関係責任機関と責任者が法により責任を厳重に追及された。

## 第2部 中国における合法性木材流通に対する対応

### 2.1 中国森林認証体系の構築

2001年から始まった中国独自の国家森林認証体系の構築作業は、2009年に大きな進展を見せた。具体的には以下のとおりである。なお、2008年までの、中国森林認証体系構築の経緯については、本調査事業に先行する全木連調査報告書を参照されたい。

([http://goho-wood.jp/kyougikai/report\\_list.html](http://goho-wood.jp/kyougikai/report_list.html))

#### 1) 中国森林認証体系の構築—『中国森林認証基準』の部門基準から国家基準への昇格

『中華人民共和国基準化法』では、すべての基準を国家基準、部門基準、地方基準、企業基準といった4種類に分けている。2007年9月に中国国家林業局が公布した『中国森林認証—森林経営』(LY/T1714-2007)と『中国森林認証—生産と流通段階の管理』(LY/T1715-2007)はすべて部門基準である。この数年間では、中国の森林認証は急速に発達し、国際認証体系との交流も活発になってきている。こうした中で、部門基準としての『中国森林認証基準』は、既に限界が現れ、森林認証や持続可能な森林経営のニーズに対応できなくなり、国家基準へ昇格することが緊急な課題となっている。このために、中国国家林業局は「森林認証基準の国家基準への昇格」という計画をスタートさせ、国家基準管理委員会の所定手順にしたがって、2010年内で昇格を実現するという目標を立てた。

#### 2) 関係規定の整備

2009年に、中国国家林業局は『中国森林認証実施規則』を公布し、中国森林認証の申請手続き、認証過程の流れなどを規定した。

現在、国家林業局は、『森林認証審査員管理規定』、『認証機関許可規定』及び『森林認証審査員技能教材』などの制定に取り込んでおり、2010年末に完成する予定である。

また、『中国竹林認証基準』と『中国人工林認証基準』も中国林業科学研究院の専門家によって起草中であり、年末に初稿を提出する予定である。

#### 3) 認証機関の設立

紆余曲折を経て、2009年に中国森林認証体系の森林認証審査を担当する初の認証機関が、中国林業産業協会内で成立した。

#### 4) 森林認証モデル事業の総括

中国森林認証基準を検証し、中国に相応しい持続可能な森林経営原則と模式を模索するために、国家林業局は2006年から体表性をもつ地域を選んで森林認証モデル計画を実施した。

この計画は既に3年間を経過し、総括段階に入っている。2009年末までに、全国で計24箇所のモデルを実施した。これらの認証モデルの実施によって、中国森林認証基準の適用性が検証されると同時に、トレーニングや能力評価、問題点の改正などによって、森林経営者の経営管理レベルがアップし、森林認証審査を受ける基礎条件が整った。

2010年には、国家林業局は全国の森林認証モデル会議を開催し、その経験や問題点などを総括する予定である。こうした上で、これまでに実施した森林認証モデルの中から、条件の良い或いは潜在的な能力を有する森林経営者を選び、数回分けて、中国森林認証基準によって審査し、認証証書を発給すると予定している。いま、国家林業局は、実施計画を作成しているとこ

ろで、年内には計画をスタートされるとしている。

## 5) 国際森林認証体系との相互認可の努力

中国独自の森林認証体系を確立すると同時に、国家林業局は国際森林認証体系との互認についても取り組んでいる。まず、「中国森林認証委員会」を主体として、国際的な森林認証体系の一つである PEFC との相互認可の道を模索し始めた。2008～2009 年、中国と PEFC が共同で森林認証体系評価活動を実施し、中国森林認証体系と PEFC 森林認証体系の間の相違を明らかにした。

ITS Global はオーストラリアの諮問機関であり、国家森林認証体系の評価、特に PEFC との互認に関して豊富な経験を有する。これまでに、すでに森林認証諮問機関と PEFC に認可された評価機関として、アメリカの ATFS と SFI、マレーシアの MCTT、ブラジルの Cerflor、パプア・ニューギニアの認証体系などの評価を担当した。今回も PEFC の委託を受けて、中国森林認証体系についての評価を実施した。

ITS Global の評価は二つの段階に分けて行った。第一段階では、中国側が提出した 10 種類の資料に基づき、枠組みを確立した。そして、2008 年 10 月 29 日から 11 月 5 日までにオーストラリアで開催された第 12 回 PEFC 総会で、オブザーバーとして参加した中国森林認証体系 (CFCS) の体表は、この枠組みにしたがって、オーストラリア国家林産業協会 (NAFI)、オーストラリア農林漁業省 (DAFF) 及び ITS Global の専門家と討論した。

その後、ITS Global は中国側に 14 種類の資料追加を求め、これらの基礎資料及び討論の結果に基づいて、以下の 5 つの面から評価を行った。即ち、1) 基準の制定過程、2) 森林認証の実施、3) 森林経営基準、4) 生産と流通段階の管理基準、5) 認証と認可。

ITS Global は、2009 年 3 月に評価報告を作成し、各関係者の意見を取り入れて修正した後、ITS Global は 2009 年 7 月に最終の評価結果を中国側に伝達した。最終的な評価結果として以下のように総括した。

総じて言えば、中国の森林認証基準は基本的な内容を備えたものの、PEFC 体系の要求に照らして見ると、未だに一定のギャップが存在している。今後は、PEFC の要求にしたがって改正し、再評価を行う必要がある。

いま、中国国家林業局は専門家グループ組成し、ITS Global の意見にしたがって修正作業に取り込んでいる。次回の認可評価は 2010 年内で実施できる見通しである。

## 2.2 森林認証モデル事業の実施状況

### 1) 広東省: 広東省西江林業局象牙山林場

- 所有形態: 公有林
- 森林面積: 0.36 万 ha
- 森林種類: 主として人工林
- 主要樹種: コウヨウザン(杉木)、バビショウ(馬尾松)、ユーカリ
- 主な活動:

**基本状況の把握と基礎資料の収集。**技術支援グループは、林場のリーダーや関係者を訪問し、林場労働者の作業条件、生活環境、所得状況、専門技能、技術規定に対する認知などを把握し、森林の数量や布、森林の質と健康状況、森林経営と伐採の環境への影響、農薬や肥料の

使用と管理、そのたの必要事項について調査を行った。

**経営管理の改善。**林場の職員や労働者に対するトレーニングを実施した上で、『中国森林認証：森林経営』と森林認証の手順にしたがって、現行の森林管理体制、経営方式などの面で、持続可能な森林経営の要求に照らした問題点を総括し、今後の改善案を作成し、意見と提言を提出した。

## 2) 広西省: ストゥーラ エンソ林業有限公司

- 所有形態: 社有林
- 森林面積: 16.0 万 ha
- 森林種類: 人工林
- 主要樹種: ユーカリ
- 主な活動:

**現状の把握。**2007 年 11 月に、国家林業局科学技術発展センターと技術支援グループの専門家は、森林経営状況などについて現地調査を行った。

**トレーニングの実施。**2008 年 1 月に、広西省北海市にて、会社の職員、労働者などを対象に、森林認証の基本知識や中国森林認証基準の解釈と具体的な要求などを主な内容としたトレーニングを実施した。

**経営管理の改善。**2008 年 5 月に、技術支援グループの専門家は、同会社の経営管理体制に存在する問題点を指摘し、管理制度の改善と関係文書の整備について指導した。

**模擬審査の実施。**2009 年 7 月に、技術支援グループの専門家は、専門家を招いて模擬審査グループを組成し、『中国森林認証基準』に照らした模擬審査を行い、会社に評価報告を提出した。

## 3) 広西省: 嘉漢林業(河源)公司

- 所有形態: 社有林
- 森林面積: 3.33 万 ha
- 森林種類: 人工林
- 主要樹種: ユーカリ
- 主な活動:

**現状の把握。**2007 年 11 月に、国家林業局科学技術発展センターと技術支援グループの専門家は、森林経営状況などについて現地調査を行った。

**トレーニングの実施。**2006 年 9 月に、広西省河源にて、会社の職員、労働者などを対象に、森林認証の基本知識を主な内容としたトレーニングを実施した。すべての職員に森林認証トレーニング教材を配った。また、2006 年 11 月に、会社の職員、労働者などを対象に、中国森林認証基準の解釈と具体的な要求などを内容とした第二回目のトレーニングを実施した。

**経営管理の改善。**2007 年 9 月に、技術支援グループの専門家は、同会社の経営管理体制に存在する問題点を指摘し、管理制度の改善と関係文書の整備について指導した。

**模擬審査の実施。**2007 年 10 月に、技術支援グループの専門家は、専門家を招いて模擬審査グループを組成し、『中国森林認証基準』に照らした模擬審査を行い、会社に評価報告を提出した。

## 4) 内蒙古自治区: 阿里河林業局

- **所有形態:** 国有林
- **森林面積:** 45.2 万 ha
- **森林種類:** 天然林を主として、少量の人工林
- **主要樹種:** カラマツ(落葉松)、シラカンバ(白樺)
- **主な活動:**

**森林認証トレーニング教材の編成。**2007年3月～2008年3月に、技術支援グループの専門家は、内モンゴ森林工業グループ及び阿里河林業局の森林経営状況と資源特徴に応じて、中国東北国有林地域に適した森林認証トレーニング教材『東北・内モンゴ重点国有林地域森林認証トレーニング教材』を作成した。

**トレーニングの実施。**2008年3月に、阿里河林業局にて林業局の職員、労働者などを対象に、森林認証の基本知識や中国森林認証基準の解釈と具体的な要求などを主な内容としたトレーニングを実施した。2008年7月に、牙克石内モンゴ大興安嶺森林管理局にて、管理局の職員などを対象に、森林認証の基本知識を主な内容としたトレーニングを実施した。2008年10月に、牙克石内モンゴ大興安嶺森林管理局にて、中国森林認証基準の解釈と具体的な要求などを内容とした第二回目のトレーニングを実施した。

**中国森林認証基準に照らした問題点の抽出。**2008年7月～12月に、技術支援グループの専門家は、阿里河林業局の持続可能な森林経営管理システムの構築と森林経営計画の改正と合わせて、中国森林認証基準に照らしながら、存在する問題点を指摘した。

## 5) 内モンゴ自治区:大興安盟白狼林業局

- **所有形態:** 国有林
- **森林面積:** 10.6 万 ha
- **森林種類:** 天然林
- **主要樹種:** カラマツ、シラカンバなど
- **主な活動:**

**調査と訪問。**現状を把握するため、2007年9月に、現地調査と訪問を行った。技術支援グループは、興安盟林業局、興安盟林業研究所、白狼林業局などの関係者と会談し、林業局の職員を訪問し、白狼林業局の歴史と現状、森林経営の経験と教訓などに関する基礎資料を把握した。これと同時に、森林認証や持続可能な森林経営の理念を宣伝し、認識を高めた。

**森林認証トレーニング教材の編成。**全国の統一したトレーニング教材を基礎にして、同林業局の実情に適した教材を編成した。また、トレーニング内容に関する問題集を作り、トレーニング中に応用した。

**トレーニングの実施とシンポジウムの開催。**2008年6月～8月の間、計3回のトレーニングを実施した。また、2回のシンポジウムを開催し、世界における森林認証の最新理念や当林業局の問題点などについて討論し、持続可能な森林経営の推進に理論的な基礎を固めた。

## 6) 四川省:高県月江林場

- **所有形態:** 公有林
- **森林面積:** 0.17 万 ha
- **森林種類:** 天然林と人工林
- **主要樹種:** バビショウ、コウヨウザン(杉木)、竹林、経済林(果樹など)
- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**国家林業局科学技術発展センターと四川省林業庁の指導の下で、2006年5月と10月に、2回分けて四川省林業庁、宜賓市林業局、高県林業局及びモデル林場の職員を対象とした森林認証知識のトレーニングを実施した。

**模擬審査の実施。**2009年10月に、技術支援グループの専門家は、専門家を招いて模擬審査グループを組成し、『中国森林認証基準』に照らして、所定の認証手順にしたがって模擬審査を行い、評価報告を提出した。主な評価内容は、経営体制、関係文書と技術規定の整備状況、作業現場、利益関係者、責任者などであり、この上で合格点や不合格点と問題点を指摘する。

## 7) 海南省:金華林業有限公司

- 所有形態: 社有林
- 森林面積: 7.3万 ha
- 森林種類: 人工林
- 主要樹種: ユーカリ
- 主な活動:

**現状調査と技術指導。**技術支援グループの専門家は、3回にわたって海南省に行き現地調査と技術指導を行った。

**トレーニングの実施。**2009年9月に、技術支援グループの専門家は、金光グループ(APP)の海南省金華林業有限公司にて、現地の林業関係者や公司職員を対象に森林認証知識に関するトレーニングを実施し、人材育成に努力した。

**『中国森林認証基準』の検証。**熱帯地域に適した森林認証指標体系を作るために、『中国森林認証基準』の適応性を検証した。

**認証審査の実施。**金華林業有限公司の状況を全面的に考察した上で、専門家グループは、これまでの技術指導のもとで、同公司在基本的に中国森林認証審査を受ける条件を整え、模擬審査を省いて直接に正式審査を行うと判断した。

## 8) 湖南省:攸県黄豊橋林場

- 所有形態: 公有林
- 森林面積: 1.01万 ha
- 森林種類: 天然林、天然と人工混交林
- 主要樹種: バビショウ、モウソウチク(毛竹)
- 主な活動:

**森林認証トレーニング教材の編成。**全国の統一したトレーニング教材を基礎にして、現地の実情に適した教材『湖南省森林認証モデル事業トレーニング教材』を編成した。

**トレーニングの実施。**中南林業科学技術大学と中国林業科学研究院湖南分院の専門家を招いて講義をした。

## 9) 山東省:臨沂市費県林業局

- 所有形態: 公有林
- 森林面積: 0.13万 ha
- 森林種類: 人工林
- 主要樹種: ポプラ

- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2008年10月に、国家林業局科学技術発展センターの専門家による講義を行い、現地政府や関係者に森林認証の知識を普及し、積極的な参加を呼びかけた。また、2009年6月に、技術支援グループの専門家は、林業局の職員を対象に技術研修を実施した。

## 10) 福建省:永安市森發技貿有限公司

- **所有形態:** 社有林
- **森林面積:** 0.37 万 ha
- **森林種類:** 人工林
- **主要樹種:** バビショウ、ユーカリ
- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2006年11月に、森林認証研修を実施し、専門家による「中国における森林認証の進展」、「持続可能な森林経営」と「森林認証の概述と基準」などの講義を行った。こうしたトレーニングによって、公司指導層や職員の森林認証や持続可能な森林経営に対する認識が高まり、基本知識と技術を身につけ、今後の森林認証の推進に基礎を固めた。

**経営管理の改善。**2007年1月から2008年12月までに、技術支援グループの専門家は、『中国森林認証基準』に照らして、同会社の経営管理体制や経営技術などの面で存在する問題点を指摘し、管理制度の改善と関係文書の整備について指導した。

## 11) 雲南省:騰冲県林産品有限公司

- **所有形態:** 社有林
- **森林面積:** 1.7 万 ha
- **森林種類:** 人工林と天然林
- **主要樹種:** 松類
- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2008年10月に、雲南省林業庁と騰冲県林産品有限公司で2回分けて森林認証知識に関するトレーニングを実施した。

**経営管理の改善。**『中国森林認証基準』に照らして、同会社の経営管理体制や経営技術などの面で存在する問題点を指摘し、経営管理改善の計画をたて、部門の責任を確定した。その中の重点として、森林経営計画の編成と環境影響の最低化に力を入れた。

**認証審査の準備。**こうした一連の活動の上で、専門家グループは同会社が基本的に中国森林認証審査を受ける条件を整えたと判断し、「中国森林認証基準」に基づいて森林経営認証及び生産流通段階の管理認証を同時に受ける準備に着手した。2009年末に予備審査を終える予定である。

## 12) 安徽省:黄山区耿城鎮輔村林場

- **所有形態:** 集体林
- **森林面積:** 0.05 万 ha
- **森林種類:** 人工林と天然林
- **主要樹種:** コウヨウザン(杉木)、モウソウチク(毛竹)
- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2007年6月に、技術支援グループの専門家は、黄山区林業局にて、林業局の管理者、国有林場職員、林家を対象として「黄山区林業局森林可持続経営と森林認証研修班」を開催した。講習の主な内容は、森林認証基本理論と知識、認証基準、審査の流れ、国内外における森林認証の現状と動向などであった。また、林場や木材加工工場を見学した。

2007年11月に、森林管理と経営に存在する難点問題について再び講習会を開いた。特に集体林の管理と経営、生物多様性保護、環境影響評価とモニタリング、社会影響と評価、労働保障などの面から、基準との格差を分析し、管理体制の整備を指導し、や集体林の森林認証について検討した。

**経営管理の改善。**2007年8月に、黄山区林業局と共同で森林認証モデル事業実施計画を制定し、森林管理と経営の改善案を作成し、行政指導グループを組成した。

**森林認証基準の検証。**2009年9月に中国森林認証基準の検証を行い、訂正の意見を提出した。

**模擬審査の実施。**2009年9月に、『中国森林認証基準』に照らして、同会社の経営管理体制や経営技術などの面で存在する問題点を指摘し、管理制度の改善と関係文書の整備について指導した。この上で、模擬審査を実施した。

### 13) 河北省:木蘭囲場国有林場管理局

- 所有形態: 国有林
- 森林面積: 10.27 万 ha
- 森林種類: 天然林と人工林
- 主要樹種: カラマツ
- 主な活動:

**トレーニングの実施。**2007年7月に、木蘭国有林場管理局にて「河北省国有林場森林認証研修班」を主催した。技術支援グループの専門家は、木蘭国有林場管理局で行っている持続可能な森林経営研究プロジェクトの成果と関連して、森林認証の意義、基準や基本要素と技術などについて講義をした。

**森林経営計画の編成。**技術支援グループの専門家が担当している全国森林経営計画の編成と結合して、2007年10月から、木蘭国有林場管理局の専門家と共同で「木蘭囲場国有林場管理局森林計系計画」の編成に着手し、2009年5月に計画案を河北省林業庁に提出し審査を受けた。河北省林業庁は同「計画」を高く評価し、森林経営計画の規範見本として全省各地に推薦した。

**模擬認証の準備。**『中国森林認証基準』や『中国森林認証実施規則』の規定にしたがって、存在する問題について改善措置を提言し、管理制度の改善や関係文書の整備について指導し、模擬審査の準備をした。

### 14) 江西省:靖安県林業局

- 所有形態: 公有林
- 森林面積: 11.71 万 ha
- 森林種類: 天然林と人工林
- 主要樹種: カラマツ
- 主な活動:

**協力関係の確立。**広西省林業庁の支援のもとで、2008年5月に江西農業大学、江西林業調査設計院と協力関係を確立し調印した。これと同時に、指導、諮問、技術などのワーク・グルー

プを組成した。

**モデル事業実施計画の作成。**森林認証の要求と現地の実情に合わせて、実施計画を作成し、各部門の責務を確定した。その中の重点任務は森林経営計画の編成と環境影響評価などであり、目標の認証種類はFMとCoCである。

**トレーニングの実施。**省林業庁、靖安県林業局及びモデル林場など、各レベルのトレーニングを実施した。

**経営管理の改善。**技術支援グループの専門家は、同県の現状を把握した上で、森林経営計画の編成や環境影響評価などについて、改善の意見を提出し、その実施について指導した。

**模擬審査の実施。**2009年後半に『中国森林認証基準』や『中国森林認証実施規則』の規定にしたがって、管理制度と経営技術の改善や関係文書の整備について指導し、模擬審査を実施した。

## 15) 黒竜江省:穆稜林業局

- 所有形態: 国有林
- 森林面積: 26.8 万 ha
- 森林種類: 天然林と人工林
- 主要樹種: ヨウセンマツ(紅松)、トウヒ(云杉)、トドマツ(冷杉)等
- 主な活動:

**トレーニングの実施。**2007年5月～6月に、穆稜林業局にて第1回目の「持続可能な森林経営と森林認証研修班」を主催し、森林認証の基本知識や国内外の進展について講義をした。2007年9月に第2回目のトレーニングを実施し、中国森林認証基準を解説し、各認証体系(特にFSC)の基準との異動について詳細に紹介した。

**模擬審査の実施。**2007年10月に予備審査を行い、2008年1月～3月に主審査案を編成し、準備作業を進めた。2008年4月に模擬主審査を実施した。

## 16) 河南省:民権林場

- 所有形態: 公有林
- 森林面積: 0.4337 万 ha
- 森林種類: 主に人工林
- 主要樹種: ポプラ、ニセアカシア(針槐、刺槐)
- 主な活動:

**トレーニングの実施。**2009年4月28日に民権林場にて第1回目のトレーニングを実施し、森林認証の基本知識、中国森林認証体系の概要と基準などについて講義した。

**模擬審査の準備。**『中国森林認証基準』に照らして、同林場の森林経営に存在する問題点を分析し、模擬審査の準備に着手した。

## 17) 江蘇省:宿遷市林業局

- 所有形態: 公有林、集体林
- 森林面積: 15.4 万 ha
- 森林種類: 人工林
- 主要樹種: ポプラ

- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2009年に省林業庁、県林業局及びモデル林場、林家など各レベルの関係者を対象としてトレーニングを実施した。森林認証の基礎知識や国内外における森林認証の発展現状と今後の趨勢、及び中国森林認証体系の概要と基準、管理規定と実施規則、FSC基準と中国基準の比較などについて講義し討論した。また、森林認証に関する宣伝チラシを作成し、関係者に配った。

## 18) 湖北省:太子山林場管理局

- **所有形態:** 国有林
- **森林面積:** 0.6 万 ha
- **森林種類:** 人工林
- **主要樹種:** コウヨウザン(杉木)、バビショウ(馬尾松)
- **主な活動:**

**現状の把握。**2009年に現地調査を行い、経営管理の現状や問題点を明らかにした。

**とトレーニングの実施。**関係者に対するトレーニングを実施した。森林認証の重要性を宣伝した。

**模擬審査の準備。**森林認証に向けての活動計画を立てた。

## 19) 山西省:中条山国有林管理局

- **所有形態:** 国有林
- **森林面積:** 24.14 万 ha
- **森林種類:** 天然林と人工林
- **主要樹種:** カラマツ等
- **主な活動:**

**トレーニングの実施。**2008年11月に山西省侯馬市中条山国有林管理局にて中条山国有林管理局及び所属林場の関係者を対象にトレーニングを実施した。

**模擬審査の実施。**トレーニングと技術指導を実施する上で、同管理局に所属する祁家河林場で模擬審査を実施した。模擬審査の過程で、同管理局に所属するそのたの林場の管理と技術関係者を参加させ、現行の経営方式と森林認証基準との差や管理体制、経営技術などに存在する問題を理解し、森林認証の基本プロセスを理解してもらうのが目的である。

## 20) 遼寧省:清原満族自治県

- **所有形態:** 集体林、私有林
- **森林面積:** 30.8 万 ha
- **森林種類:** 天然林と人工林
- **主要樹種:** カラマツ、シラカンバ等
- **主な活動:**

**現状の把握。**郷鎮集体林場や私有林を対象に現地調査を行い、森林資源や森林経営の現状を把握した。

**トレーニングの実施。**林業行政部門、林場、郷鎮林業ステーションの管理者と技術者、森林所有者などを対象にトレーニングを実施した。

**森林経営計画の編制。**技術支援グループの専門家は、国家林業局の「森林経営方案の編制と実施綱要(試行)」や「中国森林認証基準」に基づいて、清原県の実情に合わせて現地の専門家と共同で『清原満族自治県集体林経営方案』及び『清原満族自治県森林持続可能な経営計画(国有林と集体林を含む)』を編制した。この二つの計画は全て実施している。

## 21) 貴州省:錦屏県国有林場

- 所有形態: 国有林
- 森林面積: 0.18 万 ha
- 森林種類: 主に人工林
- 主要樹種: コウヨウザン、バビショウ
- 主な活動:

**現状把握。**2008 年 8 月に錦屏県の国有林場及び所属する経営管理ステーションを考察し、森林経営と管理の現状を把握した。

**トレーニングの実施。**森林認証の基本知識及び中国森林認証の指標体系、認証基準、審査の重点、認証要件などを纏めて教材を編制し、2008 年 9 月に県林業行政部門、国有林場、経営管理ステーションの管理者と技術者を対象にトレーニングを実施した。また、2009 年 3 月に技術指導を行い、森林認証に必要な材料の収集と準備などについて指導した。

**森林経営計画の編制。**2009 年 3 月から、錦屏県林業局は編制グループを黔東南州林業局に派遣して見学し、「森林経営方案の編制と実施綱要(試行)」や「中国森林認証基準」に基づいて、県の管轄する国有林場の『森林経営方案』の編制に着手した。現在、『森林経営方案』の初稿が既に完成され、専門化の意見を聴取してから修正し、提出する予定である。

## 22) 陝西省:竜草坪林業局

- 所有形態: 国有林
- 森林面積: 2.1 万 ha
- 森林種類: 天然林
- 主要樹種: トドマツ(冷杉)、トウヒ(云杉)等
- 主な活動:

**トレーニングの実施。**2008 年 12 月と 2009 年 4 月に、計 2 回の森林認証トレーニングを実施した。

## 2.3 中国におけるFSC、PEFC、FIPC 認証の進展

### 2.3.1 FSC 認証の進展

#### 1) FSC 森林経営認証

表 3-1 に示すように、2010 年 12 月 31 日までに、中国国内において FSC 森林経営認証を取得した森林経営件数は合計 21 件であり、2008 年の15件より 6 件増加し、40.0%増であった(図 3-1)。認証した森林面積は 1,365,779ha であり、2008 年の 963,070ha より 402,709 ha 増加し、41.82%増であった(図 3-2)。

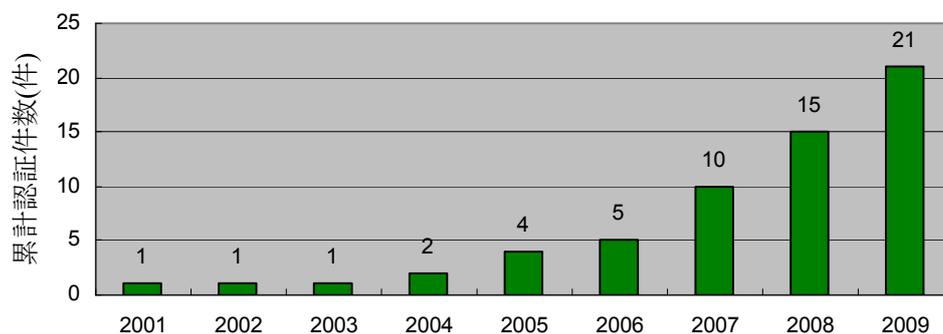


図 3-1 FSC 森林経営認証の累計取得件数

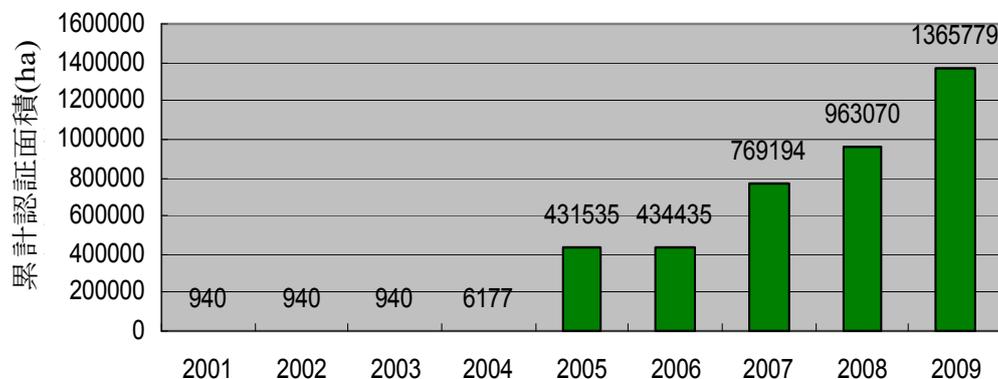


図 3-2 FSC 森林経営認証の累計認証面積

森林の種類から見ると、FSC に認証された森林の中では、天然林と人工天然混交林が 1,335,764ha であり、全体の 97.80%を占めており、人工林面積が 30,015ha であり、全体の 2.20%を占めている(図 3-3)。

森林の所有形態から見ると、国有林が主体で、認証面積は 1,167,216ha で、全体の 85.46%を占めている。それ以外に、集体林が 9,542ha、社有林が 45,233ha、国有林と集体林の混在林が 143,788ha で、全体に占める割合はそれぞれ 0.70%、3.31%、10.53%である(図 3-4)。

表 3-1 FSC 森林経営認証を取得した森林経営企業一覧表

序号	企業名称	所在地	面積 (ha)	森林種類	所有形態	審査機関
1	八達嶺林場	北京市	2900	天然林と人工天然の混交林	国有林	GFA
2	白河林業局	吉林省	182375	天然林と人工天然の混交林	国有林	SGS
3	曹県恒達木製品有限公司	山東省	300	人工林	社有林	GFA
4	昌化林場	浙江省	873	人工林	集体林	IMO
5	朝阳兴河木業有限公司	遼寧省	12588	人工林	国有林	SGS
6	東方紅林業局	黒竜江省	304888	天然林と人工天然の混交林	国有林	GFA
7	敦化林業局	吉林省	171594	天然林と人工天然の混交林	国有林	BV
8	福建金森林業股分(株式)有限公司	福建省	27571	天然林と人工天然の混交林	国有林と集体林	SGS
9	永安林業集团有限公司	福建省	116217	天然林と人工天然の混交林	国有林と集体林	SGS
10	富陽大禾竹林管理協会	浙江省	1106	天然林と人工天然の混交林	集体林	IMO
11	銘基木業有限公司	江蘇省	7100	人工林	社有林	IMO
12	江西南方林場	江西省	2793	天然林と人工天然の混交林	社有林	SCS
13	浙江開化林場	浙江省	12649	天然林と人工天然の混交林	国有林	IMO
14	雷州翠宏木業有限公司	広東省	1972	天然林と人工天然の混交林	社有林	SGS
15	龍泉能福造林專業合作社	浙江省	7563	天然林と人工天然の混交林	集体林	SW

序号	企业名称	所在地	面積 (ha)	森林種類	所有形態	審査機関
16	穆梭林業局	黒竜江省	230405	天然林と人工天然の混交林	国有林	SW
17	嘉耀林業發展有限公司	広東省	9154	人工林	社有林	SW
18	万豊林業發展有限公司	浙江省	3584	天然林と人工天然の混交林	社有林	IMO
19	姿源国立珍珠山林場	江西省	6834	天然林と人工天然の混交林	国有林	IMO
20	友好林業局	黒竜江省	242983	天然林と人工天然の混交林	国有林	SGS
21	浙江永裕竹業開発有限公司	浙江省	20330	天然林と人工天然の混交林	社有林	GFA

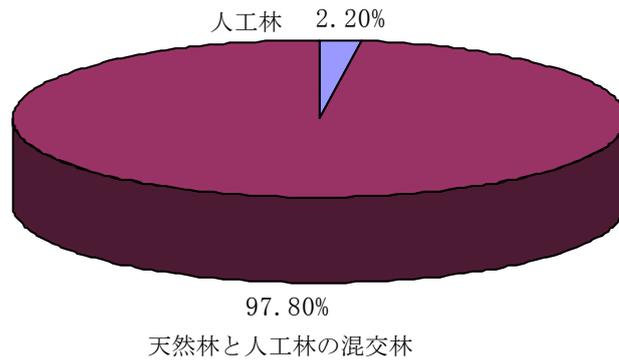


図 3-3 FSC-FM 認証を取得した森林の森種構成

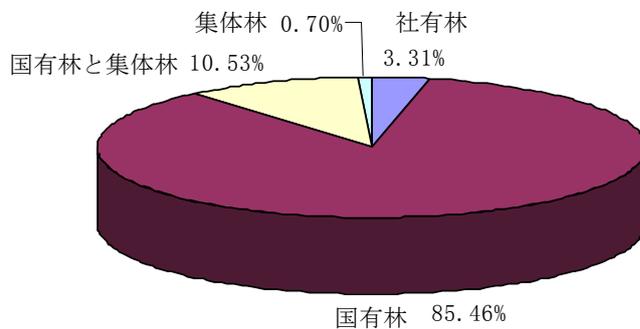


図 3-4 FSC-FM 認証を取得した森林の所有形態

いままでに主に 6 つの認証機関が中国国内で活躍している。審査を担当した認証面積から見ると、SGS が 42.47%のシェアを占めており、GFA が第 2 位で 24.05%のシェアを占めている。その他に、SmartWood が 18.09%、BV12.56%、IMO が 2.35%、SCS が 0.20%となっている(図 3-5)。

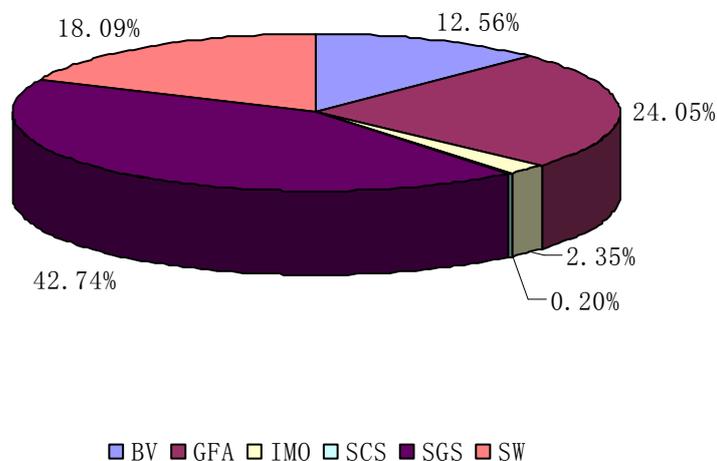


図 3-5 FSC-FM 認証を担当した認証機関の割合(面積ベース)

図 3-6 に示すように、各認証機関の認証件数から見ると、SGS と IMO の件数をもっとも多く、

共に総件数の 28.57%を占めている。第 3 位は GFA で、総件数の 19.05%を獲得しており、第 4 位は SW で、同 14.29%である。BV と SCS がもっとも少なく、共に総件数の 4.76%を占めている。

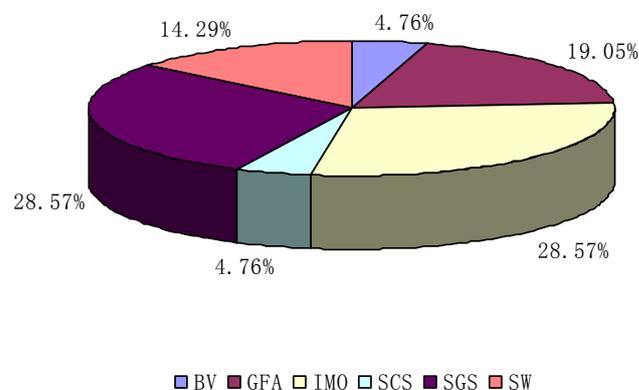


図 3-6 FSC-FM 認証審査を担当した認証機関の割合 (件数ベース)

SGS は最も早くから FSC 森林経営認証に参加した認証機関であり、中国で最初の FSC 森林経営認証はほとんど SGS が審査を担当したものであった。例えば、白河林業局や友好林業局は全て面積の大きい国有林経営部門であるため、SGS が中国で最も大きいシェアを占めることも当然である。しかし、中国における森林認証の発展と市場の拡大につれて、益々多くの認証機関が中国に進出し、競争が激しくなり、SGS の独占的な優位性が徐々に弱まり、中国の森林認証市場が分散化の方向へ発展し、各認証機関が均等に市場を占有する局面が形成されつつある。

## 2) FSC 生産流通管理認証

近年、世界的な環境保護問題が世界的注目される中で、中国の多くの林産品加工企業は森林保護の重要性を認識し、社会責任を自主的に果たす企業イメージを樹立し、海外市場を確保するために、FSC 認証を求めようになった。このために、中国国内の FSC-CoC 認証件数はより速いスピードで増加している。図 3-7 に示すように、2009 年 12 月 31 日までに、中国国内で FSC-CoC 認証を獲得した企業数は 967 社にのぼり、2008 年より 359 社増加し、増加率は 59.05%であった。

地域分布から見ると、中国国内で FSC-CoC 認証を獲得した企業は、主に東北地域の黒龍江省、吉林省、遼寧省と東南沿海地域の広東省、浙江省、江蘇省に集中し、この二つの地域の FSC-CoC 認証を獲得した企業数は全体の 80%以上を占めている(図 3-8)。東北地域は中国の重点国有林地帯で伝統的な木材産地あり、豊富な森林資源を有し、産業の基礎も比較的が良い。広東省は中国の家具輸出基地であり、林産加工業の発展が速い。浙江省や江蘇省は経済が発達しており、国際市場との連携が緊密で、市場に対する敏感度が高い。したがって、これらの地域の企業は FSC-CoC 認証を取る意欲はその他の地域より強く、現在の分布状況を形成したわけである。

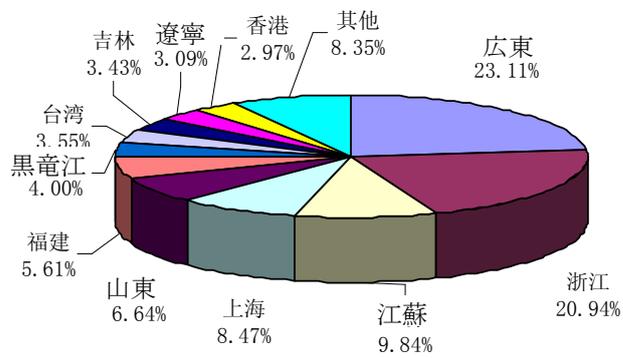
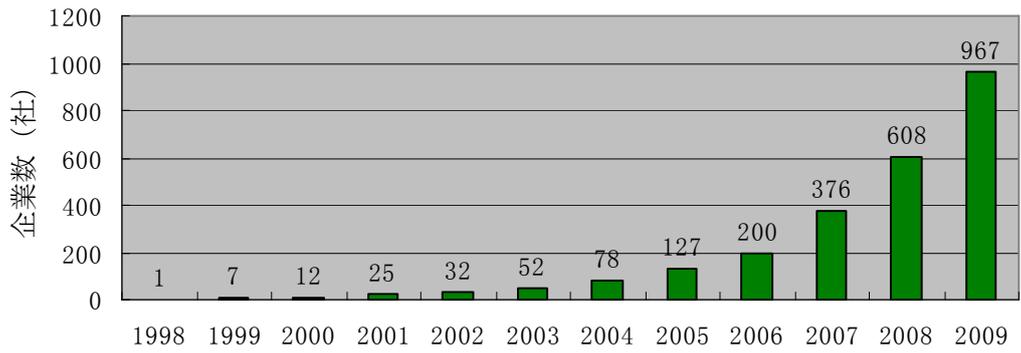


図 3-8 FSC-CoC 認証を取得した企業の地域分布

各認証機関の認証件数から見ると、SGS と SW がそれぞれ 53.20%と 13.16%のシェアを占めており、その他の認証機関では、BV が 10.64%、DNV が 8.24%、GFA が 6.64%、SCS が 3.78%、SA が 3.55%、IMO が 0.80%となっている(図 3-9)。

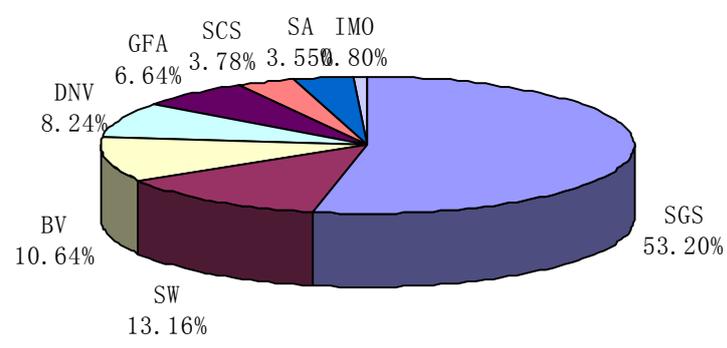


図 3-9 FSC-CoC 認証審査を担当した認証機関の割合(件数ベース)

全体的に見ると、SGS と SW は最も早くから中国で森林認証の普及と促進に取り込んできた認証機関であるため、両者が絶対的な優位性を持っている。近年、その他の認証機関も中国における森林認証の潜在的な市場を認識し、積極的に進出するようになった。例えば、BV や DNV の

成長は極めて速い。今後も各認証機関が均等に市場を占有するようになると予測される。

### 3) FSC 中国国家イニテアティブの進展

2009年に、FSC 中国国家イニテアティブは新しい進展を見せた。会員数はすでに165名になり、前年度より20.4%増加した。これらの会員はFSC認証の環境、経済、社会などの領域に活躍され、中国におけるSFCの発展に重要な役割を果たしている。

### 4) FSC 中国森林認証基準の制定

2009年に、内部討論やFSC国際センターとの交流を経て、FSC 中国国家イニテアティブは、FSC 中国森林認証基準の制定をスタートさせると決定した。現在、既に9人からなる基準制定ワークグループを組成し、具体的な制定作業や事務などに当たっている。また、32人からなる外部専門家グループを組成し、基準制定に関わる技術支援を担当する。

2009年12月に、FSC 中国国家イニテアティブはFSC国際センターの専門家を招いてFSC中国森林認証基準の制定について講習した。

FSC 中国森林認証基準の制定は2年間で作業を終える予定である。

## 2.3.2 PEFC 認証の進展

### 1) PEFC 生産量通管理認証

図3-10に示すように、2009年に、PEFCは中国において大きな実績を取得した。2009年11月30日までに、中国国内でPEFC-CoC認証を獲得した企業は87社にのぼり、2008年の31家比べて、成長率は180.1%であった。PEFCの森林経営認証は他の認証体系との認可を通じて行う体制になっているため、現在、中国森林認証体系との相互認可が未だに完成されていない故に、中国での森林経営認証は依然として展開していない状況である。

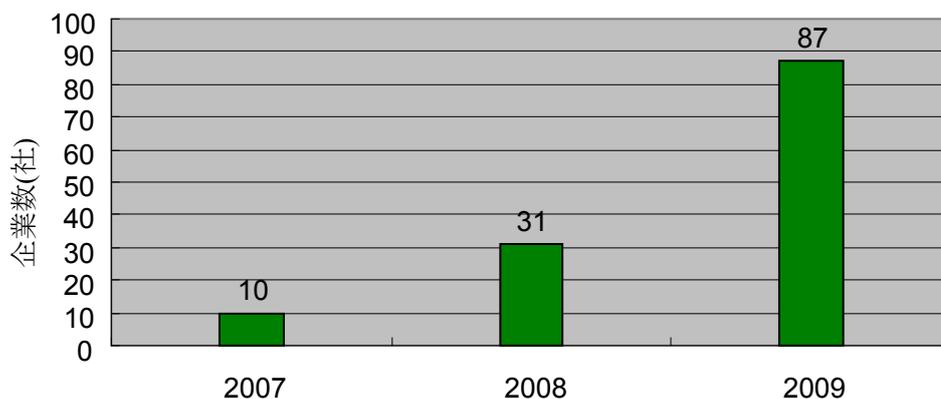


図3-10 PEFC-CoC 認証を獲得取得した企業数の推移

PEFC-CoC 認証を受けた企業の業種から見ると、31社の企業の中で、紙と紙パルプ生産企業が全体63.3%を占めており、木材加工企業が20.48%を占め、印刷と木材貿易企業が1.20%を占めている(3-11)。

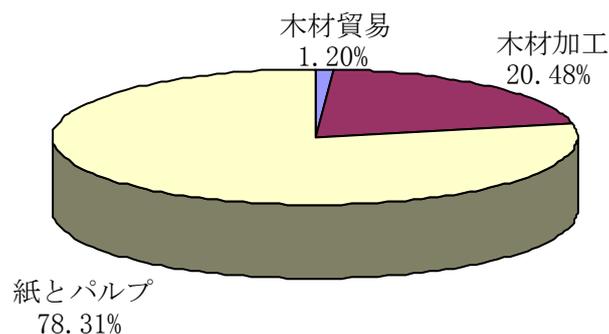


図 3-11 PEFC-CoC 認証を取得した企業の業種構造

これまでに、中国で PEFC-CoC 認証に携わる認証機関は SGS、BV と QMI との 3 社あり、各認証機関が総認証件数に占めるシェアが図 3-12 のとおりである。SGS は 85.54% で、BV は 9.64%、QMI は 4.82% となっており、SGS が絶対的な優位性を持っている。

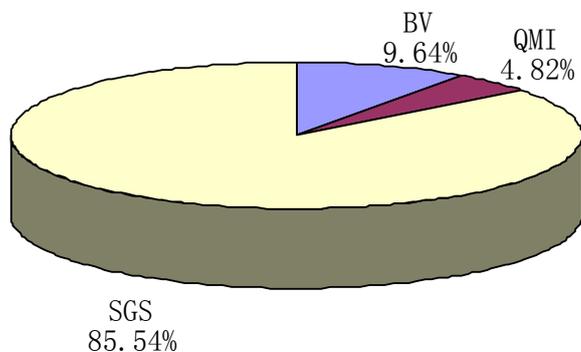


図 3-11 PEFC-CoC 認証を担当した認証機関の割合(件数ベース)

## 2) PEFC 中国事務所

2007 年 10 月 25 日に、PEFC 中国事務所が北京で正式に設置され、主な責務は以下のとおりである。

- 中国における持続可能な森林を支援し、促進すること、
- 中国市場における PEFC 森林認証の認知度の向上に努力すること、
- PEFC-CoC を市場拡大と進出の有力な手段として普及させること、
- 中国林業、木材産業界との交流と協力を強化すること、
- 中国市場に PEFC 認証に関する情報と技術サポートを提供すること。

現在、PEFC 中国事務所は中国関係部門と協力して中国森林認証と PEFC 認証の相互認可を促進し、重要な役割を果たしている。しかし、厳密に言えば、PEFC 中国事務所は、中国における PEFC 管理機関ではなく、普及と推進機関である。PEFC の規定に要求される PEFC 国家管理機構は、中国森林認証委員会であるはずであるが、現在、中国は依然として PEFC の会員国になっておらず、両システムの相互認可も実現されていないため、現段階では中国森林認証委員会が PEFC 国家管理機関の機能を担うことができない。

### 2.3.3 FIPC 認証の進展

現在、中国取得FIPC 認証を取得した中国企業は依然として中国天津嘉成木業会社の1社しかない。同社は2007年にFIPC 認証を取得した。2008年に、同社所属のもう一つの工場が日本JAS 認証を取得し、中国国内で二つ以上の工場が日本JAS 認証を取得した唯一の例となった。

## 2.4 CoC 認証企業の事例

### 企業 A 社

<b>(1) 企業概況</b>
<p><b>主營業種:</b> 鉛筆製造</p> <p><b>所有形態:</b> 私営企業</p> <p><b>職員人数:</b> 100 人以下</p> <p><b>製品の主な市場:</b> 米国、タイ国、インドネシア</p> <p><b>認証の目的:</b> 外国商社の要求、市場開拓、企業競争力の強化</p> <p><b>主な認証製品:</b> 鉛筆と鉛筆板</p> <p><b>認証製品の材料源:</b> 吉林省、黒龍江省</p> <p><b>認証に関わる主な問題:</b> 認証費用が高すぎ、認証コストが高いこと</p> <p><b>認証に対する見方と期待:</b> 認証基準が厳しすぎで、手順が複雑すぎる</p> <p><b>認証基準の中に企業にとって達成し難い部分:</b> 製品データの統計</p> <p><b>認証製品の年生産額:</b> 1000 万ドル以上</p> <p><b>認証原材料の年間使用量:</b> 約 1000-3000m<sup>3</sup></p> <p><b>認証の効果:</b> 貿易中に外国の環境制限を回避した</p>
<b>(2) 生産と流通過程</b>
<b>原材料の購入</b>
<b>購入しようとする認証材の真実性の確認方法:</b> インターネット捜査、供給側の証書の確認
<b>原材料の入荷</b>
<b>原材料の受入:</b> 実物の数量、出荷票、FSC 標識の確認
<b>原材料の分別保存:</b> 種類別に区域分けて保存
<b>製品の生産と加工</b>
<b>生産過程における認証材と非認証材のコントロール:</b> 1 回分ずつ分けて生産
<b>製品の保存と交付</b>
<b>製品の保存:</b> 区域分けて保存
<b>製品の在庫:</b> 認証製品と非認証製品を分けて在庫

製品の交付: FSC 認証製品を明確に標注

## 企業 B 社

### (1) 企業概況

主営業種: 家具

所有形態: 中外合資企業

職員人数: 100-1000 人

製品の主な市場: 米国

認証の目的: 外国商社の要求、市場開拓、企業競争力の強化

主な認証製品: 木製家具

認証製品の材料源: 遼寧省、吉林省

認証に関わる主な問題: 認証材の購入が困難

認証に対する見方と期待: 国際市場への進出に有利

認証基準の中に企業にとって達成し難い部分: 認証材使用割合の計算

認証製品の年生産額: 10-30 万ドル

認証原材料の年間使用量: 1000-3000m<sup>3</sup>

認証の効果: より多くの市場チャンスが得られること

### (2) 生産と流通過程

#### 原材料の購入

認証材の真実性の確認方法: [www.fsc-info.org](http://www.fsc-info.org) による確認、供給側の証書の確認

#### 原材料の入荷

原材料の受入: 実物の数量と材質の確認、入荷票に明記

原材料の分別保存: 認証材を特定の区域で保存

#### 製品の生産と加工

生産過程における認証材と非認証材のコントロール: 生産請求書にしたがって認証材を出庫、認証製品と非認証製品を分けて生産、認証製品の生産数や生産日などを生産票に明記、製品に標識を貼付

#### 製品の保存と交付

<b>製品の保存:</b> 区域分けて保存
<b>製品の在庫:</b> 包装の破損検査、認証標識の検査
<b>製品の交付:</b> 製品交付票に認証製品リストを明記、認証製品声明を添付、認証番号を貼付

## 企業 C 社

<b>(1) 企業概況</b>
<p><b>主営業種:</b> 家具</p> <p><b>所有形態:</b> 香港との合資企業</p> <p><b>職員人数:</b> 100－500 人</p> <p><b>製品の主な市場:</b> 米国、カナダ</p> <p><b>認証の目的:</b> 外国商社の要求、市場開拓と企業競争力の強化、より高い価格で売ること、社会責任をはたすこと</p> <p><b>主な認証製品:</b> ポプラやシラカンバ材のテレビ棚</p> <p><b>認証製品の材料源:</b> 黒竜江省</p> <p><b>認証に関わる主な問題:</b> 認証材の購入が困難、認証標識使用許可の手続きが煩雑、認証に関する中国語の資料が少ないこと</p> <p><b>認証に対する見方と期待:</b> 国際市場への進出に有利、手続きの簡素化、中国語ウェブ整備</p> <p><b>認証基準の中に企業にとって達成し難い部分:</b> 非規則材の換算係数の計算が困難</p> <p><b>認証製品の年生産額:</b> 未だない</p> <p><b>認証原材料の年間使用量:</b> 未だない</p> <p><b>認証の効果:</b> より多くの市場チャンスが得られること、貿易中に外国の環境制限を回避</p>
<b>(2) 生産と流通過程</b>
<b>原材料の購入</b>
<b>認証材の真実性の確認方法:</b> ネットによる確認
<b>原材料の入荷</b>
<b>原材料の受入:</b> FSC 標識の確認
<b>原材料の分別保存:</b> 特定の区域で保存
<b>製品の生産と加工</b>
<b>生産過程における認証材と非認証材のコントロール:</b> 認証製品と非認証製品を異なる時間帯

で分けて生産
<b>製品の保存と交付</b>
製品の保存： 区域分けて保存
製品の在庫： 未だない
製品の交付： 製品交付票に認証製品を明記

## 企業 D 社

<b>(1)企業概況</b>
<p>主営業種： 家具、ブランコ等</p> <p>所有形態： 中外合資企業</p> <p>職員人数： 100 人以下</p> <p>製品の主な市場： 米国、カナダ</p> <p>認証の目的： 外国商社の要求、市場開拓と企業競争力の強化</p> <p>主な認証製品： 松材の板、ブランコ、遊具の梯子等</p> <p>認証製品の材料源： 浙江省</p> <p>認証に関わる主な問題： 認証基準が厳しすぎる、認証手順が煩雑すぎる</p> <p>認証に対する見方と期待： 認証財の比例計算が困難で、簡素化を期待</p> <p>認証基準の中に企業にとって達成し難い部分： 非規則材の換算係数の計算が困難</p> <p>認証製品の年生産額： 10-30 万ドル</p> <p>認証原材料の年間使用量： 100m<sup>3</sup> 以下</p> <p>認証の効果： まだ見えない</p>
<b>(2)生産と流通過程</b>
<b>原材料の購入</b>
認証材の真実性の確認方法： <a href="http://www.fsc-info.org">www.fsc-info.org</a> による確認、FSC 認証証書を確認
<b>原材料の入荷</b>
原材料の受入： 原材料の数量、FSC 声明、木材級別、FSC 認証番号を確認
原材料の分別保存： 非認証材と分別して保存

<b>製品の生産と加工</b>
生産過程における認証材と非認証材のコントロール： 認証製品専用の生産ラインを設置
<b>製品の保存と交付</b>
製品の保存： 認証製品専用の倉庫を設置
製品の在庫： 在庫票を明記
製品の交付： 認証標識を貼付

## まとめ

グローバルにはロシアの原木輸出関税の引き上げ政策、米国のサブプライムローン不景気、引き続き世界的な金融危機による欧米の不景気、原料輸出国の原木輸出制限政策、世界的な合法木材・森林認証に対する要求の高まり、人民元価値の値上がり、国内的には、不動産投資へのマクロ経済調整による建設不振、原料不足、労働者の賃金値上げ政策、人民の購買力成長などが、2008 年後半から中国の木材流通構造を変えつつある。従来の来料加工、低賃金、集約労働型、低次加工、低価格製品の大量生産、輸出のビジネスパターンがボトルネックに行きあたっている。ロシアの原木、アフリカ、東南アジアの天然木の大量輸入が、上記要因により、ロシアからは原木輸入の減少と製材品輸入の増加、合法木材政策の先進諸国であるニュージーランドの人工林ラジアータ原木輸入の増加や北米、特に、カナダからの製材輸入の大幅な増加、ガボンなどの原木輸出制限政策、主要な木材製品の輸出先である欧米、日本市場における合法木材製品への要求の高まり、国内的には中国独自の森林認証、CoC 国家基準の制定の動きが、中国における木材流通・利用を合法材に向けて大きく動かしている。木材流通の形式、ルートもかなり大きい変化がある。金融危機を通じて、従来型企業の大幅なリストラが起こり、加工技術、生産物も、従来の単一、低次加工産物の大量生産から、各級政府の木材利用効率の高度化誘導政策や、企業の人工林材の加工利用技術の大幅なアップ、ブランド力、情報力でグローバルな市場を相手できる企業が、今回の金融危機でも、外需から内需へと素早く対応して業績を伸ばした。中国の国内市場はキャパシティが大きく、製品需要も幅広く、また、輸出市場も中近東、東欧などに広がっているため、従来型のビジネスモデルも存続し続けるが、中国の木材利用は、世界一の人工林造成を背景に、確実に、合法材利用に向かっている。